

# 事務事業評価シート（1/2）

865 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0289  
 評価年度 令和 3年度  
 所属 2455  
 事務事業番号 01435

進捗区分 評価完了  
 所属長名 山田 知里雄  
 記入者 山田 知里雄

教育委員会教職員室  
 教職員健康診断事業

## 【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります				
基本政策	001	子どもの未来が輝くまちにします				
施策	003	子どもの教育の充実				
取組の方向性	002	特色ある学校づくりの推進				
事務事業	001	教職員健康診断事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	その他					
評価区分	対象	主な取組区分	対象外			
根拠法令等	学保安法第15条施行規則第13条, 第14条, 労安衛法第66条の10					
事業概要	(事業概要) 学校保健安全法第15条に基づき、教職員の健康診断を、労働安全衛生法に基づきストレスチェックを実施することにより、教職員の健康管理、保持増進を図る。					
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	(事業を取りまく社会環境) 脳・血管・心臓疾患につながる内臓脂肪症候群等の所見を有する労働者が増加している。また、精神疾患による私傷病休暇取得者や病気休職者も一定数ある。 (見直しや改善等の経過) 平成21年度から夏季休業中の健診時期を変更、胃検診を同時受診とした。平成26年の労働安全衛生法一部改正に伴い、平成27年にストレスチェックが義務化、平成28年度からストレスチェックを実施している。					

## 【事業分析】

対象(何又は誰を)	県費教職員、市費教職員（胃部検診のみ）を対象
目的(何のために)	教職員の健康状況を把握し、自己管理および適切な治療等に役立て、教職員の健康管理に努めるため。
手段(どのようなやり方で)	教職員健康診断（全員対象）と胃検診（40歳以上の教職員）の実施と検診結果の把握を行う。
成果(どのような状態にするのか)	教職員の健康の保持・増進を図るとともに、子どもたちに接することに適した健康状態を保つ。

## 【コスト】

(単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	16,942	17,544	19,679	19,856	19,856	19,856	19,856
事業費	14,974	15,624	17,643	17,820	17,820	17,820	17,820
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
一般財源	14,974	15,624	17,643	17,820	17,820	17,820	17,820
人件費計	1,968	1,920	2,036	2,036	2,036	2,036	2,036
事務・技術(人)	0.24	0.24	0.24	0.24	0.24	0.24	0.24
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02
会計年度任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

整理番号 0289  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2455 教育委員会教職員室  
 事務事業番号 01435 教職員健康診断事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-30-05-16-00-22-00	教職員健康診断事業費	教育委員会教職員室

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値							
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	
(活動)健康診断受診者 (県費教職員)	人	1,570.00	1,570.00	1,570.00	1,570.00	1,570.00	1,570.00	1,570.00	
		1,632.00	1,640.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(活動)ストレスチェックの受検率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	
		91.30	96.90	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果)健康診断受診率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	
		98.00	99.33	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果)精神疾患休職人数R3～「高ストレス者の面談率」	人	15.00	7.50	10.00	12.50	12.50	12.50	12.50	
		8.00	2.70	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
評価理由	学校保健安全法や労働安全衛生法等に基づき実施の必要がある。		
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	B
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
評価理由	健康診断は夏季休業中の実施とし受診率の向上を図っている。		
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	A
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
評価理由	健康診断と胃部検診を同時に実施し、効率的に実施できている。		
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
評価理由	疾病の早期発見や健康管理を促す指導につながっている。		
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	健康診断事業については、受診率の向上に向けて効率的に進めることができた。今後は、法定の健康診断の項目外ではあるが、悪性新生物（がん）の早期発見のため、がん検診の受検についても啓発と勧奨を行っていく。また、ストレスチェック事業についても、受検率の向上に向けての取組や高ストレス判定者への面接指導機会の創出に関する工夫等、改善を図り実施した。今後、さらに、高ストレス判定者への面接率の向上に向け検討していく必要がある。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
部局コメント (400文字)	本市教職員の健康管理事業を推進し、子供たちに接する業務に適した健康状態を教職員が保持するため、受診率向上に努める。		



# 事務事業評価シート（1/2）

868 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0290  
 評価年度 令和 3年度  
 所属 2455  
 事務事業番号 02671

進捗区分 評価完了  
 所属長名 山田 知里雄  
 記入者 山田 知里雄

教育委員会教職員室  
 教職員人事管理事業

## 【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります				
基本政策	001	子どもの未来が輝くまちにします				
施策	003	子どもの教育の充実				
取組の方向性	002	特色ある学校づくりの推進				
事務事業	008	教職員人事管理事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	直営					
評価区分	対象	主な取組区分	対象外			
根拠法令等	大津市立小中学校教員不祥事防止対策検討委員会答申					
事業概要	(事業概要) 大津市立小中学校教職員による不祥事の防止に向け、外部専門家による大津市立小中学校教員不祥事防止対策検討委員会を設置し、具体的な対策について検討を行った。その答申を受け、市立小中学校教職員による不祥事を未然に防ぐために、弁護士や臨床心理士、精神科医等の専門家による研修を各校で実施し、教職員の規範意識や倫理観の向上、ストレスマネジメントや同僚性の醸成を図る。					
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	(事業を取りまく社会環境) 小中学校教職員に求められる規範意識や倫理観はきわめて高く、公私を問わず教職員の言動について児童生徒への影響は非常に大きい状況であることから、教職員の不祥事防止に関する取組は重要である。 (見直しや改善等の経過) 平成28年度から実施の事業であるが、平成30年度には不祥事が複数発生したことから、教職員一人ひとりが自分事として捉えられる研修内容への変更と職階別、年齢別の研修を取り入れ、実施する必要がある。					

## 【事業分析】

対象(何又は誰を)	大津市立小中学校教職員を対象
目的(何のために)	大津市立小中学校教職員による不祥事を防止するため。
手段(どのようなやり方で)	弁護士や臨床心理士等の専門家を招聘した、不祥事撲滅研修を市立小中学校全校で実施する。
成果(どのような状態にするのか)	市立小中学校教職員が教育公務員としての崇高な使命と誇りを自覚し、規範意識や倫理観を向上するとともに、職場の同僚性を醸成する中で職員間の自浄機能を向上させ、教職員による不祥事を防止する。

## 【コスト】

(単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	8,641	7,935	8,638	8,864	8,864	8,864	8,864
事業費	6,591	5,935	6,638	6,864	6,864	6,864	6,864
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
一般財源	6,591	5,935	6,638	6,864	6,864	6,864	6,864
人件費計	2,050	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
事務・技術(人)	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

整理番号 0290  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2455 教育委員会教職員室  
 事務事業番号 02671 教職員人事管理事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-05-15-36-00-05-00	教職員人事管理事業費	教育委員会教職員室

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値						
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
(活動)市立小中学校での研修実施校数	校	54.00	54.00	54.00	54.00	54.00	54.00	54.00
		54.00	54.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(活動)職階別、年齢別等の研修の実施回数	回	0.00	11.00	11.00	11.00	11.00	11.00	11.00
		0.00	11.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(成果)不祥事発生数	件数	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
		0.00	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
評価理由	サービス監督者として教職員の不祥事防止に関する取組は必要である。		
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	B
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
評価理由	外部講師による研修を実施することで未然防止につながっている。		
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	A
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
評価理由	外部講師による研修ビデオを配信する等し、効率的に実施できた。		
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
評価理由	教職員として服務規律を遵守する事や資質の向上に貢献している。		
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	夏季休業中に実施している不祥事撲滅研修に加え、教職経験年数に応じた内容の研修を実施した。今後も引き続き、研修内容や研修方法等、現状に応じた工夫改善を行いながら研修を実施し、不祥事防止に向けた教職員の意識向上を図っていく。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
部局コメント (400文字)	教職員としての使命を自覚させ規範意識や倫理観を高めていくことが、本市学校教育への信頼を高めることに繋がる。教職員一人ひとりの心に響く不祥事防止研修に努める。		



# 事務事業評価シート（1/2）

整理番号 0291  
評価年度 令和 3年度  
所属 2402  
事務事業番号 00072

進捗区分 評価完了  
教育委員会学校教育課  
学校支援総合推進事業〔小・中学校〕

所属長名 中野 啓一  
記入者 北 瑞貴

【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります				
基本政策	001	子どもの未来が輝くまちにします				
施策	003	子どもの教育の充実				
取組の方向性	002	特色ある学校づくりの推進				
事務事業	004	学校支援総合推進事業〔小・中学校〕				
新規継続区分	継続					
運営方法	直営					
評価区分	対象	主な取組区分	対象			

根拠法令等	市実施要項					
事業概要	<p>(事業概要)</p> <p>地域・家庭・学校が目標を共有し、地域ぐるみで子どもの成長を支えるコミュニティ・スクールの実施・運営を推進するとともに、中学校区を単位とした校種を超えた連携を進め、子どもの育ちや学びの連続性を一層重視した一貫的な教育を行う。</p>					
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	<p>(事業を取りまく社会環境)</p> <p>子どもたちの健全な育成、安心・安全な学校づくりのために、地域ぐるみで子どもを育てる体制や就学前から中学校卒業までを見通した一貫した教育課程の充実が求められている。令和2年度以降、新型コロナウイルス感染拡大により、外部人材の活用が制限され、地域ぐるみで子どもを育てる体制作りが難しくなっている。(見直しや改善等の経過)</p> <p>コミュニティ・スクール事業、保幼小中連携推進事業を学校支援総合推進事業に統合し、地域、家庭、各学校の連携・協働を推進している。平成31年度には部活動外部指導者の活用も本事業に統合したが、令和3年度より別事業となった。</p>					

【事業分析】

対象(何又は誰を)	市立55校において
目的(何のために)	地域の学校園が連携し、家庭や地域社会との結びつきを深め、地域ぐるみで子どもの成長を支える体制をつくるために
手段(どのようなやり方で)	校種を超えた学校間での研修等の交流や地域ぐるみで子どもを育てる体制に対する支援を行うことにより
成果(どのような状態にするのか)	地域・家庭・学校が連携・協働して教育活動の質を高める。

【コスト】

(単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	14,424	13,285	17,001	17,379	17,629	17,629	17,629
事業費	6,995	6,445	10,161	10,539	10,789	10,789	10,789
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
一般財源	6,995	6,445	10,161	10,539	10,789	10,789	10,789
人件費計	7,429	6,840	6,840	6,840	6,840	6,840	6,840
事務・技術(人)	0.79	0.70	0.70	0.70	0.70	0.70	0.70
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	0.31	0.40	0.40	0.40	0.40	0.40	0.40
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

整理番号 0291  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2402 教育委員会学校教育課  
 事務事業番号 00072 学校支援総合推進事業〔小・中学校〕

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-05-15-30-00-01-00	学校支援総合推進事業費〔小・中学校〕	教育委員会学校教育課

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値							
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	
(活動)学校支援総合推進事業活動状況	回	1,100.00	1,100.00	1,100.00	1,100.00	1,100.00	1,100.00	1,100.00	
		904.00	642.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果)家庭・地域との連携に関する学校評価	点	2.80	2.80	2.80	2.80	2.80	2.80	2.80	
		2.40	2.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
		評価理由	
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	B
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
		評価理由	
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	A
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
		評価理由	
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
		評価理由	
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	地域・家庭・学校が連携・協働して地域ぐるみで子どもを育てるため、令和6年度までにすべての市立小中学校でコミュニティ・スクールを設置し、充実した活動ができるように支援する。また、令和3年度はコロナの影響により活動指標の目標に届いていないが、実施方法の工夫などを行った結果、家庭・地域との連携に関する学校評価が昨年度に比べ向上した。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
部局コメント (400文字)	地域・家庭・学校が連携・協働して教育活動の質を高め、社会総がかりで「目指す子ども像」の実現を目指す。		





# 事務事業評価シート（1/2）

整理番号 0292  
評価年度 令和 3年度  
所属 2402  
事務事業番号 00089

進捗区分 評価完了  
教育委員会学校教育課  
う歯歯周疾患等予防事業

所属長名 中野 啓一  
記入者 川原 綾子

【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります				
基本政策	001	子どもの未来が輝くまちにします				
施策	003	子どもの教育の充実				
取組の方向性	002	特色ある学校づくりの推進				
事務事業	014	う歯歯周疾患等予防事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	その他					
評価区分	対象	主な取組区分	対象外			

根拠法令等	学校保健安全法第14条				
事業概要	<p>(事業概要) 児童生徒が、歯や口の健康上の問題を自分で考え、処理できるような習慣や態度を身につけさせるため「口腔疾患指導対策事業、歯科保健指導、歯と口の健康週間事業」を実施し、生涯を通じて健康な生活を送るための基礎を培う。</p>				
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	<p>(事業を取りまく社会環境) う歯保有率は低下しているものの、歯周病や歯肉炎等の口腔疾患が増加傾向にあるために、適切に歯磨きの習慣を身につけ、歯科保健教育等を通じて、生涯にわたり口腔疾患を予防できることが重要である。 (見直しや改善等の経過) H29年度より歯と口の健康週間事業については、1次選考を校内で実施し、表彰式を学校表彰に見直しを図った。令和4年度より、大津市の歯科保健施策の一つとして、フッ化物洗口をモデル校で導入し、実施検証を行う。</p>				

【事業分析】

対象(何又は誰を)	小学3年生、6年生対象に歯科医師、歯科衛生士による歯科保健指導及びブラッシング指導、小中学校希望校で口腔疾患指導対策事業、小中学校で歯と口の健康週間事業
目的(何のために)	児童・生徒が生涯を通じて歯科衛生に関心を持ち、健康な生活を送るための基礎を培うため、
手段(どのようなやり方で)	大津市歯科医師会へ委託し、歯科医師・歯科衛生士によるブラッシング指導・歯科保健指導等の実施と歯と口の健康週間事業の応募作品審査を行う
成果(どのような状態にするのか)	児童・生徒が、歯や口の健康上の課題に関心を持ち、う歯・歯周疾患等の予防と自己の健康管理に役立て、健康の保持増進を図る。

【コスト】

(単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	0	2,414	6,049	6,291	6,291	6,291	6,291
事業費	0	1,934	5,569	5,811	5,811	5,811	5,811
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
一般財源	0	1,934	5,569	5,811	5,811	5,811	5,811
人件費計	0	480	480	480	480	480	480
事務・技術(人)	0.00	0.06	0.06	0.06	0.06	0.06	0.06
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

875 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0292  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2402 教育委員会学校教育課  
 事務事業番号 00089 う歯歯周疾患等予防事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-30-05-16-00-28-00	う歯歯周疾患等予防事業費	教育委員会学校教育課

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値						下段：実績値	
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	
(活動) 歯科保健指導事業実施校数	校	0.00	37.00	37.00	37.00	37.00	37.00	37.00	
		0.00	34.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(活動) 口腔疾患指導対策事業実施校数	校	0.00	21.00	21.00	21.00	21.00	21.00	21.00	
		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果) 口腔疾患指導対策事業実施率	%	0.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	
		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
		評価理由	
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	A
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
		評価理由	
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	A
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
		評価理由	
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
		評価理由	
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	今後も感染症対策を講じながら、IT機器を利用し、歯科医師、歯科衛生士による歯科保健指導等をすすめていく		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
部局コメント (400文字)	歯科医師による歯科保健指導は、児童生徒の口腔疾患予防に有効であることから、事業の効率化を図りながら実施する。		



# 事務事業評価シート（1/2）

整理番号 0293  
評価年度 令和 3年度  
所属 2402  
事務事業番号 00120

進捗区分 評価完了  
教育委員会学校教育課  
国際理解推進充実事業

所属長名 中野 啓一  
記入者 松浦 哲洋

## 【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります				
基本政策	001	子どもの未来が輝くまちにします				
施策	003	子どもの教育の充実				
取組の方向性	002	特色ある学校づくりの推進				
事務事業	002	国際理解推進充実事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	その他					
評価区分	対象	主な取組区分	対象外			
根拠法令等	学習指導要領 市要項					
事業概要	(事業概要) 質の高い英語教育を実施するため、ALTを配置する。					
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	(事業を取りまく社会環境) グローバル化の進展の中で、国際共通語である英語力の向上が重要となり、義務教育段階においても、新しい学習指導要領に基づく英語教育が、小学校では令和2年度から、中学校では令和3年度から始まり、実際のコミュニケーション場面において活用できる能力の育成が求められている。 (見直しや改善等の経過) ALTの活用状況に応じて学校間の配置を見直し、最適な配置に努めることにより、授業におけるALTの活用率は年々増加し、質の高い英語教育が行われている。					

## 【事業分析】

対象(何又は誰を)	市立中学校生徒並びに市立小学校児童を対象として
目的(何のために)	英語活用能力及びコミュニケーション力を向上し社会のグローバル化に対応できる人材を育成するために
手段(どのようなやり方で)	外国語指導助手を配置し複数の指導者で授業や支援を行い
成果(どのような状態にするのか)	児童生徒の英語、国際理解、多文化理解に対する関心・意欲とコミュニケーション力の向上を図れるようにする。

## 【コスト】

(単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	163,742	153,522	154,110	152,078	151,880	151,880	151,880
事業費	158,740	148,642	149,230	147,198	147,000	147,000	147,000
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
一般財源	158,740	148,642	149,230	147,198	147,000	147,000	147,000
人件費計	5,002	4,880	4,880	4,880	4,880	4,880	4,880
事務・技術(人)	0.61	0.61	0.61	0.61	0.61	0.61	0.61
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

878 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0293  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2402 教育委員会学校教育課  
 事務事業番号 00120 国際理解推進充実事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-05-15-27-00-01-00	国際理解推進充実事業費	教育委員会学校教育課

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値							
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	
(活動)外国語指導助手 配置人数	人	40.00	32.00	32.00	32.00	32.00	32.00	32.00	
		34.00	32.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果)ALTに関する アンケート調査での肯 定の回答の割合	%	80.00	90.00	95.00	95.00	95.00	95.00	95.00	
		93.00	95.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥 当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
評価理由	ALT配置は、質の高い英語教育を実施するため、妥当である。		
2 有効性	事業分析の「成果」欄 に記載の成果は上がっ ているか	A 上がっている	A
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
評価理由	子どもの実践的コミュニケーション能力が向上している。		
3 効率性	事業手法は効率的であ るか	A 効率的である	A
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
評価理由	学校規模や活用状況に応じて効率的に配置している。		
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献 しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
評価理由	ALTを効果的に活用し、質の高い英語教育を実施した。		
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	今後も学校規模や活用状況に応じて、ALTの効果的な配置を計画して、コミュニケーション重視の質の高い英語教育の充実を図っていく。また、ICT機器を活用したALTの効果的な活用方法について研究を行う。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
部局コメント (400文字)	社会のグローバル化に対応できる人材の育成のため、外国語教育の一層の充実を図るとともに、児童生徒の国際理解、多文化理解が進むよう支援する。		



# 事務事業評価シート（1/2）

880 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0294  
評価年度 令和 3年度  
所属 2402  
事務事業番号 00126

進捗区分 評価完了  
教育委員会学校教育課  
体験的学習推進事業

所属長名 中野 啓一  
記入者 植西 智也

## 【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります				
基本政策	001	子どもの未来が輝くまちにします				
施策	003	子どもの教育の充実				
取組の方向性	001	将来の夢を広げ次代を生き抜く力の育成				
事務事業	002	体験的学習推進事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	直営					
評価区分	対象	主な取組区分	対象外			

根拠法令等 市実施要項 県自治振興交付金交付規則・実施要綱

事業概要  
(事業概要)  
【体験的学習推進事業】子ども一人ひとりに豊かな感性と自律心、社会規範と道徳観、人間関係づくり、社会貢献など、人間としてのあり方や生き方を深く考えさせ、学校で取り組む体験的学習の充実を図ることにより、集団生活や社会生活をおくる上で人間として必要な資質・能力や態度を育成する。  
【中学生チャレンジウィーク事業】中学生が働く大人の生きざまに触れ、自分の生き方を考える機会とし、進路選択できる力や将来社会人として自立できる力を育てるとともに、地域と連携を深め、地域で子どもを育てる機運を高める。

事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し  
(事業を取りまく社会環境)  
自然や地域社会と深く関わる機会が減少し、人間関係がうまくつけない子どもの増加等が社会的に問題になっている。  
(見直しや改善等の経過)  
体験的学習の予算を各学校で執行できるようにしたことにより、事務手続きが簡素化され、学校がよりスムーズに、また効果的に事業を推進できるようになった。また、中学生チャレンジウィーク事業は、新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、学校や地域の感染状況を十分に考慮し、保護者や地域、協力事業所等の理解を得た上で、キャリア教育を推進するための教育活動を行うこととした。

## 【事業分析】

対象(何又は誰を)	市立小学校及び中学校の児童・生徒を対象に
目的(何のために)	豊かな人間性と心を育むため
手段(どのようなやり方で)	各学校の教育課程に基づいて体験的な学習を実施することにより
成果(どのような状態にするのか)	集団生活や社会生活を送る上で必要な資質や能力、態度を育成する。また、自分の生き方を考え、自ら進路選択できる力や将来社会人として自立できる力を育成する。

## 【コスト】 (単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	3,311	3,838	9,255	9,255	7,175	7,175	7,175
事業費	1,692	2,248	7,175	7,175	7,175	7,175	7,175
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	1,692	787	2,370	2,730	2,730	2,730	2,730
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
一般財源	0	1,461	4,805	4,445	4,445	4,445	4,445
人件費計	1,619	1,590	2,080	2,080	0	0	0
事務・技術(人)	0.16	0.16	0.26	0.26	0.00	0.00	0.00
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	0.10	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0



# 事務事業評価シート（2/2）

整理番号 0294  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2402 教育委員会学校教育課  
 事務事業番号 00126 体験的学習推進事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-05-20-61-00-05-00	体験的学習推進事業費	教育委員会学校教育課

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値							
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	
(活動)全55校における体験的学習実施数	個	90.00	110.00	110.00	110.00	110.00	110.00	110.00	
		85.00	88.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果)職場体験アンケート（生徒向け）	%	0.00	0.00	90.00	90.00	90.00	90.00	90.00	
		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
		評価理由	
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	B
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
		評価理由	
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	A
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
		評価理由	
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
		評価理由	
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	これまで通り体験的な活動を継続するが、新型コロナウイルス感染症を考慮した活動を行う必要があるため、感染症対策を十分に行い、必要に応じて計画を見直していく。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
部局コメント (400文字)	体験的な学習の目標や意義を踏まえ、新型コロナウイルス感染対策を行った活動を進めていく。		



# 事務事業評価シート（1/2）

整理番号 0295  
 評価年度 令和 3年度  
 所属 2402  
 事務事業番号 00128

進捗区分 評価完了  
 教育委員会学校教育課  
 部活動（文化部）等振興対策事業

所属長名 中野 啓一  
 記入者 長井 綾香

【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります				
基本政策	001	子どもの未来が輝くまちにします				
施策	003	子どもの教育の充実				
取組の方向性	001	将来の夢を広げ次代を生き抜く力の育成				
事務事業	013	部活動（文化部）等振興対策事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	その他					
評価区分	対象	主な取組区分	対象外			
根拠法令等	市要項					
事業概要	(事業概要) 小中学校における文化的活動（部活動等）を支援するために、関西大会以上の大会出場にかかる経費に対し、その一部を補助するとともに、楽器の新規購入や修繕を行うことにより、小中学校の文化活動の一層の活性化を図る。					
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	(事業を取りまく社会環境) 各校では、吹奏楽部が校外にも活動や発表の場を拡げており、音楽を通じて地域交流の役割も担っている。 (見直しや改善等の経過) 平成30年度に、大会出場に係る経費の補助を増額して保護者の負担減を図った。 楽器の購入・修理については、小中学校の希望調査を基に、計画的に進めている。					

【事業分析】

対象(何又は誰を)	市立小学校及び中学校の文化部の活動を対象として
目的(何のために)	児童生徒の文化的活動への興味関心を高め、その活動の推進を図るために
手段(どのようなやり方で)	小中学校からの希望調査をもとに、楽器の購入・修理対象校を決定する。また、関西大会以上のコンクールの出場費用について、その一部を補助金として交付する。
成果(どのような状態にするのか)	児童・生徒の音楽及び部活動に対する意欲関心の向上を図り、文化的活動の一層の活性化を図る。

【コスト】 (単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	5,426	5,429	6,020	6,020	6,020	6,020	6,020
事業費	4,955	4,959	5,060	5,060	5,060	5,060	5,060
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	554	4,767	880	880	880	880	880
一般財源	4,401	192	4,180	4,180	4,180	4,180	4,180
人件費計	471	470	960	960	960	960	960
事務・技術(人)	0.02	0.02	0.12	0.12	0.12	0.12	0.12
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	0.10	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

884 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0295  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2402 教育委員会学校教育課  
 事務事業番号 00128 部活動（文化部）等振興対策事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-05-20-61-00-15-00	部活動（文化部）等振興対策事業費	教育委員会学校教育課

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値							
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	
(活動)楽器購入・修理対象校数	校	40.00	40.00	40.00	40.00	40.00	40.00	40.00	
		34.00	33.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果)関西大会以上のコンクール出場校数	校	2.00	3.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	
		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
		評価理由	
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	B
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
		評価理由	
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	A
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
		評価理由	
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
		評価理由	
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	各小学校の楽器修理希望、各中学校の楽器修理・購入希望の実態を捉えた上で計画的に整備を行い、活動に必要な環境の維持充実を図るとともに、各校の活動のさらなる支援に努める。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
部局コメント (400文字)	児童生徒の文化的活動（部活動等）の活性化のため、各校の活動支援や音楽環境の維持充実を図っていく。		



# 事務事業評価シート（1/2）

整理番号 0296  
評価年度 令和 3年度  
所属 2402  
事務事業番号 00136

進捗区分 評価完了  
教育委員会学校教育課  
中学校体育指導推進事業

所属長名 中野 啓一  
記入者 奥野 雅也

【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります				
基本政策	001	子どもの未来が輝くまちにします				
施策	003	子どもの教育の充実				
取組の方向性	001	将来の夢を広げ次代を生き抜く力の育成				
事務事業	003	中学校体育指導推進事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	その他					
評価区分	対象	主な取組区分	対象外			

根拠法令等	学校教育法施行規則第78条の2				
事業概要	<p>(事業概要)</p> <p>本市中学生の体育活動・運動部活動の充実、活性化さらには強化練習会の補助、部活動指導員の活用事業、近畿・全国大会参加への旅費補助を行う。</p>				
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	<p>(事業を取りまく社会環境)</p> <p>運動部活動は、自主性・協調性・責任感等を育成するとともに体力の向上や仲間との触れ合いの場として重要な役割を持つが、専門的指導者の不足、教員の負担感の増大が課題であり、学校の働き方改革を踏まえた部活動改革の実施が文部科学省より示されている。</p> <p>(見直しや改善等の経過)</p> <p>専門的指導者不足に対して、部活動指導員により支援している。また、平成29年度より選手派遣補助については県の補助規定と同水準に合わせて支給している。</p>				

【事業分析】

対象(何又は誰を)	大津市立中学校、大津市中学校体育連盟に				
目的(何のために)	中学校教育活動における運動部活動の指導により、中学生の体力向上、社会性の育成、生涯スポーツの基礎づくりを行うため、				
手段(どのようなやり方で)	運動部活動備品・消耗品の整備、部活動指導員活用、中学校体育連盟への負担金及び補助金（運動部の各種大会開催運営、競技力向上事業、近畿・全国大会派遣費補助）を交付し、				
成果(どのような状態にするのか)	中学校における体育活動の推進を図るため、運動部活動を充実させ、体力の向上につなげていく。				

【コスト】

(単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	8,718	12,077	14,166	14,370	14,370	14,370	14,370
事業費	6,504	9,917	12,006	12,210	12,210	12,210	12,210
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	100	100	100	100	100
一般財源	6,504	9,917	11,906	12,110	12,110	12,110	12,110
人件費計	2,214	2,160	2,160	2,160	2,160	2,160	2,160
事務・技術(人)	0.27	0.27	0.27	0.27	0.27	0.27	0.27
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

整理番号 0296  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2402 教育委員会学校教育課  
 事務事業番号 00136 中学校体育指導推進事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-30-05-55-00-02-00	学校体育指導推進費〔中学校〕	教育委員会学校教育課

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値							
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	
(活動)部活動指導員の配置校	人	3.00	4.00	6.00	7.00	8.00	9.00	10.00	
		3.00	4.00	6.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果)近畿大会・全国大会出場種目数	種目	0.00	0.00	129.00	129.00	129.00	129.00	129.00	
		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果)全国大会出場数	人	80.00	80.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
		0.00	122.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果)近畿大会出場数	人	200.00	200.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
		0.00	224.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
		評価理由	
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	A
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
		評価理由	
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	A
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
		評価理由	
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
		評価理由	
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	拡大
所属コメント (400文字)	平成28年度から、部活動における教員の技術指導のサポートのため、部活動外部指導者を活用している。令和3年度においては、20名の外部指導者による10校の部活動の指導を行った。令和4年度についても同様に、20名の外部指導者による指導を実施し、部活動の指導を行っていく。また、中学校部活動の地域移行に向けて検討会議を立ち上げ、学校の働き方改革を踏まえた部活動改革の推進に向け、休日部活動の地域移行について協議を進めていく。併せて、教員の負担軽減及び専門的指導の充実のために部活動指導員の配置数を増やせるよう、制度の見直しを図っていく。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	拡大
部局コメント (400文字)	中学生がスポーツに親しみ、体力向上が図れるよう、中学校体育連盟と連携し、事業を実施していくとともに、中学校部活動の地域移行に向けて検討を進める。		





# 事務事業評価シート（1/2）

整理番号 0297  
評価年度 令和 3年度  
所属 2402  
事務事業番号 00143

進捗区分 評価完了  
教育委員会学校教育課  
小学校体育指導推進事業

所属長名 中野 啓一  
記入者 北脇 政文

【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画		
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります		
基本政策	001	子どもの未来が輝くまちにします		
施策	003	子どもの教育の充実		
取組の方向性	001	将来の夢を広げ次代を生き抜く力の育成		
事務事業	014	小学校体育指導推進事業		
新規継続区分	継続			
運営方法	その他			
評価区分	対象	主な取組区分	対象外	
根拠法令等				
事業概要	<p>(事業概要)</p> <p>学校体育の充実、活性化及び教師の指導力の向上を図ることにより学校体育の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大津市学校体育研究発表大会</li> <li>・大津市小学校体育連盟助成事業（陸上記録会・体力向上チャレンジ事業・研究活動費・体力向上事業等）</li> </ul>			
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	<p>(事業を取りまく社会環境)</p> <p>スマートフォンやゲーム遊び、塾通いなどにより、児童の遊びが変容し、運動時間が減少している。このことから学校における体力向上の取組、体育科の授業改善や児童の運動機会創出の必要性が年々増している。</p> <p>(見直しや改善等の経過)</p> <p>教育委員会と小学校体育連盟が密に連携をとることで、体力向上に向けた取組を進めたり、子どもの実態を把握したうえで授業改善を行うなど、現状に応じた事業を進めている。</p>			

【事業分析】

対象(何又は誰を)	大津市立小学校および大津市小学校体育連盟を対象に、
目的(何のために)	体育科の授業改善、体力向上の取組の推進、教師の指導力向上により学校体育の充実を図るため、
手段(どのようなやり方で)	生涯スポーツの基礎づくり、教師の指導力の向上を図るために負担金を交付するとともに、小学校陸上記録会、OTSUSーパートライ、学校体育研究発表大会等を開催し、
成果(どのような状態にするのか)	運動好きな児童の増加、児童の体力向上、教師の指導力向上を図る。

【コスト】

(単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	1,839	1,977	2,981	2,981	3,011	2,981	2,981
事業費	691	857	1,861	1,861	1,891	1,861	1,861
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
一般財源	691	857	1,861	1,861	1,891	1,861	1,861
人件費計	1,148	1,120	1,120	1,120	1,120	1,120	1,120
事務・技術(人)	0.14	0.14	0.14	0.14	0.14	0.14	0.14
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

890 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0297  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2402 教育委員会学校教育課  
 事務事業番号 00143 小学校体育指導推進事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-30-05-55-00-01-00	学校体育指導推進費〔小学校〕	教育委員会学校教育課

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値						
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
(活動)大津市スポーツ ランキング参加校	校	37.00	37.00	37.00	37.00	37.00	37.00	37.00
		30.00	37.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(活動)大津市学校体育 研究発表大会参加者数	人	100.00	80.00	80.00	80.00	80.00	80.00	80.00
		62.00	45.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(成果)「体育の授業は 楽しい」と答える小学 5年生男子児童の割	%	72.10	73.80	73.80	74.00	74.00	74.50	74.50
		70.20	72.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(成果)「体育の授業は 楽しい」と答える小学 5年生女子児童の割	%	56.00	60.20	60.00	60.00	60.00	60.00	60.00
		54.60	54.70	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥 当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
		評価理由	
2 有効性	事業分析の「成果」欄 に記載の成果は上がっ ているか	A 上がっている	B
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
		評価理由	
3 効率性	事業手法は効率的であ るか	A 効率的である	B
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
		評価理由	
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献 しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
		評価理由	
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	令和3年度は9校で大津っ子体力向上推進事業を実施し、体育科指導リーダーの配置又は運動消耗品の購入に係る費用を補助することで、「体育の授業が楽しい」と答える児童が増加した。令和4年度は運動遊びの日常化を図るとともに、運動が苦手な児童生徒への支援を研究する。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
部局コメント (400文字)	小学生が運動に親しみ体力向上が図れるよう、小学校体育連盟と連携して事業を実施する。		



# 事務事業評価シート（1/2）

892 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0298  
評価年度 令和 3年度  
所属 2402  
事務事業番号 00146

進捗区分 評価完了  
教育委員会学校教育課  
学校図書充実事業〔小・中学校〕

所属長名 中野 啓一  
記入者 伊藤 紀明

## 【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります				
基本政策	001	子どもの未来が輝くまちにします				
施策	003	子どもの教育の充実				
取組の方向性	001	将来の夢を広げ次代を生き抜く力の育成				
事務事業	015	学校図書充実事業〔小・中学校〕				
新規継続区分	継続					
運営方法	直営					
評価区分	対象	主な取組区分	対象外			
根拠法令等	子どもの読書活動の推進に関する法律					
事業概要	児童、生徒の読書活動を推進するため、小中学校の学校図書館の蔵書等の充実を図る。					
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	子どもが楽しく自主的に読書に親しみ、読書習慣が身につけられるよう、本市をはじめ社会全体で子どもの読書活動を推進することが重要である。 目標値に対して達成率の低い学校に重点的に予算の再配当を行った。また、令和2年度は補助金を活用し、前年度よりも多くの図書を購入することができた。					

## 【事業分析】

対象(何又は誰を)	各小中学校
目的(何のために)	各小中学校図書館の環境の充実を図る。
手段(どのようなやり方で)	各校において図書を選定し、図書室用図書を購入する。
成果(どのような状態にするのか)	小中学校の蔵書充実により、児童生徒の読書活動の環境整備を推進する。

## 【コスト】

(単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	58,214	15,069	33,776	34,343	34,543	34,743	34,943
事業費	58,132	14,989	33,696	34,263	34,463	34,663	34,863
国庫支出金	30,320	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	25,062	25,062	25,062	25,062	25,062
一般財源	27,812	14,989	8,634	9,201	9,401	9,601	9,801
人件費計	82	80	80	80	80	80	80
事務・技術(人)	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

893 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0298  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2402 教育委員会学校教育課  
 事務事業番号 00146 学校図書充実事業〔小・中学校〕

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-05-20-61-00-40-00	学校図書充実事業費〔小・中学校〕	教育委員会学校教育課

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値							
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	
(活動)図書購入数(小学校)	冊	14,000.00	7,400.00	15,000.00	15,000.00	15,000.00	15,000.00	15,000.00	
		21,455.00	5,417.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(活動)図書購入数(中学校)	冊	9,000.00	5,100.00	10,000.00	10,000.00	10,000.00	10,000.00	10,000.00	
		12,498.00	4,296.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果)1人あたりの蔵書数(小学校)	冊	18.00	18.50	19.00	19.00	19.00	19.00	19.00	
		18.10	18.30	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果)1人あたりの蔵書数(中学校)	冊	19.00	19.00	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00	
		18.40	19.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
評価理由	学校図書を充実させることは教育活動において重要である。		
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	B
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
評価理由	中学校の冊数を増やすことができた。		
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	B
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
評価理由	市立図書館と連携し児童生徒の読書活動を推進した。		
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
評価理由	児童、生徒の読書活動の環境づくりに貢献している。		
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	令和3年度は学校司書3名を9校に配置し、そのうち3校は通年で配置したことで学校図書館の継続した環境整備により学校図書館を利用する児童生徒の増加や不読率の改善など、子どもの読書活動の充実に図ることができた。今後も学校図書館の蔵書の充実に図るとともに、学校図書館の新聞配備や学校司書の活用、市立図書館との連携を進めることで、これまで以上に児童生徒の読書活動を推進する。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
部局コメント (400文字)	学校図書館の蔵書の充実や学校司書の活用、市立図書館との連携等を図り、児童生徒の読書活動を推進する。		



# 事務事業評価シート（1/2）

整理番号 0299  
 評価年度 令和 3年度  
 所属 2402  
 事務事業番号 00147

進捗区分 評価完了  
 教育委員会学校教育課  
 小学校管理運営事業

所属長名 中野 啓一  
 記入者 西村 道子

【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります				
基本政策	001	子どもの未来が輝くまちにします				
施策	003	子どもの教育の充実				
取組の方向性	001	将来の夢を広げ次代を生き抜く力の育成				
事務事業	016	小学校管理運営事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	直営					
評価区分	対象	主な取組区分	対象外			

根拠法令等	学校教育法第5条				
事業概要	(事業概要) 小学校37校の管理運営及び教育活動に必要な経費の確保と効率的な運用を図る。				
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	(事業を取りまく社会環境) 厳しい財政状況のなか、教育活動を充実させるため、一層の教育環境整備が求められている。 (見直しや改善等の経過) 一部の整備予算については各校に再配当し、円滑かつ弾力的な執行を進めている。				

【事業分析】

対象(何又は誰を)	児童
目的(何のために)	各小学校の管理運営及び教育活動を円滑に行う。
手段(どのようなやり方で)	管理運営に関わる必要経費を確保し、効率的に執行する。
成果(どのような状態にするのか)	教育環境の整備、充実を図る。

【コスト】 (単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	396,405	443,918	438,622	465,184	465,884	462,504	462,504
事業費	394,551	442,101	436,805	463,367	464,067	460,687	460,687
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	22	27	0	0	0	0
一般財源	394,551	442,079	436,778	463,367	464,067	460,687	460,687
人件費計	1,854	1,817	1,817	1,817	1,817	1,817	1,817
事務・技術(人)	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

896 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0299  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2402 教育委員会学校教育課  
 事務事業番号 00147 小学校管理運営事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-10-05-06-00-01-00	学校管理運営費（小）	教育委員会学校教育課

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値						
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
(活動)教材及び備品	千円	120,465.00	120,465.00	117,810.00	117,810.00	117,810.00	117,810.00	117,810.00
		102,098.00	108,671.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(成果)児童一人当たりの教材・設備費	円	6,546.00	6,546.00	6,455.00	6,455.00	6,455.00	6,455.00	6,455.00
		5,548.00	5,935.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価	
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A	
		B ほぼ妥当である		
		C あまり妥当ではない		
		D 妥当ではない		
評価理由	学校の設置者として管理運営及び教育活動の経費を負担している。			
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	A	
		B やや上がっている		
		C あまり上がっていない		
		D 上がっていない		
評価理由	各校の教育環境の整備に努めている。			
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	A	
		B やや効率的である		
		C あまり効率的でない		
		D 効率的でない		
評価理由	学校に予算を再配当することで学校が主体的に予算を執行できる。			
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A	
		B やや貢献している		
		C あまり貢献していない		
		D 貢献していない		
評価理由	学校の教育環境の整備を図ることが教育の充実に貢献している。			
評価理由				

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	各小学校の管理運営及び教育活動を円滑に行うための必要経費を確保し効率的に執行する。また、各校への予算再配当を行うことで円滑かつ主体的な学校経営を促し、学校のマネジメント力向上を図る。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
部局コメント (400文字)	継続的に教育環境の整備を行い、更なる充実に図っていく。		





# 事務事業評価シート（1/2）

整理番号 0300  
評価年度 令和 3年度  
所属 2402  
事務事業番号 00163

進捗区分 評価完了  
教育委員会学校教育課  
中学校管理運営事業

所属長名 中野 啓一  
記入者 西村 道子

## 【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります				
基本政策	001	子どもの未来が輝くまちにします				
施策	003	子どもの教育の充実				
取組の方向性	001	将来の夢を広げ次代を生き抜く力の育成				
事務事業	020	中学校管理運営事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	直営					
評価区分	対象	主な取組区分	対象外			
根拠法令等	学校教育法第5条					
事業概要	(事業概要) 中学校 18校の管理運営及び教育活動に必要な経費の確保と効率的な運用を図る。					
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	(事業を取りまく社会環境) 厳しい財政状況のなか、教育活動を充実させるため、一層の教育環境整備が求められている。 (見直しや改善等の経過) 一部の整備予算については各校に再配当し、円滑かつ弾力的な執行を進めている。					

## 【事業分析】

対象(何又は誰を)	生徒
目的(何のために)	中学校の管理運営及び教育活動を円滑に行う。
手段(どのようなやり方で)	管理運営にかかわる必要経費を確保し、効率的に執行する。
成果(どのような状態にするのか)	教育環境の整備、充実を図る。

## 【コスト】

(単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	242,651	269,943	283,754	287,516	287,603	285,574	285,274
事業費	240,797	268,126	281,937	285,699	285,786	283,757	283,457
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	13	31	0	0	0	0
一般財源	240,797	268,113	281,906	285,699	285,786	283,757	283,457
人件費計	1,854	1,817	1,817	1,817	1,817	1,817	1,817
事務・技術(人)	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

整理番号 0300  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2402 教育委員会学校教育課  
 事務事業番号 00163 中学校管理運営事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-15-05-07-00-01-00	学校管理運営費（中）	教育委員会学校教育課

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値							
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	
(活動) 教材及び備品	千円	63,007.00	63,007.00	62,682.00	62,682.00	62,682.00	62,682.00	62,682.00	
		67,472.00	75,351.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果) 児童一人当たりの教材・設備費	千円	7,154.00	7,154.00	7,071.00	7,071.00	7,071.00	7,071.00	7,071.00	
		7,761.00	8,443.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
評価理由	学校の管理運営及び教育活動に必要な予算であり、実施主体が市で		
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	A
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
評価理由	各校で教育環境の整備に努めている。		
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	A
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
評価理由	学校に予算を再配当することで学校が主体となって予算を執行でき		
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
評価理由	学校の教育環境の整備を図ることが教育の充実に貢献している。		
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	各中学校の管理運営及び教育活動を円滑に行うための必要経費を確保し効率的に執行する。また、各校への予算再配当を行うことで円滑かつ主体的な学校経営を促し、学校のマネジメント力向上を図る。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
部局コメント (400文字)	継続的に教育環境の整備を行い、更なる充実に図っていく。		



# 事務事業評価シート（1/2）

整理番号 0301  
 評価年度 令和 3年度  
 所属 2402  
 事務事業番号 00185

進捗区分 評価完了  
 所属長名 中野 啓一  
 記入者 熊谷 美保

進捗区分 評価完了  
 教育委員会学校教育課  
 遠距離通学者通学費補助事業

【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画		
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります		
基本政策	001	子どもの未来が輝くまちにします		
施策	003	子どもの教育の充実		
取組の方向性	001	将来の夢を広げ次代を生き抜く力の育成		
事務事業	023	遠距離通学者通学費補助事業		
新規継続区分	継続			
運営方法	その他			
評価区分	対象	主な取組区分	対象外	
根拠法令等	大津市遠距離通学者通学費補助金交付要綱			
事業概要	(事業概要) 保護者の経費負担の軽減を図り、義務教育の円滑な運営に資するため、遠隔地から通学している児童・生徒の保護者に対して通学費の2分の1（兄弟姉妹のうち2人目以降は4分の3）を補助する。小学校、中学校とも概ね3km以上の距離条件としている。			
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	(事業を取りまく社会環境) 路線バスを利用して通学する地域においては、路線バスの減便や廃止、また運賃の値上げにより、児童・生徒の通学に不便及び経済的な負担が生じている。 (見直しや改善等の経過) 補助対象者の通学距離条件を、平成24年度より小学生・中学生を問わず概ね3kmとし、一律の基準で運用している。なお、平成31年度よりICカード利用者にも対応するよう要綱を改正した。			

【事業分析】

対象(何又は誰を)	通学する距離が小学校、中学校とも3km以上の遠隔地から通学している児童・生徒の保護者に対し
目的(何のために)	保護者の経費負担の軽減のために
手段(どのようなやり方で)	通学定期代の2分の1（兄弟姉妹のうち2人目以降は4分の3）を補助することにより
成果(どのような状態にするのか)	義務教育の円滑な実施に資する

【コスト】

(単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	18,696	18,458	22,758	21,533	21,533	21,533	21,533
事業費	16,646	16,458	20,758	19,533	19,533	19,533	19,533
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
一般財源	16,646	16,458	20,758	19,533	19,533	19,533	19,533
人件費計	2,050	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
事務・技術(人)	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

902 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0301  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2402 教育委員会学校教育課  
 事務事業番号 00185 遠距離通学者通学費補助事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-05-20-41-00-01-00	遠距離通学者通学費補助事業費	教育委員会学校教育課

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値						下段：実績値	
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	
(活動)遠距離通学者 通学費補助額	千円	17,553.00	18,889.00	19,198.00	19,071.00	19,071.00	19,071.00	19,071.00	
		16,645.00	15,997.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果)申請児童・ 生徒数	人	961.00	1,000.00	920.00	850.00	850.00	850.00	850.00	
		937.00	863.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
		評価理由	
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	A
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
		評価理由	
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	A
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
		評価理由	
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
		評価理由	
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	令和3年度も該当者に対し円滑に補助決定を行うことができた。今後も隔地から通学している児童生徒の保護者の負担軽減のため、現状のまま事業を継続する。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
部局コメント (400文字)	保護者負担の軽減を図るため、現状のまま事業を実施する。		



# 事務事業評価シート（1/2）

整理番号 0302  
 評価年度 令和 3年度  
 所属 2402  
 事務事業番号 00186

進捗区分 評価完了  
 教育委員会学校教育課  
 児童・生徒通学バス運行事業（学校教育課）

所属長名 中野 啓一  
 記入者 熊谷 美保

【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります				
基本政策	001	子どもの未来が輝くまちにします				
施策	003	子どもの教育の充実				
取組の方向性	001	将来の夢を広げ次代を生き抜く力の育成				
事務事業	024	児童・生徒通学バス運行事業（学校教育課）				
新規継続区分	継続					
運営方法	民間委託					
評価区分	対象	主な取組区分	対象外			
根拠法令等						
事業概要	(事業概要) 山間地域には、学校までの通学距離が長く、加えて交通の便の悪い地域に居住する児童・生徒も多い。そうした地域の児童・生徒たちの登下校時の通学手段確保の目的で本事業を実施している。また、交通不便地の教育活動を保障するために校外学習などの活動の際にもスクールバスの運行等を行っている。					
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	(事業を取りまく社会環境) 公共交通機関（路線バス）の廃線や減便されている当該地区の交通の不便さは増す傾向にあり、児童・生徒の通学への影響が懸念される。 (見直しや改善等の経過) 路線バスの廃便に伴い、令和3年度より和邇地域でのタクシー送迎を開始した。					

【事業分析】

対象(何又は誰を)	葛川、伊香立、山中・比叡平、大石、和邇地域に居住する児童・生徒
目的(何のために)	学校からの距離が遠く、交通不便地に居住する児童・生徒の登下校、教育活動のため
手段(どのようなやり方で)	スクールバス及びスクールタクシーの運行及び路線バス運行への補助
成果(どのような状態にするのか)	登下校の交通手段の確保が図られ、学習面でも充実した活動が行われている

【コスト】

(単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	13,812	16,068	16,824	18,250	18,250	18,250	18,250
事業費	12,336	14,628	15,384	16,810	16,810	16,810	16,810
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
一般財源	12,336	14,628	15,384	16,810	16,810	16,810	16,810
人件費計	1,476	1,440	1,440	1,440	1,440	1,440	1,440
事務・技術(人)	0.18	0.18	0.18	0.18	0.18	0.18	0.18
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0



# 事務事業評価シート（2/2）

整理番号 0302  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2402 教育委員会学校教育課  
 事務事業番号 00186 児童・生徒通学バス運行事業（学校教育課）

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-05-20-41-00-02-00	児童・生徒通学バス運行事業費	教育委員会学校教育課

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値						
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
(活動)スクールバス 運行本数	本	850.00	850.00	850.00	850.00	850.00	850.00	850.00
		778.00	838.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(成果)スクールバス 利用人数	人	35.00	38.00	38.00	42.00	42.00	42.00	42.00
		38.00	38.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
		評価理由	
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	A
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
		評価理由	
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	A
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
		評価理由	
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
		評価理由	
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	公共交通機関（路線バス）の廃線及び減便の動向、特に交通不便地の状況を注視しながら、必要に応じて事業を見直し児童・生徒の通学時の安全性を考慮した通学手段を確保するよう当該事業を継続する。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
部局コメント (400文字)	関係各課と連携を図りながら、路線バスの運行状況を踏まえ事業を継続して実施する。		



# 事務事業評価シート（1/2）

整理番号 0303  
評価年度 令和 3年度  
所属 2402  
事務事業番号 00188

進捗区分 評価完了  
教育委員会学校教育課  
奨学資金給付事業

所属長名 中野 啓一  
記入者 北 瑞貴

【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります				
基本政策	001	子どもの未来が輝くまちにします				
施策	002	子どもを守る仕組みの充実				
取組の方向性	002	子どもの貧困対策				
事務事業	001	奨学資金給付事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	直営					
評価区分	対象	主な取組区分	対象外			

根拠法令等	大津市奨学資金給与条例、大津市奨学基金条例				
事業概要	<p>(事業概要) 向学心があるにもかかわらず、経済的事情により高等学校に進学することが困難な生徒に対し奨学金を給付する。 1人あたり・・・月額10,000円×12ヶ月×3年間</p>				
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	<p>(事業を取りまく社会環境) 高等学校進学を希望し向上心があるにも関わらず、家庭の経済事情により進学が困難な生徒が存在する。 (見直しや改善等の経過) 高等学校授業料無償化に伴い、本事業の必要性を検討したが、教材をはじめとする必要経費等の負担軽減を目的に奨学金の給付を継続することとした。さらに、文部科学省の子供の学習費調査（平成30年度実施）の結果より、月額7,000円の給与では学費への支援が十分でないことが分かったため、令和4年度の給与より月額10,000円へ増額した。</p>				

【事業分析】	
対象(何又は誰を)	経済的事情により高等学校に進学することが困難な生徒を対象に
目的(何のために)	向学心が強く能力がある生徒が高等学校に進学するために
手段(どのようなやり方で)	奨学金を給付することによって
成果(どのような状態にするのか)	高校生活を送ることができる。

【コスト】		(単位：千円)						
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
		決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト		7,898	7,900	10,650	10,050	10,290	10,410	10,410
事業費		4,536	4,620	7,450	6,850	7,090	7,210	7,210
国庫支出金		0	0	0	0	0	0	0
県支出金		0	0	0	0	0	0	0
地方債		0	0	0	0	0	0	0
その他		4,536	4,620	7,450	6,850	7,090	7,210	7,210
一般財源		0	0	0	0	0	0	0
人件費計		3,362	3,280	3,200	3,200	3,200	3,200	3,200
事務・技術(人)		0.41	0.41	0.40	0.40	0.40	0.40	0.40
技能労務(人)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
嘱託(人)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費		0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

整理番号 0303  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2402 教育委員会学校教育課  
 事務事業番号 00188 奨学資金給付事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-05-30-63-00-01-00	奨学資金	教育委員会学校教育課

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値						
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
(活動) 奨学金の給付人数（新規）	人	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00
		24.00	18.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(成果) 給付対象者の高校卒業率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
		100.00	100.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(成果) 給付対象者の進級率（卒業を除く）	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
		100.00	100.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
		評価理由	
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	A
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
		評価理由	
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	A
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
		評価理由	
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
		評価理由	
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	令和4年度から給与月額を10,000円へ増額した。今後は、奨学金制度は向学心が強いにも関わらず、進学に関して経済負担が困難な家庭の不安を軽減できる制度であることから、本市の奨学金制度とともに民間の奨学金制度について、市ホームページの掲載や生徒及び保護者への案内文の配布等を通じて市民への周知を徹底する。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
部局コメント (400文字)	経済的な負担や心配を軽減し、学業や部活動などに励むことができることから、事業の必要性は高いととらえ、今後も継続していく。		



# 事務事業評価シート（1/2）

910 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0304  
評価年度 令和 3年度  
所属 2402  
事務事業番号 00189

進捗区分 評価完了  
教育委員会学校教育課  
小学校就学援助事業

所属長名 中野 啓一  
記入者 丸山 真依

## 【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画	
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります	
基本政策	001	子どもの未来が輝くまちにします	
施策	002	子どもを守る仕組みの充実	
取組の方向性	002	子どもの貧困対策	
事務事業	002	小学校就学援助事業	
新規継続区分	継続		
運営方法	直営		
評価区分	対象	主な取組区分	対象

根拠法令等 学校教育法第19条 大津市就学援助費給付要綱

事業概要  
(事業概要)  
経済的理由により、就学困難な児童の保護者に対して学用品等を援助し、義務教育の円滑な実施を図る。

事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し  
(事業を取りまく社会環境)  
新型コロナウイルス感染症、ウクライナ侵攻の影響により、経済状況は不安定な状態が続き、物価が上昇している。  
(見直しや改善等の経過)  
入学準備費及び新入学学用品費について要綱改正を行い、給付額を20,460円から40,600円に引き上げた。

## 【事業分析】

対象(何又は誰を)	大津市在住の児童の保護者で要保護又は準要保護に該当する者に対して
目的(何のために)	経済的負担の軽減を図るために
手段(どのようなやり方で)	就学援助費を給付することによって
成果(どのような状態にするのか)	円滑に義務教育が実施される状態を目指す

## 【コスト】 (単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	175,357	205,323	226,641	229,616	229,616	229,616	249,616
事業費	169,844	199,962	221,280	224,255	224,255	224,255	244,255
国庫支出金	4,750	6,442	6,982	6,982	6,982	6,982	6,982
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
一般財源	165,094	193,520	214,298	217,273	217,273	217,273	237,273
人件費計	5,513	5,361	5,361	5,361	5,361	5,361	5,361
事務・技術(人)	0.56	0.55	0.55	0.55	0.55	0.55	0.55
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	0.30	0.31	0.31	0.31	0.31	0.31	0.31
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

911 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0304  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2402 教育委員会学校教育課  
 事務事業番号 00189 小学校就学援助事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-10-10-67-00-02-00	就学援助費事業費（小学校）	教育委員会学校教育課

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値						下段：実績値	
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	
(活動) 就学援助事業にかかる給付額（年3回支給）	千円	190,368.00	203,871.00	221,280.00	224,255.00	224,255.00	224,255.00	224,255.00	
		169,844.00	199,962.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果) 就学援助費受給認定割合	%	18.00	18.00	18.00	18.00	18.00	18.00	18.00	
		16.40	16.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
		評価理由	
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	B
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
		評価理由	
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	A
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
		評価理由	
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
		評価理由	
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	拡大
所属コメント (400文字)	光熱水費等生活に欠かすことのできない料金についても上昇が続く中、国や他都市の給付基準、給付額等を注視しつつ事業を進める。就学援助費が必要な保護者に就学援助制度の情報が届くよう、関係部署と連携しながら周知を行う。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	拡大
部局コメント (400文字)	国の動向や経済状況を注視しながら、就学援助費を必要とする世帯に対し、引き続き周知を行う。		





# 事務事業評価シート（1/2）

整理番号 0305  
評価年度 令和 3年度  
所属 2402  
事務事業番号 00190

進捗区分 評価完了  
教育委員会学校教育課  
中学校就学援助事業

所属長名 中野 啓一  
記入者 丸山 真依

## 【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります				
基本政策	001	子どもの未来が輝くまちにします				
施策	002	子どもを守る仕組みの充実				
取組の方向性	002	子どもの貧困対策				
事務事業	003	中学校就学援助事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	直営					
評価区分	対象	主な取組区分	対象			
根拠法令等	学校教育法第19条 大津市就学援助費給付要綱					
事業概要	(事業概要) 経済的理由により、就学困難な生徒の保護者に対して学用品等を援助し、義務教育の円滑な実施を図る。					
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	(事業を取りまく社会環境) 新型コロナウイルス感染症、ウクライナ侵攻の影響により、経済状況は不安定な状態が続き、物価が上昇している。 (見直しや改善等の経過) 入学準備費及び新入学学用品費について要綱改正を行い、給付額を23,550円から47,400円に引き上げた。					

## 【事業分析】

対象(何又は誰を)	大津市在住の生徒の保護者で要保護又は準要保護に該当する者に対して
目的(何のために)	経済的負担の軽減を図るために
手段(どのようなやり方で)	就学援助費を給付することによって
成果(どのような状態にするのか)	円滑に義務教育が実施される状態を目指す

## 【コスト】

(単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	137,501	166,036	221,602	224,263	224,263	224,263	224,263
事業費	131,988	160,675	216,241	218,902	218,902	218,902	218,902
国庫支出金	2,563	3,714	6,557	6,557	6,557	6,557	6,557
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
一般財源	129,425	156,961	209,684	212,345	212,345	212,345	212,345
人件費計	5,513	5,361	5,361	5,361	5,361	5,361	5,361
事務・技術(人)	0.56	0.55	0.55	0.55	0.55	0.55	0.55
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	0.30	0.31	0.31	0.31	0.31	0.31	0.31
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

整理番号 0305  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2402 教育委員会学校教育課  
 事務事業番号 00190 中学校就学援助事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-15-10-71-00-02-00	就学援助費事業費（中学校）	教育委員会学校教育課

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値						
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
(活動) 就学援助事業にかかる給付額（年3回支給）	千円	187,713.00	212,301.00	216,241.00	218,902.00	218,902.00	218,902.00	218,902.00
		131,988.00	160,675.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(成果) 就学援助費受給認定割合	%	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00
		19.00	18.30	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
評価理由	学校教育法第19条に基づき、市は経済的な理由により就学困難と		
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	B
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
評価理由	就学援助費を給付することで、保護者の経済的な負担が軽減される		
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	A
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
評価理由	関係課と連携、情報共有を行うことで、添付書類の省略化を行う		
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
評価理由	就学援助費給付により就学環境が整い円滑に義務教育が実施される		
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	拡大
所属コメント (400文字)	光熱水費等生活に欠かすことのできない料金についても上昇が続く中、国や他都市の給付基準、給付額等を注視しつつ事業を進める。就学援助費が必要な保護者に就学援助制度の情報が届くよう、関係部署と連携しながら周知を行う。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	拡大
部局コメント (400文字)	国の動向や経済状況を注視しながら、就学援助費を必要とする世帯に対し、引き続き周知を行う。		



# 事務事業評価シート（1/2）

916 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0306  
 評価年度 令和 3年度  
 所属 2402  
 事務事業番号 01932

進捗区分 評価完了  
 所属長名 中野 啓一  
 記入者 近藤 真介

教育委員会学校教育課  
 小学校 ICT環境整備事業

## 【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります				
基本政策	001	子どもの未来が輝くまちにします				
施策	003	子どもの教育の充実				
取組の方向性	001	将来の夢を広げ次代を生き抜く力の育成				
事務事業	008	小学校 ICT環境整備事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	直営					
評価区分	対象	主な取組区分	対象			
根拠法令等	大津市総合計画 2017					
事業概要	(事業概要) ICT機器を効果的に活用した「分かりやすく深まる授業」を行うことで、学力の向上を図る。また、校務を効率化することで、教職員の働き方改革を推進して児童と向き合う時間を増やし、きめ細かな指導を行い、教育活動の質の改善を図る。					
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	(事業を取りまく社会環境) 第3期大津市教育振興基本計画の施策項目である「超スマート社会のニーズに対応できる教育の推進」のため、教育の情報化に向けた学校 ICT環境整備事業の推進が求められている。 (見直しや改善等の経過) 小学校におけるプログラミング教育実施のための環境整備を行うなど、ICT機器を活用した教育活動の充実を図った。また、校務支援システムの改修等を行い、校務の効率化を図ってきた。					

## 【事業分析】

対象(何又は誰を)	児童、教職員を対象として
目的(何のために)	第3期大津市教育振興基本計画の施策項目「超スマート社会のニーズに対応できる教育の推進」を目的に、各小学校のICT機器を整備し、情報教育の環境整備を図るために
手段(どのようなやり方で)	学校ICT環境整備に関わる必要経費を確保し、効率的に執行することで
成果(どのような状態にするのか)	学校ICT環境の整備、充実を図ることにより、ICT活用能力を発揮できる人材を育成する。

## 【コスト】

(単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	425,965	251,494	398,383	412,334	401,407	415,512	530,441
事業費	413,093	238,894	385,048	398,999	388,072	402,177	517,106
国庫支出金	98,826	0	18,166	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	98,826	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
一般財源	215,441	238,894	366,882	398,999	388,072	402,177	517,106
人件費計	12,872	12,600	13,335	13,335	13,335	13,335	13,335
事務・技術(人)	1.42	1.42	1.57	1.57	1.57	1.57	1.57
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	0.40	0.40	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

整理番号 0306  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2402 教育委員会学校教育課  
 事務事業番号 01932 小学校 ICT 環境整備事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-10-05-16-00-01-00	学校 ICT 環境整備事業費（小）	教育委員会学校教育課
01-50-10-05-16-00-01-00	学校 ICT 環境整備事業費（小）	教育委員会教育センター

【定量評価】

指標名	単位	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	上段：目標値 下段：実績値	
							令和 7年度	令和 8年度
(活動) 教員の ICT 活用指導力	%	80.00	80.00	95.00	95.00	95.00	95.00	95.00
		91.90	92.70	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(成果) 授業における ICT 活用の向上	%	85.00	85.00	95.00	95.00	95.00	95.00	95.00
		96.50	96.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
		評価理由	
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	A
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
		評価理由	
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	A
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
		評価理由	
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
		評価理由	
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	「GIGAスクール構想」に基づき、令和4年度に未整備であった小学校1年生から小学校3年生の児童用学習端末を整備するとともに、引き続きICT機器の保守管理と安定した通信環境の整備に努めていく。また、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と子どもたちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実を目指し、効果的にICTを活用した学習指導が行えるよう、教員のICT活用指導力のさらなる向上を図り、学校間のICT活用格差の是正に努めていく。校務用機器やクラウド環境の整備を進め、教職員の業務効率化を推進していく。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
部局コメント (400文字)	GIGAスクール構想の実現に向け、小学校1年生から小学校3年生の児童用学習端末の整備を進め、引き続き学校のICT環境の向上に努めるとともに、ICT機器を有効活用して情報化時代に対応できる情報活用能力を育成していく。また、教員のICT活用指導力を高め、ICT活用の学校間格差を是正していくとともに、教職員の業務効率化を推進していく。		



# 事務事業評価シート（1/2）

整理番号 0307  
評価年度 令和 3年度  
所属 2402  
事務事業番号 01933

進捗区分 評価完了  
教育委員会学校教育課  
中学校 ICT環境整備事業

所属長名 中野 啓一  
記入者 近藤 真介

【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります				
基本政策	001	子どもの未来が輝くまちにします				
施策	003	子どもの教育の充実				
取組の方向性	001	将来の夢を広げ次代を生き抜く力の育成				
事務事業	009	中学校 ICT環境整備事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	直営					
評価区分	対象	主な取組区分	対象			
根拠法令等	大津市総合計画 2017					
事業概要	<p>(事業概要)</p> <p>ICT機器を効果的に活用した「分かりやすく深まる授業」を行うことで、学力の向上を図る。また、校務を効率化することで、教職員の働き方改革を推進して児童と向き合う時間を増やし、きめ細かな指導を行い、教育活動の質の改善を図る。</p>					
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	<p>(事業を取りまく社会環境)</p> <p>第3期大津市教育振興基本計画の施策項目である「超スマート社会のニーズに対応できる教育の推進」のため、教育の情報化に向けた学校 ICT環境整備事業の推進が求められている。</p> <p>(見直しや改善等の経過)</p> <p>校務支援システムを活用することで教職員の校務の効率化を図り、働き方改革を推進してきた。生徒と向き合う時間を増やし、きめ細かな指導を行うことで、教育活動の質の改善を図ってきた。</p>					

【事業分析】

対象(何又は誰を)	生徒、教職員を対象として
目的(何のために)	第3期大津市教育振興基本計画の施策項目「超スマート社会のニーズに対応できる教育の推進」を目的に、各中学校のICT機器を整備し、情報教育の環境整備を図るために
手段(どのようなやり方で)	学校ICT環境整備に関わる必要経費を確保し、効率的に執行することで
成果(どのような状態にするのか)	学校ICT環境の整備、充実を図ることにより、ICT活用能力を発揮できる人材を育成する。

【コスト】

(単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	229,561	132,905	144,836	152,980	152,139	162,046	263,277
事業費	220,276	123,815	135,501	143,645	142,804	152,711	253,942
国庫支出金	60,139	0	14,359	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	60,140	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
一般財源	99,997	123,815	121,142	143,645	142,804	152,711	253,942
人件費計	9,285	9,090	9,335	9,335	9,335	9,335	9,335
事務・技術(人)	1.02	1.02	1.07	1.07	1.07	1.07	1.07
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	0.30	0.30	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

920 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0307  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2402 教育委員会学校教育課  
 事務事業番号 01933 中学校 ICT 環境整備事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-15-05-46-00-01-00	学校 ICT 環境整備事業費（中）	教育委員会学校教育課
01-50-15-05-46-00-01-00	学校 ICT 環境整備事業費（中）	教育委員会教育センター

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値							
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	
(活動) 教員の ICT 活用指導力	%	80.00	80.00	95.00	95.00	95.00	95.00	95.00	
		79.10	85.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果) 授業における ICT 活用の向上	%	85.00	85.00	95.00	95.00	95.00	95.00	95.00	
		95.50	94.40	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
		評価理由	
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	A
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
		評価理由	
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	A
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
		評価理由	
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
		評価理由	
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	「GIGAスクール構想」に基づき、引き続きICT機器の保守管理と安定した通信環境の整備に努めていく。また、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と子どもたちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実を目指し、効果的にICTを活用した学習指導が行えるよう、教員のICT活用指導力のさらなる向上を図り、学校間のICT活用格差の是正に努めていく。校務用機器やクラウド環境の整備を進め、教職員の業務効率化を推進していく。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
部局コメント (400文字)	GIGAスクール構想の実現に向け、引き続き学校のICT環境の向上に努めるとともに、ICT機器を有効活用して情報化時代に対応できる情報活用能力を育成していく。また、教員のICT活用指導力を高め、ICT活用の学校間格差を是正していくとともに、教職員の業務効率化を推進していく。		





# 事務事業評価シート（1/2）

整理番号 0308  
評価年度 令和 3年度  
所属 2402  
事務事業番号 03416

進捗区分 評価完了  
教育委員会学校教育課  
学力向上推進事業

所属長名 中野 啓一  
記入者 中西 香織

【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画		
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります		
基本政策	001	子どもの未来が輝くまちにします		
施策	003	子どもの教育の充実		
取組の方向性	001	将来の夢を広げ次代を生き抜く力の育成		
事務事業	005	学力向上推進事業		
新規継続区分	継続			
運営方法	直営			
評価区分	対象	主な取組区分	対象	
根拠法令等	市実施要項			
事業概要	(事業概要) 確かな学力を育成するため、授業改善を進め、学校の主体的な取組を支援する事業を行う。			
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	(事業を取りまく社会環境) 小・中学校の学習指導要領においては、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善が重要である。加えて、全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現が重要となってきた。 (見直しや改善等の経過) 学校訪問において、「めあて」の提示、「振り返り」の実施を中心とした主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善を推進してきた。			

【事業分析】

対象(何又は誰を)	市立小・中学校を対象として
目的(何のために)	大津市として進める学力向上策の方向性を示すとともに、学校の主体的な取組を支援するため
手段(どのようなやり方で)	学校訪問や研修会等で指導や支援を行い
成果(どのような状態にするのか)	各校における授業改善等の取組を推進を促す。

【コスト】

(単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	58,515	48,673	48,867	51,070	51,070	51,070	51,070
事業費	46,133	36,593	36,787	38,990	38,990	38,990	38,990
国庫支出金	0	0	35,500	0	0	0	0
県支出金	201	569	420	420	420	420	420
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
一般財源	45,932	36,024	867	38,570	38,570	38,570	38,570
人件費計	12,382	12,080	12,080	12,080	12,080	12,080	12,080
事務・技術(人)	1.51	1.51	1.51	1.51	1.51	1.51	1.51
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

整理番号 0308  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2402 教育委員会学校教育課  
 事務事業番号 03416 学力向上推進事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-05-15-36-00-10-00	学力向上推進事業費	教育委員会学校教育課

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値						
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
(活動)学校からの要請に応じた訪問の校数	校	55.00	55.00	55.00	55.00	55.00	55.00	55.00
		55.00	55.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(成果)主体的・対話的で深い学びに関する学校評価	点	2.70	2.70	2.80	2.80	2.80	2.80	2.80
		2.51	2.69	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
評価理由	学力向上につながる、授業改善のための学校訪問は妥当である。		
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	B
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
評価理由	学校訪問や研修会の開催方法を工夫することで向上した。		
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	A
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
評価理由	各校の目的や教育課程に沿った効率的な訪問や研修を行えた。		
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
評価理由	教師の授業改善が進み、児童生徒の学力向上につながった。		
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	これまで推進してきた「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善に加え、GIGAスクール構想により導入された1人1台端末を活用した授業改善を行うことができた。今後、小学校1～3年生にも1人1台端末が導入されることから、「個別最適な学び」や「協働的な学び」をより一層推進する。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
部局コメント (400文字)	小・中学校の学力向上に向けて、1人1台端末の効果的な活用方法を含め、教員の意識改革や授業改善のために学校が主体的に取り組めるよう支援していく。		



# 事務事業評価シート（1/2）

925 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0309  
 評価年度 令和 3年度  
 所属 2402  
 事務事業番号 04155

進捗区分 評価完了  
 教育委員会学校教育課  
 学校夢づくりプロジェクト推進事業

所属長名 中野 啓一  
 記入者 植西 智也

【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります				
基本政策	001	子どもの未来が輝くまちにします				
施策	003	子どもの教育の充実				
取組の方向性	002	特色ある学校づくりの推進				
事務事業	023	学校夢づくりプロジェクト推進事業				
新規継続区分	新規					
運営方法	直営					
評価区分	対象	主な取組区分	対象			

根拠法令等	学校夢づくりプロジェクト実施概要				
事業概要	子どもたちの思いをもとに、地域・学校が力をあわせて創意工夫を凝らした夢のあるプロジェクトに取り組み、児童・生徒が主体的に学び、心豊かに生きていくことができる力の育成を目指す。また、学校運営協議会で承認された学校教育目標等の実現に向けて行われる地域学校協働活動との相乗効果を図りながら取り組む。				
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	これからの学校は、地域とともに特色ある学校づくりを推進するとともに、子どもたちが地域に誇りを持ち、夢や将来の目標を持って学べるようにしていくことが大切である。 学校はこれまでの枠組みにとらわれず、柔軟な発想を持ち、創意工夫しながら様々な可能性にチャレンジする姿勢を持つこと、また、子どもたちの描く夢を保護者や地域も一緒になって考えていく仕組み作りを行うことが求められている。				

【事業分析】

対象(何又は誰を)	市立小学校・中学校を対象に
目的(何のために)	児童・生徒が主体的に学び、心豊かに生きていくことができる力を育成するため
手段(どのようなやり方で)	子どもたちの思いをもとに、地域・学校が力をあわせて創意工夫を凝らした夢のあるプロジェクトに取り組むことにより
成果(どのような状態にするのか)	魅力ある学校づくりを推進することができる。

【コスト】 (単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	0	15,570	18,455	18,455	18,455	18,455	18,455
事業費	0	12,305	14,700	14,700	14,700	14,700	14,700
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	14,700	14,700	14,700	14,700	14,700
一般財源	0	12,305	0	0	0	0	0
人件費計	0	3,265	3,755	3,755	3,755	3,755	3,755
事務・技術(人)	0.00	0.35	0.45	0.45	0.45	0.45	0.45
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	0.00	0.15	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0





# 事務事業評価シート（1/2）

整理番号 0310  
評価年度 令和 3年度  
所属 2404  
事務事業番号 00139

進捗区分 評価完了  
教育委員会教育センター  
研究活動事業

所属長名 吉嶺 達也  
記入者 田原 也子

【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります				
基本政策	001	子どもの未来が輝くまちにします				
施策	003	子どもの教育の充実				
取組の方向性	002	特色ある学校づくりの推進				
事務事業	021	研究活動事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	直営					
評価区分	対象	主な取組区分	対象外			
根拠法令等	生涯学習センター条例第3条（3）					

事業概要	<p>(事業概要) 重要な教育課題に対応するため、専門的な見地から調査研究を行う「学校園教育研究委員会」を開催し、実践的な研究に取り組む。また、教科等領域別研究会では、自主研究活動の活性化を図り、教科等の専門的な研究を進めたり、保育・授業を伴う研修等を実施したりすることで、保育の見直しや授業改善、指導の充実を図る。</p>				
------	--	--	--	--	--

事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	<p>(事業を取りまく社会環境) 教員は、次代に求められる学校教育を実現するため、教育の専門家としての資質の向上を図ることが求められている。 (見直しや改善等の経過) 確かな学力を育むための授業づくりや保育・学習指導の接続の在り方など、実践的な指導力を身につけることができるように研究活動の内容や方法を見直してきた。</p>				
----------------------	--	--	--	--	--

【事業分析】

対象(何又は誰を)	市立幼稚園・小・中学校教職員を対象として				
目的(何のために)	研究の推進、教職員の指導力の向上のために				
手段(どのようなやり方で)	学校園教育研究委員会、教科等領域別研究会43部会等の事業を行うことで、				
成果(どのような状態にするのか)	教職員の自主的な研究を活性化し、指導力の向上を目指す。				

【コスト】 (単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	13,443	11,758	11,913	11,940	11,940	11,940	11,940
事業費	533	168	323	350	350	350	350
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
一般財源	533	168	323	350	350	350	350
人件費計	12,910	11,590	11,590	11,590	11,590	11,590	11,590
事務・技術(人)	1.20	1.10	1.10	1.10	1.10	1.10	1.10
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	1.00	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0



# 事務事業評価シート（2/2）

929 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0310  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2404 教育委員会教育センター  
 事務事業番号 00139 研究活動事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-05-35-26-00-01-00	研究活動費	教育委員会教育センター

【定量評価】 上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
(活動) 部会加入率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
		100.00	100.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(活動) 研究委員会開催数	回	15.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00
		13.00	4.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(成果) 部会参加人数	人	2,300.00	800.00	1,300.00	2,300.00	2,300.00	2,300.00	2,300.00
		813.00	1,100.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(成果) 研究委員会参加人数	人	200.00	50.00	50.00	50.00	50.00	50.00	50.00
		197.00	38.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
評価理由	授業改善等の指導力向上を目的として事業を進めているから		
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	A
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
評価理由	教職員の自主的な研究を促し、指導力の向上につながっているから		
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	A
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
評価理由	保育や授業実践に生かせる教材の開発や授業研究を行っているから		
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
評価理由	教員の実践的な指導力の向上や指導体制の充実に貢献しているから		
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	児童生徒に求められる資質・能力の育成を目指し、教員の実践的な指導力の向上を図るため、教科等領域別研究会において、主体的に学ぶ研究体制の強化を図る。また、「学校園教育研究委員会」においては、幼小中接続を推進する研究を行う。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
部局コメント (400文字)	本事業は、教職員の意識改革や実践的な指導力の向上、学校園の連携を図るために重要な事業である。学校園教育研究委員会における幼小中接続の推進や、教科等領域別研究会における自主的な研究等、学校園現場の課題やニーズに応じながら研究や研修を実施していく。		



# 事務事業評価シート（1/2）

整理番号 0311  
評価年度 令和 3年度  
所属 2404  
事務事業番号 00140

進捗区分 評価完了  
教育委員会教育センター  
教職員研修事業

所属長名 吉嶺 達也  
記入者 平井 重美

【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画	
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります	
基本政策	001	子どもの未来が輝くまちにします	
施策	003	子どもの教育の充実	
取組の方向性	002	特色ある学校づくりの推進	
事務事業	003	教職員研修事業	
新規継続区分	継続		
運営方法	直営		
評価区分	対象	主な取組区分	対象

根拠法令等 地教法第59条 生涯学習センター条例 第3条（3）

事業概要  
(事業概要)  
中核市として、市立幼稚園、小・中学校の教職員の専門性・指導力を育成するために研修を実施する。若手教員の指導力向上、また、経験豊かな教職員の指導力や専門性を高めるための研修等を行う。具体的には、法定研修である初任者研修や中堅教諭等資質向上研修、市独自に実施している教職2年次研修や教職3年次研修、教職6年次研修等のステージ研修のほか、ミドルリーダー研修や特別支援学級新任研修などの職務研修、マネジメント研修や教師の心と技を磨く研修などを実施する。

事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し  
(事業を取りまく社会環境)  
教員は、次代に求められる学校教育を実現するため、教育の専門家としての資質の向上を図ることが求められている。  
(見直しや改善等の経過)  
本市の教育課題やキャリアステージに応じた研修となるよう工夫し、実践的な内容を取り入れるなど、教育の専門家としての指導力、豊かな感性、総合的な人間力を育成できるよう改善してきた。

【事業分析】

対象(何又は誰を)	市立幼稚園、小学校、中学校教職員を対象として
目的(何のために)	子どもたちが安心して学び、信頼される学校・園づくりを進めるために
手段(どのようなやり方で)	指定研修や希望研修を実施し、教職員の資質や指導力の向上を図ることで
成果(どのような状態にするのか)	新しい時代に応じた子どもたちの生きる力を育み、信頼される学校・園を目指す。

【コスト】

(単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	31,498	26,594	27,460	28,043	28,043	28,043	28,043
事業費	1,374	1,554	2,420	3,003	3,003	3,003	3,003
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
一般財源	1,374	1,554	2,420	3,003	3,003	3,003	3,003
人件費計	30,124	25,040	25,040	25,040	25,040	25,040	25,040
事務・技術(人)	2.85	2.20	2.20	2.20	2.20	2.20	2.20
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	2.20	2.40	2.40	2.40	2.40	2.40	2.40
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

整理番号 0311  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2404 教育委員会教育センター  
 事務事業番号 00140 教職員研修事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-05-35-26-00-04-00	教職員研修費	教育委員会教育センター

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値							
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	
(活動) 指定研修講座開催数	回	90.00	95.00	95.00	100.00	100.00	100.00	100.00	
		80.00	101.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(活動) 夏季研修講座開催数	回	30.00	15.00	20.00	30.00	30.00	30.00	30.00	
		0.00	16.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果) 指定研修受講者満足度	点	4.80	4.80	4.80	4.80	4.80	4.80	4.80	
		4.80	4.86	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果) 夏季研修講座参加者数	人	2,000.00	1,000.00	1,200.00	20,000.00	2,000.00	2,000.00	2,000.00	
		0.00	1,127.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
評価理由	社会や教職員のニーズに合った研修が提供できた		
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	A
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
評価理由	成果指標の目標値を超える結果が得られた		
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	A
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
評価理由	対象者の少ない研修を滋賀県総合教育センターへ委託した		
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
評価理由	職務に応じた実践的な研修により指導力の向上に寄与した		
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	新しい時代のニーズや学校園の実状に応じて研修内容を検討・精選する必要があるが、受講者の満足度（成果指標）も高く、教職員のキャリアステージに応じた研修を実施できているため、現状の事業内容と事業量を当面継続していく。また、若手教員を対象に学校園訪問を実施し、保育や授業、学級経営等の基礎・基本を実践に即して指導助言し、指導力の向上に取り組んでいく。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
部局コメント (400文字)	本市の実態や課題に即した研修に努めている。初任者から教職6年次の若手教職員、中堅教諭等の授業力や指導力向上に貢献している。また、ミドルリーダー研修やマネジメント研修等、次代を担うリーダー育成を目的とした研修の充実にも努めている。今後さらに、ベテランの指導力を生かし、現場での教育活動を研修として発展させ日常的な研修に努めていく。		



# 事務事業評価シート（1/2）

934 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0312  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2404 教育委員会教育センター  
 事務事業番号 00141 「わたしたちの大津」作成事業

所属長名 吉嶺 達也  
 記入者 田原 也子

## 【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります				
基本政策	001	子どもの未来が輝くまちにします				
施策	003	子どもの教育の充実				
取組の方向性	002	特色ある学校づくりの推進				
事務事業	022	「わたしたちの大津」作成事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	直営					
評価区分	対象	主な取組区分	対象外			
根拠法令等	生涯学習センター条例 第3条（3）					

事業概要	（事業概要） 市内小学校3・4年生が使用する小学校社会科副読本「わたしたちの大津」作成に向けての資料収集および執筆・編集・校正・印刷を行う。また、副読本に対応した評価テスト、指導書、Webページ等の作成を行う。					
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	（事業を取りまく社会環境） 平成29年に小学校学習指導要領の全面改訂が行われた。育成を目指す資質・能力が明確化され、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進が図られている。 （見直しや改善等の経過） 年度ごとの見直しにより最新の情報を提供し、副読本として使いやすいよう改訂を加えている。また、副読本に対応した評価テストや指導書、Webページの作成を行い、活用を促している。					

## 【事業分析】

対象(何又は誰を)	小学校3・4年生の児童および小学校教員を対象として					
目的(何のために)	よりよい地域社会を目指して問題解決しようとする態度、地域社会の生活についての理解や適切に思考、判断、表現する力を養うために					
手段(どのようなやり方で)	社会科授業で使用する副読本「わたしたちの大津」の作成及び提供を行うことで					
成果(どのような状態にするのか)	地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚などが養われ、地域社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指す。					

## 【コスト】

(単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	10,362	9,713	9,749	9,876	9,876	9,876	9,876
事業費	1,653	1,633	1,669	1,796	1,796	1,796	1,796
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
一般財源	1,653	1,633	1,669	1,796	1,796	1,796	1,796
人件費計	8,709	8,080	8,080	8,080	8,080	8,080	8,080
事務・技術(人)	0.80	0.70	0.70	0.70	0.70	0.70	0.70
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	0.70	0.80	0.80	0.80	0.80	0.80	0.80
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

935 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0312  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2404 教育委員会教育センター  
 事務事業番号 00141 「わたしたちの天津」作成事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-05-35-26-00-13-00	「わたしたちの天津」作成事業費	教育委員会教育センター

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値						
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
(活動)発行冊数	冊	3,500.00	3,500.00	3,500.00	3,500.00	3,500.00	3,500.00	3,500.00
		3,500.00	3,500.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(成果)副読本利用率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
		100.00	100.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
評価理由	市が独自の副読本を作成し、子どもの郷土愛を育成しているから		
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	A
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
評価理由	子どもが副読本を活用し、郷土への関心・理解を深めているから		
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	A
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
評価理由	小学校3・4年生の2年間、副読本を使用しているから		
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
評価理由	子どもがよりよい地域社会の担い手となる力を身につけているから		
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	小学校3・4年生用の社会科副読本は、他市でも独自に編集している。天津市においても、新学習指導要領の改訂に合わせて副読本の全面改訂を行い、それに対応した評価テストや指導書の作成も行った。また、Webページにおいて、授業に活用できる資料等の充実も図った。今後は、副読本を部分的に改訂し、掲載内容を最新のものにした。副読本を活用した授業力の向上を図ったりすることで、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を高める。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
部局コメント (400文字)	子どもたちが天津市への関心を持ち、理解を深めることで、ふるさとへの誇りと愛情を醸成させるため、今後も副読本の改良及び活用の研究・研修を行う。		





# 事務事業評価シート（1/2）

整理番号 0313  
 評価年度 令和 3年度  
 所属 2460  
 事務事業番号 00885

進捗区分 評価完了  
 所属長名 石戸 勇雄  
 記入者 松井 和久

教育委員会葛川少年自然の家  
 少年自然の家管理運営事業

## 【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	002	自然、歴史、文化、スポーツを重視し、多くの人が集うまちを創り				
基本政策	006	自然豊かな景観を守り育て、自然と共生するまちにします				
施策	016	環境教育の推進				
取組の方向性	001	「環境人」の育成の推進				
事務事業	007	少年自然の家管理運営事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	直営					
評価区分	対象	主な取組区分	対象外			
根拠法令等	大津市立少年自然の家条例					
事業概要	(事業概要) 当施設は、昭和62年6月開設以降35年が経過し、令和3年度末で延べ約84万3千人の利用者があり、葛川の豊かな自然環境の中での自然体験活動を通じて、子どもたちに自然の偉大さや神秘さを体験させ、豊かな情操を育むとともに明るくたくましい生き方を学ばせ、よりよい人間関係を育てることを目的として適正な施設運営を行っており、安心・安全で快適な施設の利用環境を提供している。					
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	(事業を取りまく社会環境) 新型コロナウイルス感染症の影響により、前年度から引き続き宿泊を伴う利用は中止となり日帰りでの施設利用であった。宿泊再開に向け、施設利用者にとっては、より一層安全で安心して利用できる施設として適正な管理運営が求められている。 (見直しや改善等の経過) 今後も安全で安心できる適正な施設の管理運営を行い、施設・設備の維持補修を的確に実施し快適な利用環境を提供する。					

## 【事業分析】

対象(何又は誰を)	自然体験学習を通して、明るくたくましい人間形成に努める施設利用者を対象に
目的(何のために)	環境にやさしい集団自然体験施設として、適正な施設管理運営を行なうため
手段(どのようなやり方で)	設備維持管理のための保守点検、清掃等美化業務、その他管理運営のための業務を行うとともに施設、設備の維持補修等を行い
成果(どのような状態にするのか)	安心、安全な施設の利用環境を提供する。

## 【コスト】

(単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	44,319	30,021	33,129	61,858	61,790	61,940	62,090
事業費	31,449	18,991	22,099	50,828	50,760	50,910	51,060
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	20	19,000	19,000	19,000	19,000
一般財源	31,449	18,991	22,079	31,828	31,760	31,910	32,060
人件費計	12,870	11,030	11,030	11,030	11,030	11,030	11,030
事務・技術(人)	1.30	0.60	0.60	0.60	0.60	0.60	0.60
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.70	0.70	0.70	0.70	0.70	0.70
会計年度任用(人)	0.72	0.70	0.70	0.70	0.70	0.70	0.70
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

938 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0313  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2460 教育委員会葛川少年自然の家  
 事務事業番号 00885 少年自然の家管理運営事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-25-45-50-00-01-00	少年自然の家管理運営事業費	教育委員会葛川少年自然の家

【定量評価】								上段：目標値	下段：実績値
指標名	単位	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	
(活動)団体への貸出稼働泊数	泊	149.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	
		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果)利用団体数	団体	123.00	100.00	70.00	80.00	80.00	80.00	80.00	
		48.00	69.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果)利用者の宿泊人数(延べ人数)	人	11,920.00	10,000.00	10,000.00	14,000.00	14,000.00	14,000.00	14,000.00	
		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

【定性評価】		評価項目	評価の観点	基準	評価
1	妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A	妥当である	A
			B	ほぼ妥当である	
C	あまり妥当ではない				
D	妥当ではない				
	評価理由	利用者にとって施設の適切な管理運営は必要不可欠である。			
2	有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A	上がっている	A
			B	やや上がっている	
C	あまり上がっていない				
D	上がっていない				
	評価理由	安心で安全に利用できる施設を確保している。			
3	効率性	事業手法は効率的であるか	A	効率的である	A
			B	やや効率的である	
C	あまり効率的でない				
D	効率的でない				
	評価理由	施設点検業務や補修等を行い適正な施設の管理運営を行っている。			
4	施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A	貢献している	A
			B	やや貢献している	
C	あまり貢献していない				
D	貢献していない				
	評価理由	青少年が健全に育つまちづくりに貢献している。			
	評価理由				

【所属評価結果】			
総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	現在日帰りの施設利用が続いているが、今後も施設管理運営経費の効率化・コストの軽減に取り組み、利用者に対してより一層安全で安心して利用できる施設環境が提供できるよう取り組んでいく。		

【部局評価結果】			
総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
部局コメント (400文字)	より一層、事務の効率化・コストの軽減に努めると共に、施設利用の推進を図り、利用者が活動しやすく、満足感を得ることができるよう、人に優しく安全で安心な活動環境に向けて運営・管理に努める。		



# 事務事業評価シート（1/2）

940 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0314  
評価年度 令和 3年度  
所属 2460  
事務事業番号 01436

進捗区分 評価完了  
教育委員会葛川少年自然の家  
ふるさと体験学習事業

所属長名 石戸 勇雄  
記入者 片桐 愛

## 【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	002	自然、歴史、文化、スポーツを重視し、多くの人が集うまちを創り				
基本政策	006	自然豊かな景観を守り育て、自然と共生するまちにします				
施策	016	環境教育の推進				
取組の方向性	001	「環境人」の育成の推進				
事務事業	003	ふるさと体験学習事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	直営					
評価区分	対象	主な取組区分	対象			
根拠法令等	大津市立少年自然の家条例					
事業概要	<p>(事業概要)</p> <p>自然体験学習と集団宿泊体験を通して、自然を愛し、美しいものに感動する豊かな心を持ち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深めるとともに、仲間づくりと集団生活の在り方を学び、心豊かでたくましい人間性の育成を目的とした活動を行っている。</p>					
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	<p>(事業を取りまく社会環境)</p> <p>コロナ感染拡大防止のため、宿泊活動は見送る形となり、引き続きR4年度においても体験活動は制限がかかっている。中学校1年生のふるさと体験学習ならびに小学校において、日帰りの活動となった。</p> <p>(見直しや改善等の経過)</p> <p>自然の家での活動を教育課程に位置づけ、教科等の関連を明らかにし、活動のねらいと教科のねらいのつながりを意識した深い学びの計画となるよう、各学校と相談や指示、助言をした。</p>					

## 【事業分析】

対象(何又は誰を)	中学校1年生を対象に(命の学習は、市内小学校4年生も対象)
目的(何のために)	21世紀に生きる心豊かでたくましい人間の育成を図るため
手段(どのようなやり方で)	少年自然の家やその周辺地域を利用して、集団宿泊体験やさまざまな自然体験活動を実施
成果(どのような状態にするのか)	安全に生活する中で、自然の美しさや厳しさを感じとり、集団生活のあり方や仲間と協力するすばらしさを学ぶ。また自然環境の中で五感を使い、感性を養いつつ、的確な判断力、課題解決の実践力を培う。

## 【コスト】

(単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	4,433	15,627	18,072	20,005	20,005	20,005	19,915
事業費	1,114	7,367	9,812	11,745	11,745	11,745	11,655
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
一般財源	1,114	7,367	9,812	11,745	11,745	11,745	11,655
人件費計	3,319	8,260	8,260	8,260	8,260	8,260	8,260
事務・技術(人)	0.30	0.80	0.80	0.80	0.80	0.80	0.80
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	0.28	0.60	0.60	0.60	0.60	0.60	0.60
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート (2/2)

整理番号 0314  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2460 教育委員会葛川少年自然の家  
 事務事業番号 01436 ふるさと体験学習事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-05-20-16-00-01-00	ふるさと体験学習事業費	教育委員会葛川少年自然の家

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値						
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
(活動)ふるさと体験学習参加者数	人	2,906.00	3,036.00	2,943.00	2,928.00	2,917.00	2,862.00	2,891.00
(成果)ふるさと体験学習のねらいの達成度	%	0.00	3,113.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
		90.00	90.00	90.00	90.00	90.00	90.00	90.00
		0.00	86.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
評価理由	命の学習や自然体験等の実体験が大きな経験となっている		
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	A
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
評価理由	自然体験活動を通して、仲間とともに深く学び合っている。		
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	A
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
評価理由	命や仲間の大切さを学び、充実した活動が展開できている。		
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
評価理由	仲間との協力や集団生活の在り方を学び自己実現につながっている		
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	感染症対策マニュアルに則って安全に活動を進めながら、各プログラムの安全対策について常に見直す。宿泊再開に向けて内容を精選しながら、宿泊体験や野外活動が自己選択・自己決定・自己実現できる場となるようにし、生徒にとって充実した深い学びになるようにしていく。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
部局コメント (400文字)	大津市の豊かな自然の中で宿泊体験や野外活動を経験し、良好な人間関係の構築や主体的に行動する態度の育成を学ぶ体験は、他では得がたい体験である。感染対策を図りつつ、今後も、引き続き、学校、保護者、生徒の思いを改善アンケートで把握し、内容の充実に取り組むと共に、各学校が主体的な活動の取り組みとして展開する必要がある。		



# 事務事業評価シート（1/2）

整理番号 0315  
 評価年度 令和 3年度  
 所属 2460  
 事務事業番号 01437

進捗区分 評価完了  
 教育委員会葛川少年自然の家  
 森林環境学習「やまのこ」事業

所属長名 石戸 勇雄  
 記入者 濱村 知

【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	002	自然、歴史、文化、スポーツを重視し、多くの人が集うまちを創り				
基本政策	006	自然豊かな景観を守り育て、自然と共生するまちにします				
施策	016	環境教育の推進				
取組の方向性	001	「環境人」の育成の推進				
事務事業	004	森林環境学習「やまのこ」事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	直営					
評価区分	対象	主な取組区分	対象			
根拠法令等	大津市立少年自然の家条例					
事業概要	(事業概要) 森林をはじめとする環境に理解を深めるとともに人と豊かに関わる力をはぐくむため、学校教育の一環として小学4年生を対象に葛川少年自然の家とその周辺森林を使った体験型の学習を行う。					
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	(事業を取りまく社会環境) 学習指導要領の中の「豊かな心と生きる力を育む」ためにも、1泊2日の森林環境学習「やまのこ」事業の取り組みへの期待は大きいものの、新型コロナウイルス感染症の影響により日帰りでの実施となった。 (見直しや改善等の経過) 条例に基づき、平成19年度より当事業が学校教育の一環として県内小学校4年生を対象に施行された。					

【事業分析】

対象(何又は誰を)	大津市内全小学校4年生37校及び葛川少年自然の家での事業実施を希望する県内の小学4年生を対象に、
目的(何のために)	森林をはじめとする環境に理解を深めるとともに人と豊かに関わる力を育むために
手段(どのようなやり方で)	自然の家やその周辺森林を利用し、集団宿泊体験(1泊2日)とさまざまな森林環境学習を実施し、
成果(どのような状態にするのか)	森林に興味を持ち、その働きの重要性や危機回避する力を身につけ、環境を守ろうという意欲をもつ。優しさや思いやり、協力し合う心の大切さに気づく。

【コスト】 (単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	29,371	26,501	28,202	28,779	28,779	28,779	28,779
事業費	13,216	11,141	12,842	13,419	13,419	13,419	13,419
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	13,216	11,141	9,369	11,489	11,489	11,489	11,489
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
一般財源	0	0	3,473	1,930	1,930	1,930	1,930
人件費計	16,155	15,360	15,360	15,360	15,360	15,360	15,360
事務・技術(人)	1.30	1.30	1.30	1.30	1.30	1.30	1.30
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	1.79	1.60	1.60	1.60	1.60	1.60	1.60
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

整理番号 0315  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2460 教育委員会葛川少年自然の家  
 事務事業番号 01437 森林環境学習「やまのこ」事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-05-20-16-00-02-00	森林環境学習「やまのこ」事業費	教育委員会葛川少年自然の家

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値							
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	
(活動) 森林環境学習「やまのこ」事業受入者数	人	3,167.00	3,131.00	3,031.00	3,039.00	2,970.00	3,039.00	2,854.00	
		3,219.00	3,057.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果) 事業の「取り組み」についての達成度	%	90.00	90.00	90.00	90.00	90.00	90.00	90.00	
		86.40	84.37	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
		評価理由	
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	A
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
		評価理由	
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	A
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
		評価理由	
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
		評価理由	
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	滋賀県の補助事業として学校教育に位置づけ、小学4年生を対象に行う森林環境学習であり、大津市が掲げている環境人の育成にも合致している。本来は集団宿泊体験を通して、ゆったりした時間の中で自然や森林に触れながらその大切さを学び、自ら森林環境の保全に貢献できる子どもを育成するねらいがある。本年度も新型コロナウイルスの影響で日帰りとなったが、本事業の活動は一定の評価を得ている。感染対策を講じた上で、次年度には集団宿泊体験ができるよう準備を進め、事業を継続していく。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
部局コメント (400文字)	葛川の豊かな自然を生かして、森を教材とし、森を守るための取り組みについて学んだり、間伐材を利用した活動をしたりすることは、森林環境学習の推進や大津市の環境人育成につながっている。感染対策を図りつつ、今後も人が豊かに関わる力を育み、持続可能な社会の形成に積極的に寄与する次世代の育成に努める事業を推進する。		





# 事務事業評価シート（1/2）

946 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0316  
評価年度 令和 3年度  
所属 2460  
事務事業番号 01438

進捗区分 評価完了  
教育委員会葛川少年自然の家  
研修事業

所属長名 石戸 勇雄  
記入者 佐々木 貢

## 【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	002	自然、歴史、文化、スポーツを重視し、多くの人が集うまちを創り				
基本政策	006	自然豊かな景観を守り育て、自然と共生するまちにします				
施策	016	環境教育の推進				
取組の方向性	001	「環境人」の育成の推進				
事務事業	005	研修事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	直営					
評価区分	対象	主な取組区分	対象			
根拠法令等	大津市立少年自然の家条例					
事業概要	<p>(事業概要)</p> <p>子どもたちの学校外体験活動の充実を図る社会教育施設として、自然の家の役割が一層増している。そこで研修事業の自然体験学習に子どもたちの五感に働きかける活動を多く取り入れ、心豊かな人間性の育成を図ることを目標に掲げ主催研修事業を実施する。</p>					
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	<p>(事業を取りまく社会環境)</p> <p>コロナ禍で活動が制限される中、本所の活動も日帰りとなったが、野外活動は健全な心身を育み、家族の絆を深める機会となり、年齢に関わらずたくましく生き抜く力を養っていくために欠かせない意義を持っている。</p> <p>(見直しや改善等の経過)</p> <p>課題に自主的に取り組み、試行錯誤しながら自分の考えをしっかりと持てるよう、また学ぶことが楽しいという気持ちを持てるよう、自ら課題を設定し探究的な活動を行う研修事業内容に変更した。</p>					

## 【事業分析】

対象(何又は誰を)	大津市内の小中学生、中学生、高校生、大学生及び小中学生を含む家族、大津市民を対象に
目的(何のために)	自然体験や野外活動を通して青少年の健全育成を図るとともに、地域リーダーやボランティア等の青少年の指導者の育成を図るため
手段(どのようなやり方で)	葛川の豊かな自然環境を活かし、宿泊研修や日帰り研修の中で、さまざまな野外活動プログラムや自然体験活動を実施し、
成果(どのような状態にするのか)	自然の素晴らしさや偉大さを感じ、仲間と協力することの大切さや家族のふれあいを深めるとともに、探究する楽しさと問題解決能力を養う。また、地域ボランティアやリーダー等の指導者が育つ。

## 【コスト】

(単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	5,165	4,066	4,249	5,390	5,390	5,390	5,390
事業費	750	860	1,043	2,184	2,184	2,184	2,184
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	118	112	433	900	900	900	900
一般財源	632	748	610	1,284	1,284	1,284	1,284
人件費計	4,415	3,206	3,206	3,206	3,206	3,206	3,206
事務・技術(人)	0.40	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	0.37	0.26	0.26	0.26	0.26	0.26	0.26
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

整理番号 0316  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2460 教育委員会葛川少年自然の家  
 事務事業番号 01438 研修事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-25-45-50-00-08-00	自然の家研修事業費	教育委員会葛川少年自然の家

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値							
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	
(活動)重点研修事業応募者数	人	300.00	300.00	300.00	300.00	300.00	300.00	300.00	
		482.00	960.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(活動)市民対象事業応募者数	人	150.00	150.00	150.00	150.00	150.00	150.00	150.00	
		96.00	364.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果)重点研修事業実施後のアンケートによる満足度	%	90.00	90.00	90.00	90.00	90.00	90.00	90.00	
		94.00	97.23	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果)市民対象事業実施後のアンケートによる満足度	%	90.00	90.00	90.00	90.00	90.00	90.00	90.00	
		96.00	95.09	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
		評価理由	
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	A
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
		評価理由	
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	A
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
		評価理由	
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
		評価理由	
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	自然体験や宿泊体験の機会が減少している中、葛川の自然を活かした探究的なプログラムを充実させ事業を推進していくとともに、指導者の育成も図っていききたい。また感染防止対策も含め、プログラムの安全性を十分に考慮した計画を立て、市民が安心安全に楽しく参加できる活動になるようにしていきたい。さらに、宿泊再開に向けたプログラムの検討をしていく必要がある。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
部局コメント (400文字)	葛川少年自然の家での自然体験活動を通して、豊かな心や健やかな体の育成や人とかかわる協働の喜びの体得など、社会的に自立した社会人として、明るくたくましく生きていく態度や危機管理能力を育成すると共に、感染対策を図りつつ、健全なレクリエーションと憩いの場を市民に提供できるよう内容を一層充実させて事業を推進していく。		



# 事務事業評価シート（1/2）

949 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0317  
評価年度 令和 3年度  
所属 2460  
事務事業番号 02072

進捗区分 評価完了  
所属長名 石戸 勇雄  
記入者 松井 和久

教育委員会葛川少年自然の家  
少年自然の家施設改修事業

## 【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	002	自然、歴史、文化、スポーツを重視し、多くの人が集うまちを創り				
基本政策	006	自然豊かな景観を守り育て、自然と共生するまちにします				
施策	016	環境教育の推進				
取組の方向性	001	「環境人」の育成の推進				
事務事業	006	少年自然の家施設改修事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	直営					
評価区分	対象	主な取組区分	対象外			
根拠法令等	大津市立少年自然の家条例					
事業概要	<p>(事業概要)</p> <p>当施設は旅館業法、消防法、建築基準法等に基づき安全で安心できる施設の管理を行っている。その中で老朽化等により施設改修の必要な部分は順次改修を行うこととし、また、利用の効率を高めるために施設の充実も図っている。</p>					
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	<p>(事業を取りまく社会環境)</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、前年度から引き続き宿泊を伴う利用は中止となり日帰りでの施設利用であった。宿泊再開に向け、施設利用者にとっては、施設の充実や不良箇所の改善（改修）が求められている。（見直しや改善等の経過）</p> <p>今後も満足感を与えられる施設にするため、優先順位を考え、施設の改修・充実・改善を図る。</p>					

## 【事業分析】

対象(何又は誰を)	集団による自然体験学習を通して明るくたくましい人間形成に努める施設利用者を対象に
目的(何のために)	集団自然体験が出来る施設として、安全で安心な施設となるよう
手段(どのようなやり方で)	老朽化等による施設の状況を法定点検結果や目視による日常の点検により把握し、施設の改修工事等を実施し
成果(どのような状態にするのか)	安全と安心、満足感を与える施設環境を提供する

## 【コスト】

(単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	4,799	10,877	34,270	7,728	5,668	14,458	5,008
事業費	1,243	9,469	32,862	6,320	4,260	13,050	3,600
国庫支出金	0	0	32,700	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	2,250	9,750	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
一般財源	1,243	9,469	162	6,320	2,010	3,300	3,600
人件費計	3,556	1,408	1,408	1,408	1,408	1,408	1,408
事務・技術(人)	0.40	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20
会計年度任用(人)	0.09	0.08	0.08	0.08	0.08	0.08	0.08
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0





# 事務事業評価シート（1/2）

整理番号 0318  
評価年度 令和 3年度  
所属 2485  
事務事業番号 00070

進捗区分 評価完了  
教育委員会児童生徒支援課  
市費負担講師配置事業

所属長名 橋本 岩記  
記入者 小西 尚之

【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります				
基本政策	001	子どもの未来が輝くまちにします				
施策	002	子どもを守る仕組みの充実				
取組の方向性	001	子どもの人権の尊重				
事務事業	004	市費負担講師配置事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	直営					
評価区分	対象	主な取組区分	対象外			

根拠法令等	「子ども支援コーディネーター」配置事業実施要項 等				
事業概要	<p>(事業概要)</p> <p>いじめ、不登校及び暴力行為等の生徒指導上の課題解決や児童虐待等をはじめとする家庭的な問題を抱える子どもへの対応は、重要な教育課題である。特に、いじめ対策については、未然防止、早期発見、早期対応が求められることから、子ども支援コーディネーターを担当する教員を専任化して、校内の情報集約や地域・関係機関との窓口となって、問題の解決に当たるとともに、専任化に伴う補充措置として、小中学校に加配教員を配置する。</p>				
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	<p>(事業を取りまく社会環境)</p> <p>平成23年10月に生じた大津市立中学校男子生徒のいじめ自死事件以降、いじめ防止対策推進法の施行等により国を挙げていじめ対策に取り組まれているが、いじめ問題が大きな教育課題である状況がなお続いている。(見直しや改善等の経過)</p> <p>子ども支援コーディネーター（いじめ対策担当教員の専任化（H25～））、大規模中学校の複数配置（H27～）、大規模小学校の複数配置（H29～）など、より効果的な配置体制となるよう見直しを図っている。</p>				

【事業分析】	
対象(何又は誰を)	すべての児童生徒及び個別の課題を持つ家庭を支援している小中学校を対象として
目的(何のために)	いじめ等問題行動の解決のため
手段(どのようなやり方で)	子ども支援コーディネーターを配置し、担当教員が中心となっていじめ対策委員会を開催するなど、校内での事業の共有と学校組織により対応を図ることで
成果(どのような状態にするのか)	いじめを未然に防止する組織づくりと、事案が発生しても早期に解決を図る体制を確立する。

【コスト】		(単位：千円)						
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
		決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト		239,372	246,409	0	0	0	0	0
事業費		236,912	244,009	0	0	0	0	0
国庫支出金		0	0	0	0	0	0	0
県支出金		0	0	0	0	0	0	0
地方債		0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0
一般財源		236,912	244,009	0	0	0	0	0
人件費計		2,460	2,400	0	0	0	0	0
事務・技術(人)		0.30	0.30	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
技能労務(人)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
嘱託(人)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費		0	0	0	0	0	0	0



# 事務事業評価シート（2/2）

整理番号 0318  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2485 教育委員会児童生徒支援課  
 事務事業番号 00070 市費負担講師配置事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-05-15-17-00-01-00	市費負担講師活用経費	教育委員会児童生徒支援課

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値							
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	
(活動)加配教員配置数	人	56.00	56.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
		52.00	52.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果)小・中学校いじめ認知件数	件	2,700.00	2,700.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
		6,380.00	7,872.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果)子ども支援コーディネーター対応件数	件	0.00	60,000.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
		0.00	79,547.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
評価理由	COが業務に専念するため、市が主体となって代替講師を配置する		
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	A
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
評価理由	COの配置で、いじめ等の早期の発見と対処、組織的対応が行える		
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	A
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
評価理由	事案の傾向や件数の状況を見極め、配置体制の見直しを行っている		
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
評価理由	COの取組により、子どもが健全に育つまちづくりに貢献している		
評価理由			

【所属評価結果】			
総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	今後も、子ども支援コーディネーターの取組を継続して行うことで、いじめのみならず、不登校や児童虐待など多様化・複雑化している問題に対し、早期の発見と対処、組織的な対応を行っていく。また、子ども支援コーディネーターの対応能力の向上に向けた取組（子ども支援コーディネーターの研修会の充実や事案対応ノウハウの共有など）を実施することにより、子どもが安心して学習やその他の活動などを行える環境を整えていく。		

【部局評価結果】			
総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
部局コメント (400文字)	いじめのみならず、不登校、虐待など子どもの抱える課題は、多様化・複雑化しており、今後は、これまで本市が積み上げてきたいじめ対策における考え方や対応を、様々な課題の解決へと活かしながら当該事業を推進する。		



# 事務事業評価シート（1/2）

955 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0319  
評価年度 令和 3年度  
所属 2485  
事務事業番号 02427

進捗区分 評価完了  
教育委員会児童生徒支援課  
いじめ対策等充実事業

所属長名 橋本 岩記  
記入者 小西 尚之

## 【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります				
基本政策	001	子どもの未来が輝くまちにします				
施策	002	子どもを守る仕組みの充実				
取組の方向性	001	子どもの人権の尊重				
事務事業	002	いじめ対策等充実事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	直営					
評価区分	対象	主な取組区分	対象			
根拠法令等	いじめ防止対策推進法、大津市子どものいじめの防止に関する条例					
事業概要	<p>(事業概要)</p> <p>いじめの未然防止、早期発見及び早期対応を行うため、各学校にいじめ対策委員会を設置して組織的に対応している。さらに、学校だけでは対応が困難な案件については外部専門家を各校に派遣して指導助言を受けられる体制とするとともに、重大事態については、附属機関において調査審議を実施することで事案の解明と解決を図っている。また、いじめ防止啓発月間である6月、10月を中心とした児童生徒主体のいじめ防止対策の取組推進や、弁護士等の専門家によるいじめ問題や人権に関する授業の実施等を行う。</p>					
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	<p>(事業を取りまく社会環境)</p> <p>学校で発生するいじめ等の事案について、事案増に加えてその背景の複雑化・多様化が見られるなかで、学校対応だけでは解決が困難な事例が増えており、外部専門家による支援が不可欠となっている。</p> <p>(見直しや改善等の経過)</p> <p>専門家によるいじめ問題や人権に関する授業については、令和2年度までは弁護士の派遣のみとしていたが、令和3年度から、各学校の実情に応じた専門家を学校が選定し、授業を実施することも可能な事業とした。</p>					

## 【事業分析】

対象(何又は誰を)	すべての児童・生徒を対象として
目的(何のために)	各校におけるいじめ対策を推進するために
手段(どのようなやり方で)	相談窓口や緊急時における支援体制を確保することにより
成果(どのような状態にするのか)	いじめの未然防止、早期発見及び早期対応を進める。

## 【コスト】

(単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	49,596	41,047	316,503	315,863	309,713	309,713	309,713
事業費	25,424	16,994	290,050	289,410	283,260	283,260	283,260
国庫支出金	8,335	1,924	511	511	511	511	511
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
一般財源	17,089	15,070	289,539	288,899	282,749	282,749	282,749
人件費計	24,172	24,053	26,453	26,453	26,453	26,453	26,453
事務・技術(人)	1.60	1.60	1.90	1.90	1.90	1.90	1.90
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	3.60	3.63	3.63	3.63	3.63	3.63	3.63
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

整理番号 0319  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2485 教育委員会児童生徒支援課  
 事務事業番号 02427 いじめ対策等充実事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-05-15-17-00-09-00	いじめ対策等充実事業費	教育委員会児童生徒支援課

【定量評価】 上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
(活動)いじめ等事案対策検討委員会開催回数	回	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
		16.00	6.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(活動)いじめ対策委員会開催回数	回	7,650.00	7,650.00	20,000.00	20,000.00	20,000.00	20,000.00	20,000.00
		14,291.00	16,684.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(成果)小・中学校いじめ認知件数	件	2,700.00	2,700.00	8,000.00	8,000.00	8,000.00	8,000.00	8,000.00
		6,380.00	7,872.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(成果)子ども支援コーディネーター対応件数	件	0.00	0.00	80,000.00	80,000.00	80,000.00	80,000.00	80,000.00
		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
		評価理由	
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	A
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
		評価理由	
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	A
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
		評価理由	
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
		評価理由	
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	令和2年度より、「いじめ対策担当教員」から「子ども支援コーディネーター」に変更することで、その役割を発展させている。これにより、いじめにつながる可能性のある児童虐待や不登校など、子どもの抱える課題に対し、組織的な対応を進めている。これらの取組も含め、今後も引き続き、「大津市いじめの防止に関する第2期行動計画」及び「学校いじめ防止基本方針」に基づき、着実に施策を実施していく。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
部局コメント (400文字)	令和4年度に最終年度を迎える「大津市いじめの防止に関する第2期行動計画」に基づき、事業の見直しを図りつつ、いじめ対策を総合的に推進するとともに、これまで積み上げてきたいじめ対策における考え方や対応を、幅広く子どもの抱える課題の対応へと活かし、子ども一人ひとりに焦点を当てながら、きめ細やかで最適な方策や手立てを講じていく。		



# 事務事業評価シート（1/2）

958 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0320  
評価年度 令和 3年度  
所属 2412  
事務事業番号 02592

進捗区分 評価完了  
教育委員会学校給食課  
学校給食総務事業

所属長名 藤原 順二  
記入者 藤原 順二

## 【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります				
基本政策	001	子どもの未来が輝くまちにします				
施策	003	子どもの教育の充実				
取組の方向性	001	将来の夢を広げ次代を生き抜く力の育成				
事務事業	027	学校給食総務事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	直営					
評価区分	対象	主な取組区分	対象			

根拠法令等	学校給食法				
事業概要	<p>(事業概要) 成長期にある児童生徒たちに、栄養バランスのとれた安全、安心な昼食を提供することにより、食事に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけられるよう学校給食事業を行っている。</p>				
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	<p>(事業を取りまく社会環境) 子どもたちの健康増進と食事のバランス、安全、安心な食材の使用、食育の推進など、学校給食が果たす役割が年々大きくなってきている。 (見直しや改善等の経過) 令和2年1月から中学校給食を開始し全大津市立小中学校で完全給食を実施した。令和2年3～5月まで新型コロナウイルス感染拡大に伴い全小中学校が休校となり、また令和3年度も学級閉鎖、学年閉鎖が多くあり、コロナ対策を最優先に給食を実施したことから、楽しい給食の提供や食育の推進等が難しい状況であった。</p>				

## 【事業分析】

対象(何又は誰を)	児童及び生徒
目的(何のために)	給食を通して、健康で心豊かな食習慣の形成を図る。
手段(どのようなやり方で)	地場産物を活用し、地域の郷土食や行事食を提供するとともに、給食の時間や関連する教科、学校における「食育の日」を活用しながら、食育を推進する。
成果(どのような状態にするのか)	望ましい食習慣を身につけるとともに、食文化の継承や地域の産物を理解し、命の大切さや食への感謝の気持ちを育む。

## 【コスト】

(単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	1,187,346	1,377,132	1,384,491	1,360,292	1,359,350	1,358,608	1,357,605
事業費	1,146,940	1,337,437	1,337,971	1,313,772	1,312,830	1,312,088	1,311,085
国庫支出金	0	710	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	1,264,413	1,301,230	1,283,494	1,283,494	1,283,494	1,283,494
一般財源	1,146,940	72,314	36,741	30,278	29,336	28,594	27,591
人件費計	40,406	39,695	46,520	46,520	46,520	46,520	46,520
事務・技術(人)	3.43	3.16	3.49	3.49	3.49	3.49	3.49
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	4.00	4.65	6.00	6.00	6.00	6.00	6.00
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

整理番号 0320  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2412 教育委員会学校給食課  
 事務事業番号 02592 学校給食総務事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
33-05-05-05-10-00-01-00	学校給食総務費	教育委員会学校給食課

【定量評価】								上段：目標値	下段：実績値
指標名	単位	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	
(活動)「食育の日」取組事業数	件	605.00	605.00	605.00	605.00	605.00	605.00	605.00	
		380.00	381.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(活動)地場産物の利用率	%	25.00	25.00	25.00	25.00	25.00	25.00	25.00	
		20.00	22.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果)残菜量（1食当）	g	40.00	45.00	45.00	45.00	45.00	45.00	45.00	
		53.00	71.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

【定性評価】		評価項目	評価の観点	基準	評価
1	妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A	妥当である	A
			B	ほぼ妥当である	
C	あまり妥当ではない				
D	妥当ではない				
	評価理由	児童生徒が正しい食の知識や習慣を身につけるために食育が必要			
2	有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A	上がっている	B
			B	やや上がっている	
C	あまり上がっていない				
D	上がっていない				
	評価理由	庁内連携会議で食育を取り上げる等、更に取り組みを促進			
3	効率性	事業手法は効率的であるか	A	効率的である	A
			B	やや効率的である	
C	あまり効率的でない				
D	効率的でない				
	評価理由	給食費の徴収や食材調達を市で一元化し効率性を高めている			
4	施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A	貢献している	A
			B	やや貢献している	
C	あまり貢献していない				
D	貢献していない				
	評価理由	安心安全な学校給食を提供しつつ食育の推進を図っている			
	評価理由				

【所属評価結果】			
総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	生産者団体や庁内他部局と連携しながら地場産物の積極的な利用に取り組んでおり、今後も地場産物を利用した給食献立の開発や大津市産米の提供回数を増やすなどの取り組みを行っていく。また子どもたちが食に対する正しい知識や食習慣を身につけられるよう、食育専任の栄養教諭を雇用し、指導を行うなど、更なる食育の推進を図っていく。		

【部局評価結果】			
総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
部局コメント (400文字)	学校給食は子どもたちにとって心身の健全な発達に必要なだけでなく、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけるなど大きな役割を担っている。今後も事業の推進を図ることで食育の推進を図っていく。		





# 事務事業評価シート（1/2）

整理番号 0321  
 評価年度 令和 3年度  
 所属 2403  
 事務事業番号 00013

進捗区分 評価完了  
 所属長名 二ノ宮 尚樹  
 記入者 平松 理枝

教育委員会生涯学習課  
 社会教育関係団体推進事業

## 【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画	
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります	
基本政策	003	生き生きと健康に過ごせるまちにします	
施策	009	生涯学習の推進	
取組の方向性	002	地域人材の育成	
事務事業	002	社会教育関係団体推進事業	
新規継続区分	継続		
運営方法	その他		
評価区分	対象	主な取組区分	対象外

根拠法令等	大津市補助金等交付規則、大津市社会教育推進事業補助金交付要綱		
事業概要	(事業概要) 青少年の健全育成の推進と社会教育活動の振興、家庭の教育力向上を図ること目的に、社会教育関係団体等が実施する社会教育推進事業に対し補助金を交付する。		
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	(事業を取りまく社会環境) 新型コロナウイルス感染拡大により、講演会や研修会などの事業が実施しにくい状況が続いている。また、団体としても活動の幅が狭まっている。 (見直しや改善等の経過) 令和2年度から社会教育関係団体補助金、ジュニアリーダー育成推進事業補助金、家庭教育推進事業補助金を統合した。		

## 【事業分析】

対象(何又は誰を)	社会教育関係団体等を対象に
目的(何のために)	青少年の健全育成の推進と社会教育活動の振興、家庭の教育力向上を図るため
手段(どのようなやり方で)	事業補助金を交付し
成果(どのような状態にするのか)	地域の社会教育事業の充実を図る。

## 【コスト】

(単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	3,431	2,692	3,066	3,316	3,316	3,316	3,316
事業費	500	782	1,925	2,175	2,175	2,175	2,175
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
一般財源	500	782	1,925	2,175	2,175	2,175	2,175
人件費計	2,931	1,910	1,141	1,141	1,141	1,141	1,141
事務・技術(人)	0.32	0.20	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	0.10	0.10	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

整理番号 0321  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2403 教育委員会生涯学習課  
 事務事業番号 00013 社会教育関係団体推進事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-25-05-20-00-05-00	社会教育関係団体等推進事業費	教育委員会生涯学習課

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値						下段：実績値	
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	
(活動) 交付団体数	団体	10.00	10.00	10.00	11.00	12.00	13.00	14.00	
		7.00	7.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果) 活動事業数（事業補助）	回	40.00	40.00	40.00	41.00	42.00	43.00	44.00	
		21.00	16.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価	
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A	
		B ほぼ妥当である		
		C あまり妥当ではない		
		D 妥当ではない		
評価理由	社会教育関係団体等への支援により住民主体の社会教育活動が進む			
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	B	
		B やや上がっている		
		C あまり上がっていない		
		D 上がっていない		
評価理由	各団体の事業は概ね効果が高いがコロナの影響もあり事業数が減少			
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	A	
		B やや効率的である		
		C あまり効率的でない		
		D 効率的でない		
評価理由	事業内容を補助金額と対比すると効率よく効果をあげている			
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A	
		B やや貢献している		
		C あまり貢献していない		
		D 貢献していない		
評価理由	地域に根ざした活動により社会教育の推進に貢献している			
評価理由				

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	拡大
所属コメント (400文字)	引き続き、健全かつ適正な補助金交付に努めるとともに、今後は他の事業も活用し、補助金制度の周知を積極的に行い、社会教育に関する事業を実施している新たな団体へ補助金を交付することにより更なる社会教育の推進を図っていく。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	拡大
部局コメント (400文字)	平成29年度から運営補助を事業補助に転換し、より効率的に社会教育関係団体の事業を支援することで、社会教育関係団体の事業の充実を図り、社会教育の充実したまちづくりを推進している。令和2年度より既存団体だけでなく、社会教育推進事業を行う団体を広く公募していることから、積極的に当該補助金の周知を行い、各地域の団体が補助金を活用することにより、地域に根ざした社会教育の更なる充実を図る。		



# 事務事業評価シート（1/2）

整理番号 0322  
評価年度 令和 3年度  
所属 2403  
事務事業番号 00804

進捗区分 評価完了  
教育委員会生涯学習課  
生涯学習推進事業

所属長名 二ノ宮 尚樹  
記入者 高山 泰照

【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画	
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります	
基本政策	003	生き生きと健康に過ごせるまちにします	
施策	009	生涯学習の推進	
取組の方向性	001	生涯にわたって学べる環境づくり	
事務事業	001	生涯学習推進事業	
新規継続区分	継続		
運営方法	直営		
評価区分	対象	主な取組区分	対象

根拠法令等	教育基本法
事業概要	<p>(事業概要)</p> <p>大津市生涯学習推進本部を設置し、生涯学習に関する施策を総合的かつ機能的に推進するとともに、大津市生涯学習推進会議においては、市内の関係団体等の連携、協力による生涯学習の推進を図る。また、市民等で構成される団体からの要望に基づき、市職員等が出向いて行政の取り組みや職員の専門知識を生かした出前講座を開催し、学習機会の充実と意識啓発を図って生涯学習によるまちづくりの推進を図る。</p>
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	<p>(事業を取りまく社会環境)</p> <p>本格的な人口減少社会に伴い行政サービスの縮小などが余儀なくされる中、持続可能な自主自立のまちづくりが必要であり、必要課題に係る学習機会の提供と学習成果を地域づくりに生かすことが求められている。</p> <p>(見直しや改善等の経過)</p> <p>生涯学習を推進する団体間の交流や意見交換を通じて、市民の生涯学習への普及啓発を行い、生涯学習によるまちづくりに寄与していただけるように令和2年度には生涯学習推進フォーラムと男女共同参画市民フォーラムを共同開催した。</p>

【事業分析】	
対象(何又は誰を)	一般市民及び生涯学習を推進する関係団体等を対象に
目的(何のために)	生涯学習に関する施策を総合的かつ機能的に推進するとともに、市内の関係団体等の連携、協力を促進し、本市における生涯学習の振興を図るため
手段(どのようなやり方で)	生涯学習推進フォーラムの開催、熱心まちづくり出前講座などの各種事業による学ぶ機会の提供及び関係団体のネットワークを構築し
成果(どのような状態にするのか)	市民一人ひとりが、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を地域のために生かすことのできる社会を実現する。

【コスト】 (単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	3,123	3,056	11,588	12,143	12,143	12,143	12,143
事業費	100	101	2,658	3,213	3,213	3,213	3,213
国庫支出金	0	0	1,300	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
一般財源	100	101	1,358	3,213	3,213	3,213	3,213
人件費計	3,023	2,955	8,930	8,930	8,930	8,930	8,930
事務・技術(人)	0.35	0.35	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	0.05	0.05	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

整理番号 0322  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2403 教育委員会生涯学習課  
 事務事業番号 00804 生涯学習推進事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-25-10-26-00-04-00	生涯学習推進事業費	教育委員会生涯学習課

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値						
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
(活動)熱心まちづくり 出前講座メニュー数	個	113.00	114.00	142.00	144.00	146.00	148.00	150.00
		133.00	140.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(成果)熱心まちづくり 出前講座参加者数	件	2,800.00	2,850.00	2,900.00	2,950.00	3,000.00	3,050.00	3,100.00
		527.00	650.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(成果)熱心まちづくり 出前講座利用者の満足度	%	0.00	74.00	76.00	78.00	80.00	80.00	80.00
		0.00	70.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
評価理由	生涯学習の推進を図ることが行政に求められている		
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	A
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
評価理由	コロナ禍での状況であっても一部の講座をオンラインで開催した		
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	B
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
評価理由	出前講座は低コストであるが提供メニューや周知方法の改善が必要		
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
評価理由	多様な学習機会を提供しライフステージに応じて学ぶことができる		
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	拡大
所属コメント (400文字)	今後も引き続き、生涯学習を推進する各種団体との連携を強化し、市民が主体的に学び、その成果を地域づくり等につなぐことができる環境づくりに取り組んでいく。また、出前講座については、PR動画を作成しYouTubeやSNSを通して広く周知を行い、あわせてホームページのレイアウトをより見やすくわかりやすいページにすることで、出前講座の利用者数を増加させ、更なる自主的な学びへと繋げていく。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	拡大
部局コメント (400文字)	地域の主体的な学びのための学習機会の提供の充実が図られている。今後は、市民のライフステージに応じた学習機会の提供、更には時間や場所にとらわれない、より多様な学習機会が提供できるよう検討していく。また、「学びと活動の循環」を更に促進するため、学びのネットワークを広げるとともに、「熱心まちづくり出前講座」のPR動画をYouTubeやSNS等を活用して配信し、更なる生涯学習の推進を図る。		



# 事務事業評価シート（1/2）

967 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0323  
 評価年度 令和 3年度  
 所属 2403  
 事務事業番号 00811

進捗区分 評価完了  
 所属長名 ニノ宮 尚樹  
 記入者 平出 新

教育委員会生涯学習課  
 20歳（はたち）のつどい開催事業

## 【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります				
基本政策	003	生き生きと健康に過ごせるまちにします				
施策	010	青少年の健全育成				
取組の方向性	001	子ども・若者の健やかな育成				
事務事業	004	20歳（はたち）のつどい開催事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	直営					
評価区分	対象	主な取組区分	対象外			
根拠法令等						

**事業概要**  
 (事業概要)  
 次代を担う20歳（はたち）の門出を祝福するとともに、大人になったことを自覚し、生き抜こうとする意欲の高揚を図るため、20歳（はたち）のつどいを挙げる。

**事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し**  
 (事業を取りまく社会環境)  
 式典前後における一部参加者の迷惑行為や会場周辺の混雑が例年の課題となっており、引き続き、効率的な運営手法の検討が必要である。  
 (これまでの見直し)  
 新型コロナウイルス感染拡大により、令和2年度より会場を分散して開催することとした。

## 【事業分析】

対象(何又は誰を)	平成13年4月2日～平成14年4月1日生まれの者を対象に
目的(何のために)	次代を担う20歳（はたち）の門出を祝福するとともに、大人になったことを自覚し、生き抜こうとする意欲の高揚を図るため
手段(どのようなやり方で)	20歳（はたち）の者の意見を取り入れた式典を挙行し
成果(どのような状態にするのか)	参加者に20歳（はたち）になったことの自覚を促すとともに、社会の一員としての責務を再認識させる。

## 【コスト】 (単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	14,302	14,051	17,456	17,851	17,851	17,851	17,851
事業費	8,214	8,265	9,546	9,941	9,941	9,941	9,941
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
一般財源	8,214	8,265	9,546	9,941	9,941	9,941	9,941
人件費計	6,088	5,786	7,910	7,910	7,910	7,910	7,910
事務・技術(人)	0.72	0.70	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	0.06	0.06	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

整理番号 0323  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2403 教育委員会生涯学習課  
 事務事業番号 00811 20歳（はたち）のつどい開催事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-25-10-60-00-11-00	成人式開催事業費	教育委員会生涯学習課

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値						
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
(活動)参加者	人	2,160.00	2,160.00	2,340.00	2,520.00	2,520.00	2,520.00	2,520.00
(成果)参加率	%	60.00	60.00	65.00	70.00	70.00	70.00	70.00
		45.90	61.13	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
評価理由	厳肅な記念式典として開催することから、市主体の実施が妥当		
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	A
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
評価理由	会場参加率が61.1%であり、目標値を達成した		
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	B
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
評価理由	より効率的・効果的な手法を、引き続き検討していく必要がある		
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
評価理由	人生の節目となる記念式典の開催は、青少年の健全育成に資する		
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	次代を担う20歳（はたち）の門出を祝福するとともに、20歳（はたち）としての意識の高揚を図るため、今後も企画委員等の意見を取り入れつつ、記念式典を開催する。参加者にとって、より思い出深い事業となるよう企画の充実を図るとともに、引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止策を継続し、より効果的・効率的な開催手法を検討していく。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
部局コメント (400文字)	平成28年度から新成人の声を取り入れた成人式となるよう実行委員会形式で事業実施しており、20歳の青年がこれまでの自分を振り返り、大人になったことを自覚する機会となるよう、引き続き企画の充実を図っていく。また、20歳（はたち）のつどいが、それぞれの門出を祝福するにふさわしいものとなるよう、飲酒対策や安全対策の充実に努める。		





# 事務事業評価シート（1/2）

970 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0324  
評価年度 令和 3年度  
所属 2403  
事務事業番号 00816

進捗区分 評価完了  
教育委員会生涯学習課  
公民館講座等開設事業

所属長名 二ノ宮 尚樹  
記入者 福川 萌

## 【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります				
基本政策	002	心豊かに暮らせる、福祉が充実したまちにします				
施策	004	高齢者の福祉・介護の充実				
取組の方向性	001	高齢者が元気で活躍する暮らしの推進				
事務事業	010	公民館講座等開設事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	直営					
評価区分	対象	主な取組区分	対象			
根拠法令等	教育基本法、社会教育法、公民館の設置及び管理に関する条例、同規則					
事業概要	<p>(事業概要)</p> <p>公民館において、住民の学習ニーズに応えるとともに、団塊世代の地域参加や子どもの体験活動など、様々な講座を通じて地域社会の諸問題を認識し、主体的に行動する人材育成をめざす。</p>					
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	<p>(事業を取りまく社会環境)</p> <p>少子高齢化の進行などから地方創生や持続可能なまちづくり等が求められている。また、価値観の多様化などから人間関係が希薄化しており、さまざまな主体が協働し地域課題の解決に取り組むことが必要である。</p> <p>(見直しや改善等の経過)</p> <p>令和2年度から地域の各種団体と協働して行う「地域提案事業」を実施している。</p>					

## 【事業分析】

対象(何又は誰を)	すべての地域住民を対象に
目的(何のために)	少子高齢化や核家族化等、地域社会のさまざまな課題を認識し、学びの成果を地域に還元できる人材を育成するため
手段(どのようなやり方で)	住民の学習ニーズに応えつつ、地域社会が抱えている課題に対応した講座を開催し
成果(どのような状態にするのか)	地域のために行動できる人材の育成を図り、社会教育の充実したまちづくりへの貢献を図る。

## 【コスト】

(単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	83,048	73,457	63,444	59,544	50,910	48,743	46,976
事業費	2,113	1,464	2,320	2,320	2,320	2,320	2,320
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
一般財源	2,113	1,464	2,320	2,320	2,320	2,320	2,320
人件費計	80,935	71,993	61,124	57,224	48,590	46,423	44,656
事務・技術(人)	2.57	2.40	2.20	2.10	1.85	1.80	1.80
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.40	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	18.73	17.03	14.04	13.04	10.90	10.33	9.76
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

整理番号 0324  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2403 教育委員会生涯学習課  
 事務事業番号 00816 公民館講座等開設事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-25-35-16-00-01-00	公民館講座等開設費	教育委員会生涯学習課

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値						
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
(活動) 公民館講座の開催数	回	850.00	540.00	863.00	825.00	675.00	638.00	638.00
		449.00	530.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(成果) 公民館講座の参加者数	人	32,000.00	21,000.00	33,900.00	32,400.00	26,500.00	25,000.00	25,000.00
		10,024.00	14,100.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価	
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A	
		B ほぼ妥当である		
		C あまり妥当ではない		
		D 妥当ではない		
評価理由	公民館が講座を通して地域人材の育成に努めている			
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	B	
		B やや上がっている		
		C あまり上がっていない		
		D 上がっていない		
評価理由	利用者団体が講師となり、学びの成果を還元しているケースもある			
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	B	
		B やや効率的である		
		C あまり効率的でない		
		D 効率的でない		
評価理由	地域団体と講座の一部を共催し、効率的に事業を実施している			
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A	
		B やや貢献している		
		C あまり貢献していない		
		D 貢献していない		
評価理由	主体的に学んだり行動する人材育成に努めている			
評価理由				

【所属評価結果】

総合評価	事業の進め方に改善が必要	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	高齢化の進展、地域のつながりの希薄化、公民館利用者団体の減少など社会状況が変化し、市民ニーズも多様化してきている。こうしたことから、既存の利用者団体同士の横のつながりづくりや、地域の各種団体と連携・協働しながら公民館講座を通じて、新たなサークル活動の立ち上げやリーダー育成につなげる。		

【部局評価結果】

総合評価	事業の進め方に改善が必要	事業の方向性	現状維持
部局コメント (400文字)	地域の課題やニーズを踏まえ、様々な人や組織と連携・協働しながら、公民館講座を通じて地域課題の解決に対して主体的に行動する人材の育成につなげていく。		



# 事務事業評価シート（1/2）

973 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0325  
評価年度 令和 3年度  
所属 2403  
事務事業番号 00818

進捗区分 評価完了  
教育委員会生涯学習課  
公民館（単独）管理運営事業

所属長名 二ノ宮 尚樹  
記入者 福川 萌

## 【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画	
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります	
基本政策	002	心豊かに暮らせる、福祉が充実したまちにします	
施策	004	高齢者の福祉・介護の充実	
取組の方向性	001	高齢者が元気で活躍する暮らしの推進	
事務事業	020	公民館（単独）管理運営事業	
新規継続区分	継続		
運営方法	直営		
評価区分	対象	主な取組区分	対象外

根拠法令等	教育基本法、社会教育法、公民館の設置及び管理に関する条例、同規則		
事業概要	<p>(事業概要)</p> <p>社会教育法第20条の規定に基づき、近隣住民の日常生活圏の施設、日常生活に密着した総合的な社会教育施設として、教育、文化等各種事業を実施することにより、市民の教養の向上、健康の増進、社会福祉の増進等に寄与している。また、大津公民館については、指定管理により運営を実施している。</p>		
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	<p>(事業を取りまく社会環境)</p> <p>地域の多様な人たちが相互に理解し合い共生できる環境をつくっていく上で、社会教育は重要な役割を果たすことが期待されている。公民館は地域住民にとって、人と人、人と地域をむすぶ地域における生涯学習の拠点であり、また交流の場としても重要な役割を担う社会教育施設である。</p> <p>(見直しや改善等の経過)</p> <p>令和2年4月にはコミセン条例が施行され、地域の実情に応じてコミセン移行が開始された。</p>		

## 【事業分析】

対象(何又は誰を)	地域住民を対象に
目的(何のために)	多様な人々との新たな絆や地域の関わりを深め、人と人、人と地域をむすぶ社会教育の推進と地域づくりの拠点施設としての役割を果たすため
手段(どのようなやり方で)	学習ニーズに対応した各種講座や地域課題を解決する事業を実施する。また、地域の自主学習グループや公民館利用者団体等に学びの場を提供し
成果(どのような状態にするのか)	市民が気軽に公民館を利用することにより、住民同士の相互学習、相互交流を深め、豊かでいきいきとした地域づくりにつなげる。

## 【コスト】

(単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	64,369	60,081	53,974	52,653	65,814	65,319	227,226
事業費	34,680	31,617	31,488	31,122	46,624	46,622	208,622
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	6,357	7,046	4,359	4,590	4,099	4,047	4,047
一般財源	28,323	24,571	27,129	26,532	42,525	42,575	204,575
人件費計	29,689	28,464	22,486	21,531	19,190	18,697	18,604
事務・技術(人)	2.76	3.00	2.40	2.30	2.05	2.00	2.00
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.40	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	1.53	1.44	1.06	1.01	0.90	0.87	0.84
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

整理番号 0325  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2403 教育委員会生涯学習課  
 事務事業番号 00818 公民館（単独）管理運営事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-25-35-21-00-01-00	公民館（単独）管理運営費	教育委員会生涯学習課

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値						下段：実績値	
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	
(活動) 公民館利用状況 (人数)	人	543,000.00	310,000.00	485,300.00	463,300.00	375,000.00	353,000.00	353,000.00	
		352,466.00	375,653.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果) 公民館利用件数	件	37,500.00	29,000.00	32,000.00	30,600.00	24,800.00	23,300.00	23,300.00	
		31,056.00	32,603.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
		評価理由	
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	B
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
		評価理由	
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	A
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
		評価理由	
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
		評価理由	
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	拡大
所属コメント (400文字)	公民館は地域の学習拠点機能だけでなく、まちづくりの拠点としての役割を果たしている。その中で、生涯学習専門員やコミュニティセンター従事者は地域のコーディネーター役として重要な役割を担っている。このため今後も、これらの者に対する各種研修や情報提供、相談対応など市民部と連携を図り、公民館等の機能の充実に努める。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	拡大
部局コメント (400文字)	コミュニティセンターを所管する市民部との連携を図りながら、地域課題の解決に向けて社会教育の推進を図っていく。		



# 事務事業評価シート（1/2）

976 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0326  
評価年度 令和 3年度  
所属 2403  
事務事業番号 00831

進捗区分 評価完了  
所属長名 ニノ宮 尚樹  
記入者 石田 明生

教育委員会生涯学習課  
人権・生涯学習推進事業

## 【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画	
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります	
基本政策	004	つながりを大切に、共に支えあうまちにします	
施策	012	人権及び平和意識の高揚と男女共同参画の推進	
取組の方向性	001	人権啓発の推進	
事務事業	002	人権・生涯学習推進事業	
新規継続区分	継続		
運営方法	民間委託		
評価区分	対象	主な取組区分	対象

根拠法令等	教育基本法、人権教育及び人権啓発の推進に関する法律		
事業概要	<p>(事業概要)</p> <p>市民一人ひとりが、人権学習を生涯学習として捉え、互いの人権を尊重する心豊かな社会の確立に向けた自主的な活動を支援するほか、様々な人権学習の機会を提供していく。また、市内の人権学習において、中心的な役割を果たしている地域の「人権・生涯」学習推進協議会や大津市「人権・生涯」学習推進協議会連合会、「人権を守る大津市民の会」、「人権を考える大津市民のつどい運営委員会」の団体の活動を支援するもの。</p>		
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	<p>(事業を取りまく社会環境)</p> <p>新型コロナウイルス感染症による差別やいじめ、虐待やDV、インターネットによる人権侵害など、新たな人権課題が出現するなど、正しい理解と認識を深める取組みが求められている。</p> <p>(見直しや改善等の経過)</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大状況下での持続可能な事業の進め方について、適宜見直しを図ってきた。</p>		

## 【事業分析】

対象(何又は誰を)	全市民を対象に
目的(何のために)	市民一人ひとりの人権が尊重されるまちづくりを推進するため
手段(どのようなやり方で)	各学区「人権・生涯」学習推進協議会を始めとする人権学習推進団体等に対する支援のほか、様々な人権学習の機会を提供し
成果(どのような状態にするのか)	生涯を通じて、人権学習に取り組める環境を実現する。

## 【コスト】

(単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	22,160	21,175	23,477	23,565	23,570	23,860	23,866
事業費	6,622	7,603	10,612	10,700	10,705	10,995	11,001
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
一般財源	6,622	7,603	10,612	10,700	10,705	10,995	11,001
人件費計	15,538	13,572	12,865	12,865	12,865	12,865	12,865
事務・技術(人)	1.85	1.65	1.55	1.55	1.55	1.55	1.55
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	0.12	0.12	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0



# 事務事業評価シート（2/2）

整理番号 0326  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2403 教育委員会生涯学習課  
 事務事業番号 00831 人権・生涯学習推進事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-25-10-26-00-01-00	人権・生涯学習推進事業費	教育委員会生涯学習課

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値						
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
(活動)人権を考える大津市民のつどい参加者数	人	3,425.00	5,000.00	5,000.00	5,000.00	5,000.00	5,000.00	5,000.00
		17.00	1,120.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(活動)人権作品応募総数	点	40,000.00	40,000.00	40,000.00	40,000.00	40,000.00	40,000.00	40,000.00
		30,101.00	29,252.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(成果)人権を考える大津市民のつどい満足度	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
		100.00	98.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(成果)人権作品展満足度	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
		90.00	97.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
		評価理由	
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	A
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
		評価理由	
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	A
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
		評価理由	
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
		評価理由	
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	事業の進め方に改善が必要	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	本市は、大津市「人権・生涯」学習推進協議会連合会を始めとする人権学習推進団体等と一体となって事業を推進しており、各地域の団体が主体となって地域に根差した人権学習が実施されている。しかしながら、高齢化や地域の担い手不足等から、各団体の運営方法等についての見直しが必要である。		

【部局評価結果】

総合評価	事業の進め方に改善が必要	事業の方向性	現状維持
部局コメント (400文字)	今後も、全ての市民の人権が尊重される地域社会の実現に向け、本市と人権学習推進団体とが両輪となって人権学習を推進していくため、持続可能な人権・生涯学習推進のあり方を検討していく。		



# 事務事業評価シート（1/2）

979 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0327  
評価年度 令和 3年度  
所属 2403  
事務事業番号 00834

進捗区分 評価完了  
所属長名 ニノ宮 尚樹  
記入者 平松 理枝

教育委員会生涯学習課  
家庭・地域教育推進事業

## 【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります				
基本政策	003	生き生きと健康に過ごせるまちにします				
施策	009	生涯学習の推進				
取組の方向性	001	生涯にわたって学べる環境づくり				
事務事業	002	家庭・地域教育推進事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	その他					
評価区分	対象	主な取組区分	対象			
根拠法令等	教育基本法					
事業概要	<p>(事業概要) 家庭や家族を取り巻く社会環境が変化し、家庭のあり方や教育機能が変わっている。心豊かでたくましい子どもを育てるため、親子ふれあいのための社寺等無料開放事業を実施するとともに、「おおつ家庭教育5か条」を策定し、家庭教育の推進を図っている。 また、コミュニティ・スクールが設置された地域に地域学校協働活動推進員を委嘱し、地域社会全体で子どもの成長を支える活動を推進している。</p>					
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	<p>(事業を取りまく社会環境) 近年の急激な社会構造の変化により、地域社会の人間関係の希薄化、核家族化が進み、家庭や地域の教育力が低下してきている。 (見直しや改善等の経過) 平成23年度に策定した「おおつ家庭教育5か条」については、啓発の方法をリーフレットからクリアファイルの配布に変更した。</p>					

## 【事業分析】

対象(何又は誰を)	保護者や子ども、地域住民を対象に
目的(何のために)	地域における様々な家庭教育支援の取り組みを充実させることにより、家庭及び地域の教育力の向上を目指すため
手段(どのようなやり方で)	親の学びや親同士の交流、親子若しくは世代間のふれあいを促進する事業の実施や、地域学校協働活動推進員を委嘱し
成果(どのような状態にするのか)	保護者や子どもたちに、様々な学びやふれあいの場の拡大と充実を図り、家庭教育の意識の高揚を図るとともに、学校と地域が連携して地域社会全体で子どもの成長を支える意識が根付く。

## 【コスト】

(単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	7,560	13,437	14,116	17,946	18,145	18,145	18,145
事業費	2,211	2,355	2,634	6,464	6,663	6,663	6,663
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
一般財源	2,211	2,355	2,634	6,464	6,663	6,663	6,663
人件費計	5,349	11,082	11,482	11,482	11,482	11,482	11,482
事務・技術(人)	0.57	1.30	1.35	1.35	1.35	1.35	1.35
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

980 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0327  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2403 教育委員会生涯学習課  
 事務事業番号 00834 家庭・地域教育推進事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-25-05-20-00-04-00	家庭・地域教育推進事業費	教育委員会生涯学習課

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値							
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	
(活動) 地域学校協働活動推進員委嘱数	人	38.00	40.00	46.00	49.00	51.00	51.00	51.00	
		40.00	42.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果) 地域学校協働本部数	件	3.00	3.00	1.00	3.00	5.00	7.00	10.00	
		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
評価理由	保護者の学習機会や情報提供を行うことは市の責務である		
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	B
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
評価理由	地域の実情に合わせ地域社会全体で子どもを育てる活動が行われた		
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	B
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
評価理由	それぞれの事業について効率化を進めている		
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	B
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
評価理由	子どもの育ちを地域で支援する取り組みが行われている		
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	拡大
所属コメント (400文字)	文化財家族参観事業については、継続して一定の人数の利用があるため事業を継続するが、実施方法について企業局や関係施設と協議を行う。「おおつ家庭教育5か条」については、啓発の方法をリーフレットからクリアファイルの配付に変更したことにより、より効果的に周知が行えたが、策定から10年以上が経過していることから、内容の見直しを進める。地域学校協働活動については、地域の主体的な協働活動の実施に向け、検討、支援を行っていく。また、令和4年度を始期とする「大津市子ども読書活動推進計画（第4次）」に基づき関係課が連携し、体系的に事業を進める。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	拡大
部局コメント (400文字)	「おおつ家庭教育5か条」の啓発方法等を見直し、同5か条がより浸透するよう周知を図っていく。また、家庭・地域・学校が連携・協働して社会全体で子どもの成長を支えていくために、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールを一体的に推進する。		



# 事務事業評価シート（1/2）

982 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0328  
評価年度 令和 3年度  
所属 2403  
事務事業番号 00890

進捗区分 評価完了  
教育委員会生涯学習課  
青少年教育推進事業

所属長名 ニノ宮 尚樹  
記入者 大田 美都里

## 【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります				
基本政策	003	生き生きと健康に過ごせるまちにします				
施策	010	青少年の健全育成				
取組の方向性	001	子ども・若者の健やかな育成				
事務事業	002	青少年教育推進事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	直営					
評価区分	対象	主な取組区分	対象外			
根拠法令等						
事業概要	<p>(事業概要) 青少年の健全育成並びに青少年活動の活性化のための事業を行う。(ユースボランティアセミナー研修会の開催、青少年セミナーハウスの設置)</p>					
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	<p>(事業を取りまく社会環境) 少子化の進行とともに自然体験の機会が減少していること等から、青少年及び青少年指導者の養成、育成の機会は減少傾向にある。 (見直しや改善等の経過) ジュニアリーダー推進事業補助金は平成29年度から大津市社会教育関係団体事業補助金に統合した。平成26年度からユースボランティアセミナーを開設し、指導者の養成及び育成を図っている。</p>					

## 【事業分析】

対象(何又は誰を)	ユースボランティアセミナー参加者及び同企画委員を対象に
目的(何のために)	青少年が、若さと情熱を持って積極的、自主的にまちづくりに貢献するため
手段(どのようなやり方で)	ユースボランティアセミナー研修会の開催や、青少年関係団体が活動できる場所を提供し
成果(どのような状態にするのか)	青少年指導者の養成・育成を図る。

## 【コスト】

(単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	4,640	2,376	4,396	4,584	4,584	4,584	4,584
事業費	315	314	365	553	553	553	553
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
一般財源	315	314	365	553	553	553	553
人件費計	4,325	2,062	4,031	4,031	4,031	4,031	4,031
事務・技術(人)	0.52	0.25	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

整理番号 0328  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2403 教育委員会生涯学習課  
 事務事業番号 00890 青少年教育推進事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-25-10-60-00-01-00	青少年教育推進事業費	教育委員会生涯学習課

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値							
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	
(活動) 青少年指導者研修（ユースボランティアアセミナー）委員数	人	15.00	15.00	15.00	15.00	15.00	15.00	15.00	
(成果) 青少年指導者研修（ユースボランティアアセミナー）参加者	人	13.00	11.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
		20.00	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00	
		5.00	8.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
評価理由	青少年指導者の養成や育成を市が行うことは妥当である		
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	B
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
評価理由	企画委員が中心となり、事業を運営することができた		
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	B
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
評価理由	参加者は少ないが満足度は高い		
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	B
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
評価理由	各青少年関係団体が活動・交流できる場を提供している		
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	事業の進め方に改善が必要	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	ユースボランティアセミナーの参加者が少なく、受講の成果を還元するまでの仕組みが出来ていないのが実情である。引き続き、青少年の自主性を尊重しながら育成に努めるとともに、ユースボランティアセミナーの内容見直しや、青少年セミナーハウスの活用等を検討し、事業の充実を図る。		

【部局評価結果】

総合評価	事業の進め方に改善が必要	事業の方向性	現状維持
部局コメント (400文字)	青少年の地域活動の核となる人材の育成は急務であり、「ユースボランティアセミナー研修会」などを通して、青少年リーダーの養成を図っているが、企画委員の担い手不足や多忙により、事業の進め方にも工夫が必要である。今後は、事業の実施方法の見直しも含めて検討し、青少年指導者の養成及び育成を図る。		





# 事務事業評価シート（1/2）

985 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0329  
評価年度 令和 3年度  
所属 2403  
事務事業番号 03371

進捗区分 評価完了  
教育委員会生涯学習課  
おおつ学推進事業

所属長名 ニノ宮 尚樹  
記入者 高見 勇人

## 【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります				
基本政策	003	生き生きと健康に過ごせるまちにします				
施策	009	生涯学習の推進				
取組の方向性	002	地域人材の育成				
事務事業	001	おおつ学推進事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	直営					
評価区分	対象	主な取組区分	対象			
根拠法令等	教育基本法					
事業概要	<p>(事業概要)</p> <p>大津の資源を生かした体験型の連続講座を通して、地域への関心を高め、地域を愛する心を育むとともに、学ぶ者同士がつながり、地域づくりのために行動できる人材の育成を図る。</p>					
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	<p>(事業を取りまく社会環境)</p> <p>少子高齢化や地域コミュニティの希薄化など地域を取り巻く問題・課題が多様化しているなか、住民主体の持続可能なまちづくりが必要であり、個の学びだけでなく学習成果を地域づくりに生かすことが求められている。</p> <p>(見直しや改善等の経過)</p> <p>平成29年度から実際に特定の地域に入り込み、地域の方と一緒に学ぶ機会を設定するとともに、包括協定を締結している大学と連携しながら、受講生、地域、大学生がともに学ぶ内容とした。</p>					

## 【事業分析】

対象(何又は誰を)	一般市民を対象に
目的(何のために)	地域への関心を高め、地域を愛する心を育むとともに、学ぶ者同士がつながり、地域づくりのために行動できる人材の育成を図るため
手段(どのようなやり方で)	体験型の連続講座を通して
成果(どのような状態にするのか)	地域のために行動できる人材を増やす。

## 【コスト】

(単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	2,694	3,697	3,322	3,322	3,322	3,322	3,322
事業費	318	274	454	454	454	454	454
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	28	57	150	150	150	150	150
一般財源	290	217	304	304	304	304	304
人件費計	2,376	3,423	2,868	2,868	2,868	2,868	2,868
事務・技術(人)	0.20	0.30	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	0.24	0.33	0.28	0.28	0.28	0.28	0.28
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

986 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0329  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2403 教育委員会生涯学習課  
 事務事業番号 03371 おおつ学推進事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-25-10-26-00-05-00	おおつ学推進事業費	教育委員会生涯学習課

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値							
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	
(活動) 受講者数	人	10.00	20.00	25.00	25.00	25.00	25.00	25.00	
		14.00	19.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果) 地域活動への意欲度	%	70.00	70.00	95.00	95.00	95.00	95.00	95.00	
		0.00	93.30	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
評価理由	地域人材の育成を市が行うことが妥当である		
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	B
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
評価理由	修了生と地域が連携した取り組みが始まっている		
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	A
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
評価理由	受講生・地域・学生との協働による学習が展開できている		
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
評価理由	修了生の地域活動への意欲度が高まっている		
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	拡大
所属コメント (400文字)	大津人実践講座については、令和3年度は真野学区をフィールドに地域づくりにつながる学習機会を提供しており、今後も引き続き、大学や地域との連携を進めていく。また、大津人基礎講座について、大学・NPO・企業等と連携・協力し、大津に関する学習機会の充実を図ることでより多くの市民の受講機会を増やす。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	拡大
部局コメント (400文字)	講座修了生で組織する「おおつぴと倶楽部」の活動や、受講生の企画案が地域での取り組みにつながるなど「学びと活動の循環」が形成され、まちづくりへの気運も高まっている。今後も引き続き、大学や地域との連携を深めながら、地域づくりに主体的に行動できる人材の育成に取り組む。		



# 事務事業評価シート（1/2）

整理番号 0330  
 評価年度 令和 3年度  
 所属 2462  
 事務事業番号 00807

進捗区分 評価完了  
 教育委員会生涯学習センター  
 生涯学習センター管理運営事業

所属長名 遠藤 健  
 記入者 岩田 浩二

【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります				
基本政策	003	生き生きと健康に過ごせるまちにします				
施策	009	生涯学習の推進				
取組の方向性	001	生涯にわたって学べる環境づくり				
事務事業	014	生涯学習センター管理運営事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	直営					
評価区分	対象	主な取組区分	対象外			

根拠法令等	大津市生涯学習センター条例・規則				
事業概要	<p>(事業概要)</p> <p>市民の生涯学習活動の拠点として、平成4年4月に7つの機能を併せ持つ総合教育文化施設「生涯学習センター」を開館。以来、建物と設備の維持管理と保全を図りながら、市民の自主活動を支援するため、各種学習室や多目的ホールの貸し出し業務を実施すると共に、センターの機能を生かした自主事業を開催し、多くの市民に学習の機会や場を提供している。</p>				
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	<p>(事業を取りまく社会環境)</p> <p>持続可能な都市経営を目指すため、公共施設マネジメントの推進により効率的で効果的な施設運営が求められている。非接触検温器を導入しコロナウイルス対策をする等、利用者にとって安全で快適な学習環境を提供し、自主的な学習活動の支援に重点を置いている。</p> <p>(見直しや改善等の経過)</p> <p>当施設は開館以来30年が経過しており、設備機器等の老朽化が進んでいる。計画的な修繕や改修を行い、施設の長寿命化を図るとともに、施設の維持管理に要する経費を精査し、経費の縮減に努めている。</p>				

【事業分析】

対象(何又は誰を)	生涯を通じて学習意欲を持っている子どもから高齢者まで幅広い世代を対象としている。
目的(何のために)	市民の生涯にわたる学習活動を支援するため、自主的な学習や、発表の場を提供する施設として、利用者の利便性や安全性を第一に、適正な施設の管理運営を図る。
手段(どのようなやり方で)	自主的な学習グループの活動の場を提供。また、多様化する学習ニーズの中で、より多くの市民が生涯学習活動に参加できるよう、充実した学習情報を提供すること。
成果(どのような状態にするのか)	市民の生涯にわたる学習の場として、市民が触れ合い、互いに労わり、協働しながら学習意欲を高め、学ぶことの喜びを感じる場になるよう、また団体における仲間づくりの場となるよう、適切な運営を行う。

【コスト】 (単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	111,454	111,293	136,476	131,946	131,832	151,082	131,832
事業費	69,248	69,448	97,396	92,866	92,752	112,002	92,752
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	11,751	20,394	20,302	20,302	20,302	20,302	20,302
一般財源	57,497	49,054	77,094	72,564	72,450	91,700	72,450
人件費計	42,206	41,845	39,080	39,080	39,080	39,080	39,080
事務・技術(人)	2.20	2.20	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	1.00	1.00	1.20	1.20	1.20	1.20	1.20
会計年度任用(人)	5.95	5.95	5.20	5.20	5.20	5.20	5.20
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

整理番号 0330  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2462 教育委員会生涯学習センター  
 事務事業番号 00807 生涯学習センター管理運営事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-25-15-50-00-01-00	生涯学習センター管理運営事業費	教育委員会生涯学習センター

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値						
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
(活動)生涯学習関連講座、講演会等開催事業数	事業	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00
		3.00	4.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(活動)視聴覚ライブラリー関連講座開催日数	日	7.00	7.00	7.00	7.00	7.00	7.00	7.00
		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(成果)ホール・学習室等年間利用者数	人	144,000.00	144,000.00	144,000.00	144,000.00	144,000.00	144,000.00	144,000.00
		78,423.00	107,702.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(成果)講座等参加人数	人	300.00	300.00	300.00	300.00	300.00	300.00	300.00
		93.00	269.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
		評価理由	
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	B
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
		評価理由	
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	B
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
		評価理由	
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
		評価理由	
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	大津市に関する学習情報や文化情報の拠点施設として市民グループの自主的な学習活動を支援し、大津市内の学習情報の収集を行い市民からの学習活動の相談業務や情報発信を行っていくもの。また、新型コロナウイルス感染症対策を施しながら、安全・安心な学習環境を提供しセンターの利用促進を進めていく。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	拡大
部局コメント (400文字)	市民の自主的な生涯学習の拠点として、適切な情報発信を行い、安全で快適な学習環境を維持し、複合施設であるセンターの魅力向上に取り組む。また、引き続き利用促進を図るとともに、新型コロナウイルス感染症対策に留意し、効率的で持続可能な運営に努める。		



# 事務事業評価シート（1/2）

991 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0331  
 評価年度 令和 3年度  
 所属 2469  
 事務事業番号 00812

進捗区分 評価完了  
 教育委員会北部地域文化センター  
 北部地域文化センター運営事業

所属長名 金利 辰夫  
 記入者 石田 喜代之

## 【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります				
基本政策	003	生き生きと健康に過ごせるまちにします				
施策	009	生涯学習の推進				
取組の方向性	001	生涯にわたって学べる環境づくり				
事務事業	015	北部地域文化センター運営事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	直営					
評価区分	対象	主な取組区分	対象外			
根拠法令等	大津市北部地域文化センター条例					
事業概要	(事業概要) 北部地域における文化活動や生涯学習活動の拠点として、積極的な活用を図る。また、複合施設（文化ホール・北図書館・堅田少年センター・堅田児童館）としての維持管理の充実に努めている。					
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	(事業を取りまく社会環境) 平成5年7月の開設以来、北部地域の文化芸術活動・生涯学習の拠点施設として根つき、地域住民に親しまれてきたが、少子高齢化や市民ニーズの多様化の進展に伴い、新規需要に応える事業展開が求められている。 (見直しや改善等の経過) 平成25年度から自主事業を地域密着型の文化事業に見直し、また平成29年度以降はニーズの高い新規自主事業を積極的に展開し、着実に成果をあげてきた。					

## 【事業分析】

対象(何又は誰を)	市民
目的(何のために)	市民の文化芸術活動や生涯学習の活動を支援する施設として、市民の利用促進を図るとともに、安心して安全に利用できる施設の整備充実を行う。
手段(どのようなやり方で)	情報紙（北部地域文化センターだより）発行、自主事業ポスター・チラシ作成、ホームページの充実等により、施設の利用促進を広報（PR）する。また、年次計画等により施設の整備等を行う。
成果(どのような状態にするのか)	文化芸術活動や生涯学習の拠点施設として市民の幅広い層に利用いただき、地域の文化振興について住民の参加意識が高まり、北部地域全体の文化力が向上する。

## 【コスト】

(単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	52,239	50,358	109,416	155,814	147,277	88,672	73,926
事業費	39,188	35,778	94,836	141,234	132,697	74,092	59,346
国庫支出金	0	0	38,800	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	16,633	14,200	74,700	72,200	24,700	16,300
その他	2,906	2,668	3,080	3,080	3,080	3,080	3,080
一般財源	36,282	16,477	38,756	63,454	57,417	46,312	39,966
人件費計	13,051	14,580	14,580	14,580	14,580	14,580	14,580
事務・技術(人)	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.55	0.55	0.55	0.55	0.55	0.55
会計年度任用(人)	3.45	2.90	2.90	2.90	2.90	2.90	2.90
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0







# 事務事業評価シート（1/2）

整理番号 0332  
 評価年度 令和 3年度  
 所属 2453  
 事務事業番号 00806

進捗区分 評価完了  
 教育委員会和邇文化センター  
 和邇文化センター管理運営事業

所属長名 伊藤 善紀  
 記入者 伊藤 善紀

【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画		
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります		
基本政策	003	生き生きと健康に過ごせるまちにします		
施策	009	生涯学習の推進		
取組の方向性	001	生涯にわたって学べる環境づくり		
事務事業	013	和邇文化センター管理運営事業		
新規継続区分	継続			
運営方法	直営			
評価区分	対象	主な取組区分	対象外	
根拠法令等	大津市和邇文化センター条例			
事業概要	(事業概要) 和邇文化センターは、市民の文化及び教養の高揚並びに芸術の振興に寄与するため貸館をはじめ関連する事業を実施している。同センターは昭和63年4月に旧志賀町民センターとして開館し、500席（固定席）のホールと20名収容の会議室がある。ホールはピアノや日本舞踊などの発表会や各種講演会などに活用されている。施設には、和邇支所や和邇すこやか相談所・和邇あんしん長寿相談所及び和邇コミュニティセンターが併設されている。			
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	(事業を取りまく社会環境) ホールの利用状況は、社会構造の変化や少子高齢化の進展に加えて、新型コロナウイルス感染拡大防止対策が進む中、今後は、新たな視点により、利活用の促進や自主事業を開拓していく。 (見直しや改善等の経過) 当ホールは、座席が固定式で利用が限定されるが、ゆったりと観覧できるメリットを活かした舞台活用をアピールし利用促進を図っている。また、新型コロナウイルス感染防止対策が進展する中、多目的にわたるホールの利活用を図っている。			

【事業分析】

対象(何又は誰を)	市民及び関係団体
目的(何のために)	「自ら学ぶ」「自分で学ぶ」ことを基本とする生涯学習への関心の高まりと個性を生かし多様化、高度化している人々の要求に対応するため。
手段(どのようなやり方で)	ホームページ、広報おつをはじめ、毎月発行の和邇文化センターだより等の広報媒体への掲載及び各種パンフレットの配布により周知に努める。
成果(どのような状態にするのか)	利用促進を図ることで、広く市民等に利用していただき生涯学習の場として貢献する。

【コスト】

(単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	36,207	35,036	60,929	110,438	122,748	38,498	37,298
事業費	28,407	25,065	52,308	101,817	114,127	29,877	28,677
国庫支出金	0	0	14,400	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	911	9,800	0	0	0	0
その他	1,693	2,207	2,424	2,424	2,424	2,424	2,424
一般財源	26,714	21,947	25,684	99,393	111,703	27,453	26,253
人件費計	7,800	9,971	8,621	8,621	8,621	8,621	8,621
事務・技術(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.50	0.88	0.38	0.38	0.38	0.38	0.38
会計年度任用(人)	1.58	1.57	2.07	2.07	2.07	2.07	2.07
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

整理番号 0332  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2453 教育委員会和邇文化センター  
 事務事業番号 00806 和邇文化センター管理運営事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-25-05-35-00-01-00	和邇文化センター管理運営事業費	教育委員会和邇文化センター

【定量評価】 上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
(活動) 自主事業参加延べ人数	人	0.00	200.00	200.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00	1,000.00
		0.00	158.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(活動) 開館日数	日	248.00	291.00	291.00	292.00	293.00	292.00	291.00
		250.00	288.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(成果) 入館者数	人	4,700.00	4,700.00	8,000.00	10,000.00	12,000.00	14,000.00	16,000.00
		8,737.00	8,432.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(成果) ホール稼働率	%	35.00	35.00	35.00	35.00	35.00	35.00	35.00
		26.00	25.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
	C あまり妥当ではない		
	D 妥当ではない		
評価理由	市民にとって日頃の成果等を発表する機会や生涯学習の場が必要		
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	B
		B やや上がっている	
	C あまり上がっていない		
	D 上がっていない		
評価理由	舞台を利用した事業や会議等を推奨し、稼働率がやや向上している		
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	B
		B やや効率的である	
	C あまり効率的でない		
	D 効率的でない		
評価理由	発表の場だけでなく、広範囲にわたるホールの利活用を図っている		
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
	C あまり貢献していない		
	D 貢献していない		
評価理由	市民の生涯学習の拠点として貢献しており、市民の満足度は高い		
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	事業規模や内容の見直しが必要	事業の方向性	拡大
所属コメント (400文字)	社会構造の変化や少子高齢化の進展に加えて、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策が進展中、今後は新たな視点により、発表会等だけでなく、各種会議や総会・研修会など多目的で幅広い活用を図り、利用者の増加に努めたい。また、施設や設備の老朽化が著しい中ではあるが、社会環境の変化に対応できるよう、計画的に更新整備を行い、顧客満足度を向上させる。さらに、予算削減の中、自主事業は、令和元年で中止となったが、令和3年度より公開講座を実施している、今後は、新たな取り組みによる自主事業を開拓し、生涯学習の機会を積極的に提供して行く。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	拡大
部局コメント (400文字)	生涯学習の場として、今後、ますます市民ニーズが高まる可能性が大きく、事業を拡大する必要がある。財政状況厳しい中ではあるが、崇高な理念である「教育は人を育てる」を忘れず、更なる利用促進とサービスの向上に努めること。		



# 事務事業評価シート（1/2）

997 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0333  
評価年度 令和 3年度  
所属 2481  
事務事業番号 00197

進捗区分 評価完了  
教育委員会科学館  
科学館事業

所属長名 遠藤 健  
記入者 古川 恵子

## 【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります				
基本政策	003	生き生きと健康に過ごせるまちにします				
施策	009	生涯学習の推進				
取組の方向性	001	生涯にわたって学べる環境づくり				
事務事業	010	科学館事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	直営					
評価区分	対象	主な取組区分	対象外			
根拠法令等	生涯学習センター条例 第3条					
事業概要	<p>(事業概要)</p> <p>児童・生徒や一般市民の科学への興味関心を育て、科学知識の普及や向上を図るため、下記の科学館事業を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>サイエンス屋台村・わくわくサイエンス・科学講演会・星空観望会・昼間の星観察・太陽黒点観察・科学工作教室・子育て支援</li> </ul>					
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	<p>(事業を取りまく社会環境)</p> <p>科学技術の進展が飛躍的に進む中であっても、基礎的な科学知識の未修得な状況や子どもの理科離れが見られるため、子どもが身近な自然や科学の現象に触れ、体感的に学び理解を深める機会が必要とされている。</p> <p>(見直しや改善等の経過)</p> <p>新型コロナウイルスの状況に応じて、参加定員や規模を縮小したり、事業の進め方を工夫した。</p>					

## 【事業分析】

対象(何又は誰を)	幼児・児童・生徒及び一般市民を対象に、
目的(何のために)	科学への興味・関心を高め、科学知識の普及や向上を図るため、
手段(どのようなやり方で)	館内施設を活用した諸事業を企画することで科学に関する学習や体験の場を提供し、
成果(どのような状態にするのか)	科学の振興や科学知識の幅広い習得を図る。また、幼児から一般市民向けまで様々な年齢層を対象にした事業を実施することで、多様な年齢層の来館が見込める。

## 【コスト】

(単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	4,794	5,102	5,223	5,794	5,844	5,784	5,784
事業費	843	1,140	1,261	1,832	1,882	1,822	1,822
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
一般財源	843	1,140	1,261	1,832	1,882	1,822	1,822
人件費計	3,951	3,962	3,962	3,962	3,962	3,962	3,962
事務・技術(人)	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	1.02	1.02	1.02	1.02	1.02	1.02	1.02
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

998 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0333  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2481 教育委員会科学館  
 事務事業番号 00197 科学館事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-05-40-36-00-02-00	科学館事業費	教育委員会科学館

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値						
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
(活動)実施回数	回	50.00	100.00	150.00	150.00	150.00	150.00	150.00
		75.00	135.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(成果)参加者数	人	1,200.00	2,000.00	3,100.00	3,100.00	3,100.00	3,100.00	3,100.00
		1,473.00	3,011.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
評価理由	幼児や小中高生、大人まで、幅広い年齢層を対象にしている		
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	A
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
評価理由	密を避ける工夫と両立させながら、事業を実施している		
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	B
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
評価理由	限られた予算と人員の中で、職員の努力の度合いが大きい		
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
評価理由	多様な事業の実施により理科教育の振興や普及に貢献している		
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	拡大
所属コメント (400文字)	withコロナ、afterコロナの考えで、「三密」を避ける工夫は続けながらも、多くの方に来館いただき、各種事業を魅力的に展開していくことが求められていると考える。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	拡大
部局コメント (400文字)	幼児児童生徒や市民に対して多彩な科学現象や自然に触れる機会を提供し、科学全般に対する興味や関心を高めもらうことで科学教育の振興や普及に貢献しており、今後も引き続き新たな創意工夫のもとに各種事業を展開することで推進を図っていく。		



# 事務事業評価シート（1/2）

1000 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0334  
 評価年度 令和 3年度  
 所属 2481  
 事務事業番号 02510

進捗区分 評価完了  
 所属長名 遠藤 健  
 記入者 古川 恵子

教育委員会科学館  
 科学の子育成事業

## 【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります				
基本政策	003	生き生きと健康に過ごせるまちにします				
施策	009	生涯学習の推進				
取組の方向性	002	地域人材の育成				
事務事業	004	科学の子育成事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	直営					
評価区分	対象	主な取組区分	対象外			

根拠法令等	生涯学習センター 第3条				
事業概要	(事業概要) 子どもたちに科学館施設を使った学習機会を設けると共に、科学やものづくりに興味・関心を持つ児童・生徒に対し、ものづくり活動や先端科学技術に触れる機会を提供する。 ・移動教室 ・大津少年少女発明クラブ ・I Fクラス ・出張科学教室				
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	(事業を取りまく社会環境) 科学技術の進歩が著しい昨今においても児童生徒の理科離れの傾向が見られることから、魅力ある科学教室を実施し、科学に関する興味関心を高める取り組みが求められている。 (見直しや改善等の経過) 市内全小学校6年生にプラネタリウムや科学実験による理科授業を実施している。また、企業や大学の協力により、最先端の科学技術に触れる科学教室を実施している。コロナ対策のため、事業の一部中止や変更をした。				

【事業分析】	
対象(何又は誰を)	幼児・児童・生徒を対象に、
目的(何のために)	子どもたちの科学技術や自然環境に対する興味・関心を高め、生き生きと学びながら「生きる力」を育むため、
手段(どのようなやり方で)	科学館施設を活用した学習や魅力ある科学教室、ものづくり活動や最先端の科学技術に触れる機会を提供し、
成果(どのような状態にするのか)	科学やものづくりを身近に感じることで生活に密着した科学技術の有用性を理解し、さらに発展的な学習意欲の向上につなげる。

## 【コスト】 (単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	6,193	6,086	6,931	7,072	7,072	7,072	7,072
事業費	2,917	2,822	3,667	3,808	3,808	3,808	3,808
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	1,869	1,300	0	0	0	0
一般財源	2,917	953	2,367	3,808	3,808	3,808	3,808
人件費計	3,276	3,264	3,264	3,264	3,264	3,264	3,264
事務・技術(人)	0.16	0.16	0.16	0.16	0.16	0.16	0.16
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	0.64	0.64	0.64	0.64	0.64	0.64	0.64
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0



# 事務事業評価シート（2/2）

1001 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0334  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2481 教育委員会科学館  
 事務事業番号 02510 科学の子育成事業

## 【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-05-40-36-00-03-00	科学の子育成事業費	教育委員会科学館

## 【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値						
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
(活動)実施回数	回	40.00	50.00	70.00	70.00	70.00	70.00	70.00
		34.00	62.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(成果)参加者数	人	2,800.00	3,000.00	3,300.00	3,300.00	3,300.00	3,300.00	3,300.00
		2,301.00	2,929.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

## 【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
評価理由	学習指導要領で科学館等の積極的活用が求められている		
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	B
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
評価理由	科学館の移動教室で学習意欲が向上するが、中断中の内容がある		
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	B
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
評価理由	定員を下げている分、効率的とはいえないが、手厚く指導している		
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
評価理由	参加した児童たちの満足度が高い		
評価理由			

## 【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	拡大
所属コメント (400文字)	「移動教室」は、令和3年度は、全校が参加する意思があったが、実際にコロナ学級閉等で参加できなかった学校が6校あった。「移動教室」に実際に参加して、科学館施設で児童たちが喜んで活動している様子や、発明クラブ、IFクラス等で、貴重な体験をしている様子から、予算や手間をかけて、これらの事業を継続、充実させていくことが科学館の使命と考え、取り組んでいく。		

## 【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	拡大
部局コメント (400文字)	次代を担う子どもたちの科学技術や自然環境に対する興味や関心を高め、科学の基礎から先端までを学べる機会を提供することは大変意義深いものがあり、引き続き質の高い事業の実施に努めていくが、今後は参加者数の減少が見込まれるところ、更なる創意工夫を凝らして取り組んでいく。		



# 事務事業評価シート（1/2）

1003 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0335  
評価年度 令和 3年度  
所属 2414  
事務事業番号 00822

進捗区分 評価完了  
教育委員会図書館  
図書資料整備事業

所属長名 清水 美幸  
記入者 松本 まどか

## 【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画	
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります	
基本政策	003	生き生きと健康に過ごせるまちにします	
施策	009	生涯学習の推進	
取組の方向性	001	生涯にわたって学べる環境づくり	
事務事業	003	図書資料整備事業	
新規継続区分	継続		
運営方法	直営		
評価区分	対象	主な取組区分	対象

根拠法令等 図書館法 読書バリアフリー法 大津市立図書館条例 大津市立図書館の管理運営に関する規則

事業概要  
(事業概要)  
市民の読書要求に応え学習の機会を保障し、生活に根ざした知識・情報提供の拠点として、市民にとって常に魅力的で新鮮な蔵書構成を維持するために必要な図書、雑誌、郷土・行政資料、視聴覚資料、バリアフリー資料、オーディオブック、電子図書等の収集、保存、整備を行う。また、特に子どもの育ちを支援することに重点を置き、本を通して子どもの読書習慣や自ら学ぼうとする意欲の形成を支援する。

事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し  
(事業を取りまく社会環境)  
市民生活を支援する社会教育施設として、利用者の多様化するニーズやコロナ禍の状況を的確に把握し、資料や情報提供すると共に特に若者の活字離れが危惧される中、より一層の魅力ある資料の充実が求められている。  
(見直しや改善等の経過)  
的確なニーズの把握に努めて利用者サービスの充実を図った。電子図書やオーディオブックを導入して非来館型電子図書館の導入や子ども読書活動推進に向けて児童書の学校貸出用図書整備充実にも努めた。

## 【事業分析】

対象(何又は誰を)	市民（市内在住、在勤、在学）
目的(何のために)	市民の読書要求に応え、生涯学習、教養、調査研究、レクリエーション等に資する。
手段(どのようなやり方で)	資料の収集、整理、保存、提供、除籍
成果(どのような状態にするのか)	市民一人ひとりが、自分の知りたい情報（内容）を有する図書を読み、仕事・勉強・生活に役立てることにより、市民の自己実現（個性を発揮し自分らしく活動できる）に資する。

## 【コスト】 (単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	78,673	66,983	64,054	65,234	65,204	65,204	65,204
事業費	62,750	50,458	47,529	48,709	48,679	48,679	48,679
国庫支出金	22,302	7,599	2,000	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	54	19	45	45	45	45	45
一般財源	40,394	42,840	45,484	48,664	48,634	48,634	48,634
人件費計	15,923	16,525	16,525	16,525	16,525	16,525	16,525
事務・技術（人）	0.80	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
技能労務（人）	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用（人）	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用（人）	3.05	2.75	2.75	2.75	2.75	2.75	2.75
嘱託（人）	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時（人）	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート (2/2)

1004 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0335  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2414 教育委員会図書館  
 事務事業番号 00822 図書資料整備事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-25-40-16-00-01-00	図書資料整備事業費	教育委員会図書館

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値							
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	
(活動)蔵書数	冊	880,000.00	881,000.00	899,000.00	899,000.00	899,000.00	899,000.00	899,000.00	
		875,065.00	891,443.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(活動)新規図書購入等冊数	冊	30,000.00	30,000.00	31,000.00	31,000.00	31,000.00	31,000.00	31,000.00	
		31,108.00	33,644.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果)図書貸出冊数	冊	1,107,000.00	1,394,000.00	1,518,000.00	1,518,000.00	1,518,000.00	1,518,000.00	1,518,000.00	
		1,290,294.00	1,505,101.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果)開架に占める新規図書比	%	9.10	9.10	9.10	9.10	9.10	9.10	9.10	
		8.00	8.40	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
		評価理由	
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	B
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
		評価理由	
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	A
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
		評価理由	
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
		評価理由	
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	市民にとって身近な社会教育施設として、図書等の資料及び電子図書を含め、多岐にわたって情報サービスの充実に向けた魅力ある資料の収集に努めるとともに、子どもの読書活動をより推進していくため児童書の充実を継続する。引き続き不読率改善のために中学生への読書活動支援を行う。また、今年度から新規事業として、児童館及び子育て総合支援センターへの団体貸出事業及び移動図書館の出前巡回などを実施することで、更なる資料の充実と提供に努めていく。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
部局コメント (400文字)	市民の読書要求に応え、学習の機会を保障するため、幅広い資料の充実と努めるとともに、市民の生涯学習推進と子ども読書活動の推進を図るため、様々な資料を通して新鮮で魅力ある資料の整備を図っていく。		



# 事務事業評価シート（1/2）

1006 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0336  
評価年度 令和 3年度  
所属 2476  
事務事業番号 00074

進捗区分 評価完了  
教育委員会教育支援センター  
教育相談事業

所属長名 菊谷 愛  
記入者 源田 扶左子

## 【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります				
基本政策	001	子どもの未来が輝くまちにします				
施策	002	子どもを守る仕組みの充実				
取組の方向性	001	子どもの人権の尊重				
事務事業	006	教育相談事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	直営					
評価区分	対象	主な取組区分	対象			

根拠法令等	教育相談センター条例 教育相談センターの管理運営に関する規則				
事業概要	<p>(事業概要) 情緒不安や集団になじめない等の教育についての課題及び子育てに悩む保護者や教職員、並びに情緒不安や集団になじめない等の悩みを持つ子どもに対して教育相談を実施し、課題解決への支援を行う。</p>				
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	<p>(事業を取りまく社会環境) 社会や教育環境の変化に伴い、子どもを巡る課題も年々多様化、深刻化している。相談内容も不登校、子育て、発達に関する課題等、多岐にわたるとともに深刻なケースが増えている。 (見直しや改善等の経過) 各ケースへの対応を通して学校や医療・福祉関係機関との連携を強化するとともに、専門家（公認心理師）の活用により、教育相談体制の強化を図る。</p>				

## 【事業分析】

対象(何又は誰を)	保護者・教職員・子どもを対象に
目的(何のために)	教育についての課題や子育てに関する悩みの相談を受け、課題解決への支援を行うため
手段(どのようなやり方で)	電話による教育相談や来所による面接相談を実施することで
成果(どのような状態にするのか)	子どもの社会的自立を支援する。

## 【コスト】

(単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	13,604	15,502	17,052	17,342	17,247	17,247	17,247
事業費	102	134	162	452	357	357	357
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
一般財源	102	134	162	452	357	357	357
人件費計	13,502	15,368	16,890	16,890	16,890	16,890	16,890
事務・技術(人)	0.02	0.65	0.60	0.60	0.60	0.60	0.60
技能労務(人)	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	3.27	3.28	3.90	3.90	3.90	3.90	3.90
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

1007 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0336  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2476 教育委員会教育支援センター  
 事務事業番号 00074 教育相談事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-05-15-13-00-01-00	教育相談事業費	教育委員会教育相談センター

【定量評価】 上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
(活動) 電話による相談件数	件	750.00	1,100.00	800.00	800.00	800.00	800.00	800.00
		1,431.00	978.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(活動) 来所面接による延べ相談人数	人	1,650.00	1,900.00	1,700.00	1,700.00	1,700.00	1,700.00	1,700.00
		1,520.00	1,400.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(成果) 来所面接相談の終結件数	件	700.00	1,100.00	800.00	800.00	800.00	800.00	800.00
		1,201.00	833.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
		評価理由	
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	B
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
		評価理由	
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	A
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
		評価理由	
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
		評価理由	
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	教育を取り巻く環境の変化から、集団になじめない子どもや発達に課題のある子どもにかかる複雑で困難な相談事例もある。また、複雑な相談内容のため、年度をまたいでの相談も増えていることから、専門的見地により相談及び学校連携ができる公認心理師の活用充実により、教育相談体制の強化を図る。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
部局コメント (400文字)	深刻な家庭環境の課題や発達課題のある児童生徒への対応については、在籍校及び関係機関との連携を密にして対応すること。		





# 事務事業評価シート（1/2）

1009 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0337  
評価年度 令和 3年度  
所属 2476  
事務事業番号 00076

進捗区分 評価完了  
教育委員会教育支援センター  
不登校対策事業

所属長名 菊谷 愛  
記入者 源田 扶左子

## 【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画	
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります	
基本政策	001	子どもの未来が輝くまちにします	
施策	002	子どもを守る仕組みの充実	
取組の方向性	001	子どもの人権の尊重	
事務事業	007	不登校対策事業	
新規継続区分	継続		
運営方法	直営		
評価区分	対象	主な取組区分	対象

根拠法令等	教育相談センター条例 教育相談センターの管理運営に関する規則		
事業概要	<p>(事業概要)</p> <p>大津市内の小学校に在籍し、不登校（傾向）の状況にある子どもに対して、その長期化・固定化を防ぐため、当該の学校や家庭を訪問して要因や背景等の見立てを行い、個に応じた支援方策を検討・実施することで、学校復帰や社会的自立につながる支援を行う。</p>		
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	<p>(事業を取りまく社会環境)</p> <p>不登校（傾向）にある子どもは、社会環境の変化や家庭環境等、様々な要因や背景により、学校に登校できない状況が長期化・固定化する傾向にある。</p> <p>(見直しや改善等の経過)</p> <p>令和2年度から通級対象を小学校1年生からと拡大して実施。令和2年10月より特別支援学級在籍児童の通級を可能とする。令和3年度から小学校内に開設していた分室「せた」の会場を「瀬田北市民センター」内に変更して開設する。</p>		

## 【事業分析】

対象(何又は誰を)	不登校（傾向）にある子どもやその保護者、子どもに関わる教職員
目的(何のために)	不登校（傾向）にある子どもに対して、その長期化・固定化を防ぐため
手段(どのようなやり方で)	当該の学校や家庭を訪問し、要因や背景等の見立てを行い、その子どもや家庭に合った支援方策を検討、実施することで
成果(どのような状態にするのか)	学校復帰や社会的自立を目指す。

## 【コスト】

(単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	12,265	20,903	36,968	37,571	37,457	37,457	37,457
事業費	620	692	2,723	3,326	3,212	3,212	3,212
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	98	225	225	225	225
一般財源	620	692	2,625	3,101	2,987	2,987	2,987
人件費計	11,645	20,211	34,245	34,245	34,245	34,245	34,245
事務・技術(人)	0.02	1.05	1.20	1.20	1.20	1.20	1.20
技能労務(人)	0.40	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	2.88	3.81	7.95	7.95	7.95	7.95	7.95
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

1010 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0337  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2476 教育委員会教育支援センター  
 事務事業番号 00076 不登校対策事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-05-15-13-00-03-00	不登校対策事業費	教育委員会教育相談センター

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値							
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	
(活動)不登校対策巡回相談員の訪問件数	回	60.00	80.00	80.00	80.00	80.00	80.00	80.00	
		83.00	64.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(活動)保護者及び児童面談者数	人数	140.00	160.00	160.00	160.00	160.00	160.00	160.00	
		111.00	149.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果)教育支援ルーム(せた・ぜぜ・わに)における再登校率	%	90.00	95.00	90.00	90.00	90.00	90.00	90.00	
		100.00	89.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
	C あまり妥当ではない		
	D 妥当ではない		
評価理由	不登校が長期化するまでの早期に巡回相談により助言等を行える		
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	A
		B やや上がっている	
	C あまり上がっていない		
	D 上がっていない		
評価理由	巡回相談員が面談した保護者・児童は増え、支援助言ができています		
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	B
		B やや効率的である	
	C あまり効率的でない		
	D 効率的でない		
評価理由	巡回相談訪問から適応指導教室での指導につなげられる		
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
	C あまり貢献していない		
	D 貢献していない		
評価理由	不登校児童の学校復帰や社会的自立につなげられている		
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	拡大
所属コメント (400文字)	教育機会確保の観点から、ICTを活用した不登校児童への学習支援等を進めるとともに、令和4年度より「適応指導教室」を「教育支援ルーム」と改め、開設日数を拡大する。また、同年度からは「不登校対策事業」・「適応指導教室事業」を統合し、「教育支援事業」として包括的に事業を実施していく。さらに、関係機関との連携強化を図るとともに、フリースクール等の民間施設の方針や活動内容を把握するための調査を行う。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	拡大
部局コメント (400文字)	教育支援ルームの開設日の拡大、ICT機器を活用した学習機会の充実を検討すること。また、不登校の固定化・長期化を防ぐため、個々の子どもの状況を把握し、アセスメントを行い、適切な支援を実施すること。		



# 事務事業評価シート（1/2）

1012 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0338  
評価年度 令和 3年度  
所属 2476  
事務事業番号 00077

進捗区分 評価完了  
教育委員会教育支援センター  
適応指導教室事業

所属長名 菊谷 愛  
記入者 源田 扶左子

## 【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります				
基本政策	001	子どもの未来が輝くまちにします				
施策	002	子どもを守る仕組みの充実				
取組の方向性	001	子どもの人権の尊重				
事務事業	008	適応指導教室事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	直営					
評価区分	対象	主な取組区分	対象			
根拠法令等	教育相談センター条例 教育相談センターの管理運営に関する規則					
事業概要	<p>(事業概要) 不登校の状態が継続し、本人及び保護者が学校以外で通うことができる場を望んでいる者を対象に、適応指導教室「ウイング」を開設し、学校復帰や社会的自立につながる支援を行う。</p>					
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	<p>(事業を取りまく社会環境) 社会や教育環境の変化等により、不登校の状態にある児童生徒の要因は多様化、複雑化している。 (見直しや改善等の経過) 小学生を対象とした適応指導教室分室「ウイングぜぜ」「ウイングわに」を平成28年度から開設し、平成30年から「ウイングせた」を開設している。</p>					

## 【事業分析】

対象(何又は誰を)	市内に所在する小学校・中学校に在籍する子どもで不登校の状態が継続し、本人及び保護者が学校以外で通うことができる場を望んでいる者を対象に
目的(何のために)	不登校(傾向)の子どもが心身の健康を取り戻すとともに、学校復帰や社会的自立につなぐため
手段(どのようなやり方で)	適応指導教室における学習支援や体験活動による支援及び親子並行面接相談の実施
成果(どのような状態にするのか)	心身の健康を取り戻し、学校復帰や社会的自立を目指す

## 【コスト】

(単位:千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	11,799	16,458	0	0	0	0	0
事業費	676	857	0	0	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	4	0	0	0	0	0
一般財源	676	853	0	0	0	0	0
人件費計	11,123	15,601	0	0	0	0	0
事務・技術(人)	0.02	0.90	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
技能労務(人)	0.40	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	2.71	2.71	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

整理番号 0338  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2476 教育委員会教育支援センター  
 事務事業番号 00077 適応指導教室事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-05-15-13-00-08-00	適応指導教室事業費	教育委員会教育相談センター

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値						
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
(活動) 通級者数	人	30.00	30.00	30.00	30.00	30.00	30.00	30.00
		47.00	52.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(成果) 再登校割合	%	90.00	95.00	90.00	90.00	90.00	90.00	90.00
		95.70	92.90	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
評価理由	適応指導教室を開設することは教育機会確保の観点から重要な施策		
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	B
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
評価理由	92.9%の児童生徒に別室登校等ができるなど改善が見られる		
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	B
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
評価理由	正式通級までの過程を見直し、効率化を図る必要がある		
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
評価理由	学力補充や社会的自立に向けた能力育成の場を提供できている		
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	令和4年度より、「適応指導教室」を「教育支援ルーム」に改め、最大通級可能日を4日に拡大するとともに、ICTを活用した学習支援を実施する。また、「不登校対策事業」へ統合し、「教育支援事業」として包括的に事業を実施していく。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
部局コメント (400文字)	教育機会確保の観点から教育支援ルームの開設場所の拡大や、ICT機器を活用した学習機会の提供を検討すること。		



# 事務事業評価シート（1/2）

1015 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0339  
評価年度 令和 3年度  
所属 2476  
事務事業番号 00119

進捗区分 評価完了  
所属長名 菊谷 愛  
記入者 源田 扶左子

教育委員会教育支援センター  
特別支援教育充実事業

## 【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります				
基本政策	001	子どもの未来が輝くまちにします				
施策	003	子どもの教育の充実				
取組の方向性	001	将来の夢を広げ次代を生き抜く力の育成				
事務事業	010	特別支援教育充実事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	直営					
評価区分	対象	主な取組区分	対象			

根拠法令等 学校教育法 教育基本法 学校教育施行規則 学校教育施行令

事業概要  
(事業概要)  
特別な支援を要する児童生徒の健やかな成長に資するため、学校訪問や講師招聘による研修支援を行う。

事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し  
(事業を取りまく社会環境)  
『障害者差別解消法』施行以降、年々インクルーシブ教育体制の充実が求められている。さらに平成31年3月「学校における医療的ケアの今後の対応について」（文部科学省通知）を受けた対応が必要になってきている。  
(見直しや改善等の経過)  
平成28年度に、医療的ケア支援員を配置した。また、平成30年度より、支援を要する子どもに学校が柔軟に対応できるように、特別支援教育支援員を他の支援員に統合した。

## 【事業分析】

対象(何又は誰を)	市内在住の小学校、中学校の在籍児童生徒を対象として
目的(何のために)	特別な支援を要する児童生徒の健やかな成長に資するため
手段(どのようなやり方で)	学校訪問の実施や講師の招聘を通じて
成果(どのような状態にするのか)	各学校園が校種間で円滑な連携を行い、個に応じた支援体制を整える。

## 【コスト】 (単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	8,481	8,294	8,249	8,475	8,878	8,923	9,046
事業費	1,019	1,014	1,949	2,175	2,578	2,623	2,746
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
一般財源	1,019	1,014	1,949	2,175	2,578	2,623	2,746
人件費計	7,462	7,280	6,300	6,300	6,300	6,300	6,300
事務・技術(人)	0.91	0.91	0.71	0.71	0.71	0.71	0.71
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	0.00	0.00	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

1016 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0339  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2476 教育委員会教育支援センター  
 事務事業番号 00119 特別支援教育充実事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-05-15-21-00-01-00	特別支援教育充実事業費	教育委員会学校教育課

【定量評価】 上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
(活動) 学校からの要請に応じた訪問の回数	回	120.00	120.00	120.00	130.00	130.00	130.00	130.00
		110.00	151.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(成果) 特別支援教育体制が整備されている学校数	校	55.00	55.00	55.00	55.00	55.00	55.00	55.00
		55.00	55.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
		評価理由	
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	A
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
		評価理由	
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	A
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
		評価理由	
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
		評価理由	
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	特別な教育的支援を要する児童生徒数は年々増加しており、各校の特別支援教育体制整備の充実に向け、医療的ケア支援員（看護師）配置と指導支援等を継続する。令和4年度より教育活動専門員を増員し、学校への訪問指導、支援を充実させる。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
部局コメント (400文字)	特別な支援を必要とする児童生徒の増加に対応できるよう、特別支援教育の支援体制を充実していく。		





# 事務事業評価シート（1/2）

1018 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0340  
 評価年度 令和 3年度  
 所属 2476  
 事務事業番号 01439

進捗区分 評価完了  
 所属長名 菊谷 愛  
 記入者 源田 扶左子

進捗区分 評価完了  
 教育委員会教育支援センター  
 教育相談センター管理運営事業

## 【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります				
基本政策	001	子どもの未来が輝くまちにします				
施策	002	子どもを守る仕組みの充実				
取組の方向性	003	一貫した子どもの発達支援				
事務事業	004	教育相談センター管理運営事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	直営					
評価区分	対象	主な取組区分	対象外			
根拠法令等	教育相談センター条例 教育相談センターの管理運営に関する規則					
事業概要	(事業概要) 教育についての課題及び子育てに悩む保護者等に対して、子どもの健全育成を図るため、教育相談等の事業を行う。教育相談センターは平成27年2月に明日都浜大津ビルの1階・3階に移転した。開所日は月曜日から土曜日（日曜日と祝日と年末年始の定められた日は休み）の6日間である。					
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	(事業を取りまく社会環境) 社会環境の変化等、様々な要因や背景により、集団不適應や情緒不安等、教育に関する課題及び子育ての悩みが複雑化、多様化してきている。 (見直しや改善等の経過) 平成27年2月に明日都浜大津に移転。子ども発達相談センター、学校教育課特別支援教室と同一執務室で業務を行っており、連携を強化している。					

## 【事業分析】

対象(何又は誰を)	教育についての課題や子育てに悩む保護者や教職員、不安や悩みを抱える子どもを対象に
目的(何のために)	市内小中学校・園の教育相談の中核機関として、教育相談を実施し、不登校（傾向）の子どもに対し適応指導教室を開設して、心身の健全な育成を図るため
手段(どのようなやり方で)	相談室の提供・適応指導教室の提供、教育相談講演会を実施することで
成果(どのような状態にするのか)	子どもの心身の健全な育成を図る教育施設として、適切な運営を行う。

## 【コスト】

(単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	9,318	8,512	8,948	9,638	9,616	9,616	9,638
事業費	1,582	1,312	1,348	2,038	2,016	2,016	2,038
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
一般財源	1,582	1,312	1,348	2,038	2,016	2,016	2,038
人件費計	7,736	7,200	7,600	7,600	7,600	7,600	7,600
事務・技術(人)	0.38	0.90	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95
技能労務(人)	0.70	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

整理番号 0340  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2476 教育委員会教育支援センター  
 事務事業番号 01439 教育相談センター管理運営事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-05-15-13-00-05-00	教育相談センター管理運営事業費	教育委員会教育相談センター

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値						
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
(活動)教育支援センタ ー開所日数	日	293.00	296.00	294.00	292.00	293.00	292.00	292.00
		293.00	293.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(成果)教育支援センタ ー来所件数	件	3,500.00	4,500.00	4,000.00	4,000.00	4,000.00	4,000.00	4,000.00
		2,994.00	3,035.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥 当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
評価理由	子育てに悩む市民に対して相談の場を提供することができる		
2 有効性	事業分析の「成果」欄 に記載の成果は上がっ ているか	A 上がっている	A
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
評価理由	市民からの教育相談にかかるニーズに応じることができている		
3 効率性	事業手法は効率的であ るか	A 効率的である	A
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
評価理由	子どもの在籍する学校との連携を図り支援を行うことができている		
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献 しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
評価理由	子どもが安心して学ぶことできる環境づくりに貢献している		
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	平成27年2月より明日都浜大津内で子ども発達相談センターと同一施設で開設。令和2年4月には、特別支援教育室が開設され、令和4年度からは特別支援教育室の事務を教育支援センターに一元化することにより、相談・支援窓口の一元化による包括的な支援機能を確保する。2所属での執務室共用とともに、利用者数の漸増による相談室共用が難しくなってきたことから、何らかの対策が今後必要である。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
部局コメント (400文字)	子ども発達相談センターとは一部対象年齢や対象者が異なっていることから、一層連携を密にし、支援を充実させること。		



# 事務事業評価シート（1/2）

1021 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0341  
 評価年度 令和 3年度  
 所属 2476  
 事務事業番号 02222

進捗区分 評価完了  
 所属長名 菊谷 愛  
 記入者 源田 扶左子

進捗区分 評価完了  
 教育委員会教育支援センター  
 特別支援教育相談事業

## 【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります				
基本政策	001	子どもの未来が輝くまちにします				
施策	002	子どもを守る仕組みの充実				
取組の方向性	003	一貫した子どもの発達支援				
事務事業	003	特別支援教育相談事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	直営					
評価区分	対象	主な取組区分	対象			

根拠法令等	大津市特別支援教育対象児等教育支援委員会規則				
事業概要	(事業概要) ○就学相談：子どもの状況把握と保護者の願いの聴取、専門家の意見聴取を行う。 ○特別支援教育巡回相談：学校における特別支援教育に係る助言や児童生徒観察、保護者相談を実施する。 ○大津市ことばの教室：ことばやコミュニケーションに課題がある子どもへの指導と保護者相談を行う。				
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	(事業を取りまく社会環境) 平成28年の障害者差別解消法の施行により、インクルーシブ教育体制づくりが求められるとともに、特別な支援を要する児童生徒への支援ニーズが年々高まってきている。 (見直しや改善等の経過) 就学相談件数の漸増により、効率的な就学相談の実施を目指して就学相談ガイドブックを発刊するとともに、毎年改訂を行うことで就学相談業務の適正化を図っている。				

【事業分析】	
対象(何又は誰を)	市内在住の幼児・児童・生徒を対象として
目的(何のために)	特別な教育的支援を要する幼児、児童生徒の健やかな成長に資するため
手段(どのようなやり方で)	巡回訪問の実施やことばの教室の運営、就学相談会を開催することで
成果(どのような状態にするのか)	各学校園との円滑な連携、指導、相談を行い、個に応じた就学指導や特別な教育的支援の充実を図る。また、ことばの教室においては、保護者への相談活動や幼児児童生徒への言語指導の促進を図る。

【コスト】		(単位：千円)						
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
		決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト		32,196	33,162	38,722	40,507	38,439	38,439	38,439
事業費		1,330	2,271	3,063	4,848	2,780	2,780	2,780
国庫支出金		0	0	0	0	0	0	0
県支出金		0	0	0	0	0	0	0
地方債		0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0
一般財源		1,330	2,271	3,063	4,848	2,780	2,780	2,780
人件費計		30,866	30,891	35,659	35,659	35,659	35,659	35,659
事務・技術(人)		0.99	0.99	1.09	1.09	1.09	1.09	1.09
技能労務(人)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)		7.41	7.41	8.69	8.69	8.69	8.69	8.69
嘱託(人)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費		0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

1022 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0341  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2476 教育委員会教育支援センター  
 事務事業番号 02222 特別支援教育相談事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-05-15-21-00-02-00	特別支援教育相談事業費	教育委員会学校教育課
01-50-05-15-21-00-02-00	特別支援教育相談事業費	教育委員会教育相談センター

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値							
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	
(活動) 特別支援教育相談実施件数	件	2,500.00	2,500.00	2,500.00	2,500.00	2,500.00	2,500.00	2,500.00	
		2,328.00	2,492.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(活動) 就学相談実施件数	件	300.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
		444.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果) 就園就学相談実施率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	
		148.00	156.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果) 特別支援教育相談実施率	%	100.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
		93.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
評価理由	特別な支援を要する児童生徒への支援ニーズは年々高まっている		
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	A
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
評価理由	同一校園から複数回の相談依頼があり、支援の充実が見られる		
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	A
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
評価理由	ガイドブック発刊等で効率的な相談実施が図れている		
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
評価理由	増加する特別支援教育相談に対応し、本市特別支援教育推進に貢献		
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	拡大
所属コメント (400文字)	特別な支援を必要とする児童生徒に対して、更に適切な相談・支援を行うため、令和4年度より、教育支援員を増員するとともに専門的な視点から相談・支援を行う発達相談員を増員し、学校への巡回相談を充実させる。また、適正な就学先決定のための就学相談についても、年々相談件数が増加しており、その内容も複雑・多岐にわたることから、一人ひとりにきめ細かな対応をするためにも指導主事の増員が不可欠である。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	拡大
部局コメント (400文字)	特別な教育的支援を要する児童生徒への相談・支援を充実させるとともに、保護者の心情に沿った丁寧な就学相談の実施に必要な体制整備を検討する。		



# 事務事業評価シート（1/2）

1024 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0342  
評価年度 令和 3年度  
所属 2416  
事務事業番号 00879

進捗区分 評価完了  
教育委員会少年センター  
特別非行防止対策事業（大津少年センター）

所属長名 今井 公夫  
記入者 橋本 正輝

## 【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります				
基本政策	001	子どもの未来が輝くまちにします				
施策	002	子どもを守る仕組みの充実				
取組の方向性	001	子どもの人権の尊重				
事務事業	009	特別非行防止対策事業（大津少年センター）				
新規継続区分	継続					
運営方法	その他					
評価区分	対象	主な取組区分	対象			
根拠法令等	無職少年等非行防止対策事業費補助金交付要綱					
事業概要	<p>(事業概要) 無職少年のうち非行少年等に対して、就労・就学および適切な助言・指導等を個に応じて行い社会的自立を支援する。</p>					
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	<p>(事業を取りまく社会環境) 無職少年は、離職をして再度非行に走るケースや社会的に孤立するケースもあり、継続的な就労支援や非行防止対策が求められている。</p> <p>(見直しや改善等の経過) 無職少年は、学校や職場からの指導・助言を受けにくいと、平成元年より無職少年対策連絡協議会を開催し、情報の交換と共有化を図り、就労に向けて関係機関との連携強化をした。</p>					

## 【事業分析】

対象(何又は誰を)	中学校卒業後の15歳以上20歳未満の少年で、就学をしておらず社会通念上定職者と認められない者
目的(何のために)	無職少年の就労・就学及び自立更生
手段(どのようなやり方で)	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談活動の充実を図り、対象少年及び保護者に対する指導・助言を行う</li> <li>学校、警察、職業安定所等関係機関との連携を図り、実態把握と自立支援及び就労・就学支援活動を実施する</li> </ul>
成果(どのような状態にするのか)	少年たちの生活習慣が改善され、意欲をもって就学したり、安定した就労をするようになる。

## 【コスト】

(単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	3,589	3,598	3,597	3,590	3,590	3,590	3,590
事業費	6	8	7	0	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	6	8	2	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
一般財源	0	0	5	0	0	0	0
人件費計	3,583	3,590	3,590	3,590	3,590	3,590	3,590
事務・技術(人)	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0



# 事務事業評価シート（2/2）

1025 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0342  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2416 教育委員会少年センター  
 事務事業番号 00879 特別非行防止対策事業（大津少年センター）

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-25-30-40-00-01-00	特別非行防止対策事業費（大津少年センター）	教育委員会少年センター

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値						下段：実績値	
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	
(活動) 相談延べ回数	回	210.00	190.00	190.00	190.00	190.00	190.00	190.00	
		186.00	175.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果) 就労・就学数	人	1.00	1.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	
		2.00	2.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
		評価理由	
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	A
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
		評価理由	
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	A
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
		評価理由	
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
		評価理由	
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	無職少年の相談は、非行少年や引きこもり傾向の少年等多様化の傾向が見られる、また、少年本人の課題や生育歴に加え、家庭的な要因等が複雑に絡み合っているケースが多い。指導員は少年個々の理解に努め、寄り添い、あすくと連携しながら、非行少年や社会的に孤立している無職少年等の就労等に向けて指導支援を行っている。今後も、高等学校訪問や警察、保護司会等関係機関と連携し無職少年の把握に努めるとともに、ケースによってハローワークや地域若者サポートステーション等の就労支援機関や子ども若者総合相談窓口等福祉機関等と連携し支援できるよう、今後も無職少年対策指導員を配置して無職少年の非行防止と健全育成に努めるべき事業である。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
部局コメント (400文字)	無職少年の把握や少年個々に応じた相談・支援をあすくや関係機関と連携を図りながら行っており、無職少年等を就労につなげた実績もある。無職少年等の非行防止や社会的自立の視点からもその役割は重要であり、今後も取り組みを進めたい。		



# 事務事業評価シート（1/2）

1027 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0343  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2416 教育委員会少年センター  
 事務事業番号 00881 大津少年センター運営事業

所属長名 今井 公夫  
 記入者 橋本 正輝

## 【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります				
基本政策	003	生き生きと健康に過ごせるまちにします				
施策	010	青少年の健全育成				
取組の方向性	001	子ども・若者の健やかな育成				
事務事業	007	大津少年センター運営事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	直営					
評価区分	対象	主な取組区分	対象外			

根拠法令等 大津市生涯学習センター条例・運営規則

事業概要  
 (事業概要)  
 青少年の非行防止と健全育成を図るため、少年問題に関する情報・資料の収集や整備を行い、学校、地域、警察等関係機関との連携を図り、少年補導活動・相談活動・環境浄化活動・広報啓発活動、学校支援アドバイザー派遣事業等を推進する。

事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し  
 (事業を取りまく社会環境)  
 少年の課題の背景は、本人の発達の特性や虐待・子育て不安など家庭の課題等、多様化している。さらには、これらの要因が複雑に絡み合っている場合もある。  
 (見直しや改善等の経過)  
 複雑化し解決困難な相談ケースに対応するため、週1回ケース会議や支援会議、関係機関との連携会議を持ち、共通理解と指導員の研鑽を深め、相談者や学校等に対し適切な支援を組織的に行う体制作りを進めている。

## 【事業分析】

対象(何又は誰を)	少年等20歳未満の者
目的(何のために)	少年の非行防止と健全育成
手段(どのようなやり方で)	相談活動の充実を図り、少年及び保護者に対する支援をあずくる活動や無職少年対策と連携し行う。また、各学校の状況を把握し、そのニーズや課題に応じて学校支援を行う。更には、学校、地域、警察等関係機関等と連携し、少年補導や立入調査を実施するとともに広報誌等の発行等を行い、少年問題や課題の市民の啓発を行なう。
成果(どのような状態にするのか)	非行(犯罪やぐ犯行為)や問題行動の未然防止ができ、少年等の倫理意識の高揚とともに少年等の非行防止・健全育成に係る環境や機運の醸成が図られる社会の実現。

## 【コスト】 (単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	18,371	18,405	18,494	16,413	16,413	16,413	16,413
事業費	1,895	1,992	2,081	0	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	230	227	230	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
一般財源	1,665	1,765	1,851	0	0	0	0
人件費計	16,476	16,413	16,413	16,413	16,413	16,413	16,413
事務・技術(人)	0.80	0.80	0.80	0.80	0.80	0.80	0.80
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	3.23	3.23	3.23	3.23	3.23	3.23	3.23
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

整理番号 0343  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2416 教育委員会少年センター  
 事務事業番号 00881 大津少年センター運営事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-25-30-40-00-05-00	大津少年センター運営事業費	教育委員会少年センター

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値							
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	
(活動)街頭補導回数	回	500.00	497.00	461.00	461.00	461.00	461.00	461.00	
		486.00	391.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(活動)少年相談件数	件	1,100.00	1,339.00	1,221.00	1,221.00	1,221.00	1,221.00	1,221.00	
		1,169.00	1,183.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果)補導人数(愛の 声かけを含む)	人	900.00	732.00	527.00	527.00	527.00	527.00	527.00	
		472.00	352.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果)相談の結果改善 がみられた人数	人	25.00	29.00	28.00	28.00	28.00	28.00	28.00	
		29.00	28.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準				評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A	妥当である		A	
		B	ほぼ妥当である			
C	あまり妥当ではない					
D	妥当ではない					
評価理由	少年相談支援や学校支援、環境浄化の取組が適切に行われている。					
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A	上がっている		A	
		B	やや上がっている			
C	あまり上がっていない					
D	上がっていない					
評価理由	学校や警察等関係機関と連携した取組が効果的に行われている。					
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A	効率的である		A	
		B	やや効率的である			
C	あまり効率的でない					
D	効率的でない					
評価理由	少年支援や環境浄化の取組が組織的・効果的に行われている。					
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A	貢献している		A	
		B	やや貢献している			
C	あまり貢献していない					
D	貢献していない					
評価理由	支援や環境浄化の取組が少年非行防止と健全育成に寄与している。					
評価理由						

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	日常の相談活動を通して個々の課題やニーズを把握し課題のある少年や保護者への支援につながるよう努めている。また、学校支援アドバイザー派遣事業を通して学校の課題やニーズを把握し学校支援アドバイザーを中心に所員がケース会議等で情報共有し学校支援を行っている。更には、地域、警察等関係機関と連携し、補導活動、環境浄化活動を通して、少年等が地域の見守りや健全に成長できる環境の醸成に努めるとともに、広報啓発活動を推進することにより健全育成や非行防止の機運を高め、少年問題や課題の市民の啓発を行なう。今後も積極的に学校、保護者、少年等に寄り添いながら粘り強く支援する。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
部局コメント (400文字)	相談活動を通しての少年や保護者支援、学校支援アドバイザー派遣事業による学校支援は、少年等の健全育成に寄与している。また、補導活動、環境浄化活動を通して、少年等の健全育成に資する地域環境や機運の醸成を図ることは、少年等の非行防止や健全育成に重要な取り組みである。今後も粘り強く非行防止・健全育成に努めていくことが必要であり、更なる充実を図りたい。		



# 事務事業評価シート（1/2）

1030 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0344  
評価年度 令和 3年度  
所属 2416  
事務事業番号 00883

進捗区分 評価完了  
教育委員会少年センター  
非行少年等立ち直り支援事業

所属長名 今井 公夫  
記入者 橋本 正輝

## 【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります				
基本政策	001	子どもの未来が輝くまちにします				
施策	002	子どもを守る仕組みの充実				
取組の方向性	001	子どもの人権の尊重				
事務事業	011	非行少年等立ち直り支援事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	その他					
評価区分	対象	主な取組区分	対象			

根拠法令等	滋賀県非行少年等立ち直り支援システム運営実施要綱				
事業概要	<p>(事業概要) 非行等の課題を抱える少年の立ち直り支援のために、個々に応じた指導・支援を行い社会性の育成を図る。</p>				
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	<p>(事業を取りまく社会環境) 刑法犯の件数は引き続き減少傾向にあるものの、社会に適応出来ない少年は増加傾向にあり、指導・支援が必要であり、個々の少年の背景も多様化している。 (見直しや改善等の経過) 少年の立ち直りや自立をサポートするボランティアの支援サポーターについては、平成20年度から市内の各大学に募集の協力を依頼し、以降毎年大学生サポーターの参加を得て、学習支援等に成果を上げている。</p>				

【事業分析】	
対象(何又は誰を)	非行をはじめ様々な課題を抱える少年やその家庭
目的(何のために)	個々に応じた目標を見出させ、少年を社会に適応させ、また非行等から少年たちを立ち直らせる。
手段(どのようなやり方で)	支援コーディネーターが支援計画を立案し、臨床心理士はアセスメントへの助言を行なう。ケースに応じて支援サポーターを活用したり、オンラインを活用したりして、生活改善や就学・就労等の支援プログラムを用いて立ち直り支援活動を行う。
成果(どのような状態にするのか)	目標を見出せさせたり、社会性を身につけさせたり、生活改善を図ったり、就学・就労支援を行ったりして、少年たちの立ち直りや自立を図る。

【コスト】		(単位：千円)						
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
		決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト		7,343	7,340	7,506	6,966	6,966	6,966	6,966
事業費		403	374	540	0	0	0	0
国庫支出金		0	0	0	0	0	0	0
県支出金		403	374	268	0	0	0	0
地方債		0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0
一般財源		0	0	272	0	0	0	0
人件費計		6,940	6,966	6,966	6,966	6,966	6,966	6,966
事務・技術(人)		0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15
技能労務(人)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)		1.86	1.86	1.86	1.86	1.86	1.86	1.86
嘱託(人)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費		0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

整理番号 0344  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 2416 教育委員会少年センター  
 事務事業番号 00883 非行少年等立ち直り支援事業

【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-25-30-40-00-09-00	非行少年等立ち直り支援事業費	教育委員会少年センター

【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値 下段：実績値							
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	
(活動) 支援少年数	人	12.00	14.00	14.00	14.00	14.00	14.00	14.00	
		13.00	16.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(活動) 支援回数	回	900.00	994.00	1,076.00	1,187.00	1,187.00	1,187.00	1,187.00	
		1,164.00	1,210.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果) 就学・就労数	人	3.00	6.00	6.00	6.00	6.00	6.00	6.00	
		3.00	8.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
(成果) 支援により改善がみられた数	人	12.00	13.00	13.00	13.00	13.00	13.00	13.00	
		11.00	13.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
評価理由	個々に応じたプログラムによる支援を組織的に実施している。		
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	A
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
評価理由	少年理解を基に個々に応じた支援を実施している。		
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	A
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
評価理由	個々の支援計画をケースに応じて関係機関と連携し実施している。		
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
評価理由	少年個々が安心して通所し生活適応や就学・就労につないでいる。		
評価理由			

【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	非行等の問題行動による立ち直りのみならず、ひきこもり等により社会的な自立が困難なケースなど、課題は多様化かつ複雑化しており、20歳未満の少年等の立ち直りや社会的な自立を支援することは重要である。少年個々の理解に基づき、支援プログラムを策定し支援し、少年一人一人が安心して来所し、活動することで自信や意欲を高められるよう指導支援を行っている。そして、今後も支援サポーターやオンライン支援を活用した支援を行うとともに、ケースによっては福祉、保健・医療、警察・保護更正、就労支援等関係機関との連携による支援を行っていく。このように本事業は、非行少年等の再非行の防止や社会的自立支援に効果的な事業であり、今後も継続して取り組むべき事業である。		

【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
部局コメント (400文字)	非行等の課題は多様化しているが、少年の理解に基づき個々に応じた支援を行うことで、少年等の立ち直りや社会的自立をめざす本事業は「あすくる」として定着しており、成果もあがっている。本事業は、非行少年等の再非行の防止や社会的自立等青少年の健全育成に寄与しており、今後もケースに応じて関係機関と連携を図り継続して取り組みを進めたい。		





# 事務事業評価シート（1/2）

1033 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0345  
 評価年度 令和 3年度  
 所属 8834  
 事務事業番号 00880

進捗区分 評価完了  
 教育委員会堅田少年センター  
 特別非行防止対策事業（堅田少年センター）

所属長名 松井 昭浩  
 記入者 松井 昭浩

## 【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画	
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります	
基本政策	001	子どもの未来が輝くまちにします	
施策	002	子どもを守る仕組みの充実	
取組の方向性	001	子どもの人権の尊重	
事務事業	010	特別非行防止対策事業（堅田少年センター）	
新規継続区分	継続		
運営方法	その他		
評価区分	対象	主な取組区分	対象
根拠法令等	無職少年等非行防止対策事業費補助金交付要綱		
事業概要	（事業概要） 無職少年のうち非行少年等に対して、就労・就学および適切な助言・指導等を個に応じて行い、社会的自立を支援する。		
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	（事業を取りまく社会環境） 無職少年は、離職をして再度非行に走るケースや社会的に孤立するケースもあり、継続的な就労支援や非行防止対策が求められている。 （見直しや改善等の経過） 無職少年は学校や職場からの指導・助言を受けにくいため、無職少年対策大津市北部地域連を開催し、情報の交換と共有化を図るとともに、就労に向けて関係機関との連携を強化した。		

## 【事業分析】

対象(何又は誰を)	中学校卒業後の15歳以上20歳未満の少年で、学校に籍をおかない者または社会通念上定職者と認められない者
目的(何のために)	無職少年の就労・就学及び自立更生
手段(どのようなやり方で)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談活動の充実を図り、対象少年及び保護者に対する指導・助言を行う</li> <li>・学校、警察、職業安定所等関係機関との連携を図り、実態把握と自立支援及び就労支援活動を実施する</li> </ul>
成果(どのような状態にするのか)	少年たちの生活習慣が改善され、意欲をもって就学したり、安定した就労ができるようになる。

## 【コスト】

(単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	3,431	3,451	3,465	3,443	3,443	3,443	3,443
事業費	2	8	22	0	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	2	8	10	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
一般財源	0	0	12	0	0	0	0
人件費計	3,429	3,443	3,443	3,443	3,443	3,443	3,443
事務・技術(人)	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	0.93	0.93	0.93	0.93	0.93	0.93	0.93
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0

# 事務事業評価シート（2/2）

1034 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0345  
 評価年度 令和 3年度 進捗区分 評価完了  
 所属 8834 教育委員会堅田少年センター  
 事務事業番号 00880 特別非行防止対策事業（堅田少年センター）

## 【関連予算情報】

予算事業	予算事業番号	予算所属名称
01-50-25-30-40-00-02-00	特別非行防止対策事業費（堅田少年センター）	教育委員会少年センター

## 【定量評価】

指標名	単位	上段：目標値						下段：実績値	
		令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	
(活動) 相談延べ回数	回	50.00	13.00	28.00	28.00	28.00	28.00	28.00	28.00
		16.00	40.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(成果) 就労・就学数	人	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
		0.00	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

## 【定性評価】

評価項目	評価の観点	基準	評価
1 妥当性	実施主体又は手段は妥当か	A 妥当である	A
		B ほぼ妥当である	
		C あまり妥当ではない	
		D 妥当ではない	
		評価理由	
2 有効性	事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか	A 上がっている	A
		B やや上がっている	
		C あまり上がっていない	
		D 上がっていない	
		評価理由	
3 効率性	事業手法は効率的であるか	A 効率的である	A
		B やや効率的である	
		C あまり効率的でない	
		D 効率的でない	
		評価理由	
4 施策への貢献度	施策目標の達成に貢献しているか	A 貢献している	A
		B やや貢献している	
		C あまり貢献していない	
		D 貢献していない	
		評価理由	
評価理由			

## 【所属評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
所属コメント (400文字)	令和3年度は、就労も就学もしていないことに起因する無職少年の相談者が増加した。就業や就労もしないこととで非行に走る少年や社会的に孤立している少年に対して継続指導を行うことは重要である。今後も、高等学校訪問や子ども若者総合相談窓口等福祉機関や警察、保護司会等関係機関と連携し無職少年の把握に努め、関係機関と連携し個々に応じた支援を実施できるよう、今後も無職少年対策指導員を配置して無職少年の非行防止と健全育成に努める。		

## 【部局評価結果】

総合評価	計画どおり事業を進めることが適当	事業の方向性	現状維持
部局コメント (400文字)	無職少年の把握や、個々に応じた相談・支援を関係機関・団体（保護司会等）と連携をとりながら、就労につなげた実績もある。無職少年の非行防止や、社会的自立の視点からもその役割は重要であり、今後も取り組みを進めたい。		



# 事務事業評価シート（1/2）

1036 頁  
令和 4年 9月15日

整理番号 0346  
評価年度 令和 3年度  
所属 8834  
事務事業番号 00882

進捗区分 評価完了  
教育委員会堅田少年センター  
堅田少年センター運営事業

所属長名 松井 昭浩  
記入者 松井 昭浩

## 【基本情報】

総合計画	03	大津市総合計画 第2期実行計画				
基本方針	001	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります				
基本政策	003	生き生きと健康に過ごせるまちにします				
施策	010	青少年の健全育成				
取組の方向性	001	子ども・若者の健やかな育成				
事務事業	008	堅田少年センター運営事業				
新規継続区分	継続					
運営方法	直営					
評価区分	対象	主な取組区分	対象外			
根拠法令等	北部地域文化センター条例・運営規則					
事業概要	<p>(事業概要)</p> <p>青少年の非行防止と健全育成を図るため、少年問題に関する情報・資料の収集や整備を行い、学校、地域、警察等関係機関との連携を図り、少年補導活動・相談活動・環境浄化活動・広報啓発活動等を推進する。</p>					
事業を取りまく社会環境とこれまでの見直し	<p>(事業を取りまく社会環境)</p> <p>少年の課題の背景は、本人の発達の特性や虐待・子育て不安など家庭の課題等、多様化している。さらには、これらの要因が複雑に絡み合っている場合もある。</p> <p>(見直しや改善等の経過)</p> <p>複雑化し解決困難な相談ケースに対応するため、週1回ケース会議や支援会議、関係機関との連携会議を持ち、共通理解と指導員の研鑽を深め、相談者や学校等に対し適切な支援を組織的に行う体制作りを進めている。</p>					

## 【事業分析】

対象(何又は誰を)	少年（20歳未満の者）
目的(何のために)	少年の非行防止と健全育成
手段(どのようなやり方で)	学校、地域、警察等関係機関と連携し、少年補導と実態把握を行なうとともに学校支援を行う。相談活動の充実を図り、少年及び保護者に対する支援を行う。広報誌の発行等を行い、少年問題に対する市民の啓発を行なう。
成果(どのような状態にするのか)	少年の非行（犯罪やぐ犯行為）の未然防止ができ、少年の倫理意識の高揚が図られる社会の実現。

## 【コスト】 (単位：千円)

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	決算額	決算額	予算額	計画額	計画額	計画額	計画額
トータルコスト	14,093	14,155	14,203	13,143	13,143	13,143	13,143
事業費	958	1,012	1,060	0	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	230	216	230	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
一般財源	728	796	830	0	0	0	0
人件費計	13,135	13,143	13,143	13,143	13,143	13,143	13,143
事務・技術(人)	0.43	0.43	0.43	0.43	0.43	0.43	0.43
技能労務(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
会計年度任用(人)	3.13	3.13	3.13	3.13	3.13	3.13	3.13
嘱託(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
臨時(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他経費	0	0	0	0	0	0	0



